

う。拂ひもしませう。纏まるからには岐阜魂、全マツダで徹底するとの金打、尙ほ驚いたのが前記の四天王、恐入つたよ三日間でマツダ會成立とはと、マツダの力に今更驚歎とある。中心のことを新らしい言葉でキャピタルライジングと云ふ。事業も人も信念のキャピタルライジング、換言せばキャピタルの進行形、進歩的の中心がなくては物は纏まらぬ進みもせぬと、泌々感ぜられる。

赤タン聯盟豫定

通り調印

赤マーク、タングステン真空電球 略して赤タンと呼び五、一〇、一六燭光。店賣貳拾錢協定値段設定論の本家名古屋の愛京電氣株式會社は今期は前期の賣上三十萬を五十萬に躍進させることに重役會決議し、名古屋出張所と共同戦線を張つて、着々たる進軍振を示して居る。八月七日午後三時、開拓地方本部（名古屋出張所）より愛京重役總員召集の電話が鳴る。三伏の折柄何事ならんかと岡田さん、富永さん、高松さん、渡邊さん、夫に常務の長谷川さん住友ビルに圓タクで馳付けると、正田所長より豫て御懇談を重ねました赤タン聯盟調印日取決定致しました故、重役諸公第一線に立つて調印に御努力を願ひ度い。但し所と割當數とが不明なる故、販賣員一名御同伴致させますと、重役名入の名刺を渡して明日より御出動を御願申すとのこと、ソコで翌日昭和八年八月八日午

前八時、岡田、高松の兩重役は愛知電鐵の超特急でスタートを切り、そして午後十時に歸名、翌九日早朝豫定通り調印が纏つたとの吉報を、開拓地方本部へ報告とした。

山梨縣下一圓に

五〇〇臺の

グライダーは飛ぶ。甲府辨理店が去る六月二十一日から八月二十日までの三ヶ月間、辨理店開設一周年紀念一萬五千個大賣出を華々しく展開した時の事、一般需要喚起方法として懸賞引札配布と共に、マツダランプの名を黒字で黄金色の双翼にクツキリ浮かせたグライダーを、先着五〇〇名限り進呈する事とした。處がグライダー大評判となり、夏休中の子供連中未だ戸も開かぬ早曉から、マツダランプ販賣店の前に行列を作り、先着順にグライダーを貰はんものとワイ〜押寄せ、押すな押すなの大騒である。一方刻々に電話で知らせて来る地方の情況も之又同様の大盛況。大月町の濱野屋さんからの電話「ヒコーキ一〇〇臺直ぐ送れ」富士吉田町の中橋出張所からは「ヒコーキ不足一五〇臺直ぐ送れ」と言つた調子で注文陸續、此の處グライダーは翼も引き千切れんばかりの引張風の體となり、縣下到る處での大歡迎に、參謀長の横田さん肝腎のグライダーは五百臺しかないので、電話での注文を聞く毎に、嬉しいやら困るやらの珍風景を演じたとのこと。

日滿提携は電燈 會社と電氣店の

間にも必要。和歌山辨理店では、今夏C-2商戦で華々しくデビューし度いと云ふ肚のある處へ持つて来て、丁度都合良くも合同電氣株式會社では、兼ねて計畫中の和歌山市内の晝光電球商戦は止めにし、郡部だけで行ふ事となつた。そこで早速辨理店では市内で實行と決めたが、サテ具合の悪い事には合同では四個一組一圓五十錢と云ふ話、處が辨理店では合同案に倣つて四個一組のセット賣とはするが、將來の賣價に對する影響を考慮し、賣價は一割引の一圓八十錢以下に下げ度くない。之では辨理店は市内、合同電氣は郡部と時を同じうして商戦を開始した時、同じマツダ晝光電球の商戦でありながら、足並揃はぬ支那兵の類であり、面白からざる結果の惹起は火を睹るよりも明である。そこで之はどうしても市部郡部共に辨理店の手で行ひ、一糸亂れざる統制の下に駒を進める事が絶對的に必要だと云ふので、合同電氣に此の旨交渉した處、合同電氣は宜敷しい解つた。「それでは私の方では郡部からも手を引きませう」と流石電燈會社の襟度を示し應揚な御挨拶、而も此の商戦に對し合同側から電球一個に就き三錢の勧誘獎勵金を、辨理店に寄附すると云ふ大變な御盡力振りに、喜んだのは辨理店の皆川さんの一黨、愈々もつて元氣百倍、善は急げと早速和歌山商工會議所樓上で商戦披露懇談會を兼ね、和歌山マツダ會第一回を開催、議一決和歌山辨理店開業披露C-2商戦と銘打つて、武者振勇しく出陣となつた。世間では往々電燈會社と電氣店とが相反目するのを見受けるが、之は結局互に我を張り慾の皮を突張り過ぎ

るからであるが、素々此の兩者は親子兄弟切つても切れぬ血縁の仲であるから、互に分を守つて則を越へず、手を携へて共存共榮の大道を行く、兩者渾然融和の理想を實現したい。

電燈會社と

電氣店との協力

カルピスと稱する乳酸飲料が初戀の味がすると云つて賣出せば、直ちにパイプペボの音を自由自在に操つた模造品が九つも出ると云つた時代風景、三菱經營のやうに眩惑させた丸ビルの丸菱と云へば、マネキンの元祖として知る人は知るであらうが、模造品やインチキは識者を擧げせしめて、常に龍頭蛇尾に終るが例である。と云つて扱つて自分の所ではどうか。カルピスとカルパスと一緒に陳列し、そして店舗の構が三菱の迷惑も何んのその、丸菱流のマネキン元祖式の廣告法を案出採用したとする。夫でお客が果して信用するであらうか、電球に就ても其通り、マツダランプにマストラランプ式の町工場ものを店頭陳列して、電氣屋で候と云つて永遠の繁昌が期待出来るであらうか。一般に電氣屋さんが覺醒せぬ限りとても電燈會社との共存共榮は望み難い。和歌山辨理店の開店記念賣出に當つて晝光電球四個一組二千五百箱とマツダ會での決定に當り、合同電氣會社が獎勵金として一個三錢の割で援助せられたことは、前記の通り電燈會社と電氣店との協力美談としては本邦稀に聞く快報であり洵に感激に値する。一般に斯くあり度きものと切望に堪へぬ次第。

福井縣マツダ會 の成立

金澤出張所の關川重雄君。臨時小賣開拓部に轉任以來先づ第一着に福井縣下をと、三十何度の炎天下を馳廻つて連判帳にベタ／＼調印を求め、今期の御約束數を計算して見ると、三萬八千個を突破して居ると云ふ有様。之はマツダ二十錢球（赤タン）の出現が一〇〇パーセントに歓迎せられ、之なれば必ず賣れると電氣屋さんの自信を強めた結果に不外とある。偕て之れからが賣價の統制と、福井市藤之家にマツダ會の創立總會を開催。食前三時間に涉つての座談會を開いたが、一統の結束彌々固きものあり、會則と協定事項の決議を経て、顧問に金澤辨理店の宇野さんを推薦、常務理事は金澤出張所より、又理事三名は會員の互選で具體的に組織せられ、小賣は協定値段嚴守、卸は二割以内勵行を申合したと云ふ事である。

京都市に十八の マツダ會

京都の小賣市場は平安電氣株式會社で統制を行つて居る。此處の取締役支配人の谷田貝莞爾さん、御先祖は上州館林の家老職道に御家柄だけあり、特約店四百五十八軒の重鎮としての信望を擔ひ着々としての發展で、今期のコンチンジャンは三十五萬個を突破と云ふ狀況である。今春來の調査準備彌々成つて京都マツダ會芽出度誕生とあり、其特色は京都市内を十八に區分して、各マツダ會より二名乃至四名

の役員に長谷部さん、澤さん、伊藤さん等の同社顧問の卸店主、又必要に際しては電氣業組合長、ラヂオ商工組合長等の参加を求めて聯合會議も開催する筈とある。蓋し賣價の統制と賣上の促進とは、獨逸式のサークル運動、即ち小區域少人數の圓卓會議で隔意なき懇談を遂ぐるに非ざれば實行は困難と、何處迄も實際的に仕組まれたる其勢や如何許り、其意氣込に前途が窺はれて洵に頼もしい。

東京市内協定 値段勵行

風を取つては糸と尾と地球の引力とは、風を抑制する反對の力である。此三つの抑制の不自由あればこそ、風本來の目的と眞の自由とが得られる。電氣店も本來の目的と眞の自由とを求むるならば、統制力や世間的の不由を是認し活用しなければならぬ。古來禍を轉じて福と爲すと云ふことがある。色々の禍こそ人間の活動を抑制する。之は不斷から警戒し用意し其措置を誤らず、寧ろ夫を轉機に善用してこそ人の器量と云ふものである。物の行違ひ行掛りの感情で電球の安賣をする電氣屋さんがある。そんな事があると一波萬波で一般に電氣屋さんが利益を失ふ。マツダ電球を例へ五錢や十錢安賣してもデパートの銘仙のやうに人だかりがするだけで、結局は骨折り損の草疲れ儲けと爲る計り、之ではいかんと東京に於ける濫賣防止委員會の活動と爲つて、東京市内の

販賣店は協定値段必ず勵行と云ふ有力電氣店主奮起となり、九月一日より猛運動が起つた。中央、城北、城南、山手の四卸會社では濫賣店には出荷中止を勵行することを發表したとの事である。

山手會社の

夜店マツダ説法

山手電氣の川筋専務多年の御希望。街頭進出實物宣傳は漸く機運熟して、去る八月廿三日第一回の試を四谷鹽町の夜店に於て實行の段取となり、此奉行を本澤常吉さん介添として神田憲章さん承り、マツダマークを染抜いた幔幕を張り、本澤さんの照明學校在外研究員の正證を掲げて、教材繪解イルミノアムメーターを備へ、八時より十時半迄二時間半本澤さん、神田さん交互に講演十回、熱心に聴講の者通計三百人に照明經濟を呼掛け、此間本澤さんの店員三名は諸般の雜務にピラ撒きに從事、電球を賣る目的で行つたものではなけれども、夫を分けて呉れとて十六個のマツダランプ賣上を見たのみならず、聴講のカフェーの主人自店使用の電球三〇ワットを持參し、試験して呉れとの反應あり。之がイルミノ試験を行へばマツダの二〇ワットの光力程度にて、ワットは三十六ワットと云ふ大インチキ球に主人喫驚違へば違ふものですね、將來電球はマツダに決めやうとの決心となり、本澤さん一軒よいお得意が出来た。之に刺戟せられた介添の神田憲章さん、早速自店の高圓寺で實行しやうと決心せられ、又見學中の在外研究員の大管さんお店は新宿淨

水池前夜店もあることなれば第二回は自分でやらうと決意せられたとのことである。因に當夜見學並に聲援せられた在外研究員は、右大管さんの外中村芳三郎さん、中村明さん、中村勝之助さん大崎祐康さんである、追々各店で御實行の筈と。尙本澤さんは四谷鹽町夜店の巻を翌廿四日引續き實行との由。

吳マツダ會成立

吳市のマツダ工作も着々と進展。先般愈々吳マツダ會發會式を兼ねた第一回座談會を、吳市のブラジル食堂で開催した。出席者は毛利さん、昭和電氣さん等の八人に廣島出張所の野村さんを加へて同勢九人。缺席者僅に二人と云ふ盛況である。開會は午後六時野村さんの挨拶宜しくあつて、座長に昭和電氣の宮川辨次郎さんを推し、會則は原案通り可決。次は役員選舉に移つて顧問に毛利利兵衛さん、幹事長に宮川辨次郎さん、庶務幹事に中田榮さん、會計幹事に住吉さんが御就任、以上終つて座談會に入り今秋の販賣増進策、販賣値段の協定等々を歡談裡に協議し和氣靄々として午後十一時散會した。三人寄れば文珠の智恵と云ふのに専門の御方が九人も揃つての御相談、今秋の販賣増進期して待つ可きものあり、膝附合せて歡談に疑心暗鬼もフツ飛ばしての賣價協定は吳地方マツダ網完成の一大礎石である。

福井マツダ會の 連判狀

金澤出張所の關川さん赤箱球をB球使つての新開拓。註文受は連判狀式と、最新式兵器應用で安球兵匪の掃蕩に車輪の活動中であつたが、愈々福井マツダ會も芽出度成立。發會式は福井市木町藤乃家で開催。契約書にも契約店十六軒が連判狀の方式に従ひ、上は壹萬個から下は百五十個まで大體順序良くチャンと記入されてゐる。處で驚くのは全軒の半期間最位販賣豫定數を締めると三萬八千五百五十個となり、之を前記の金澤辨理店の賣上高に比較して見ると實に七五%に當る事になる。金澤辨理店の區域は此の外に膝元の石川縣に富山縣の二縣を擁し、福井縣一縣だけでも此の有様、蓋し連判狀の威力は元録の壯舉のみに止まらない。

城南マツダ會

店主講習會

三日讀まざれば言語味なしと云ふ。さりとして讀書三昧の餘裕はない。ソコで一人に接すること恰も一卷の書籍を繙くが如しと云ふ。溫古知新のプログラムを依頼し度いとあつて、城南マツダ會理事長森田音由さん、(城南電氣専務)よりの御希望により、照明學校で一日店主講習會が開催せられた。三枝守友さん、園部光さん、公文達さん等合計四十三名。第一區に至る役員級オンパレードと云つたお揃ひ。清水副社長は歓迎辭中十年経てば總製品の半分迄新品に代る内外の實例、人間の有つ無限の展開性と研究の機能を高調せられるところがあつた。又太田照明課長は東京電氣は明治二十三年故

藤岡市助博士創立の白熱舎から始まり、恰度今年が四十四年目、雜つと半世紀に亘る歴史を述べられた。マツダランプの賣上高の増加は驚く許りであるが、更に驚く可きはラヂオ計器其他の新製品が殖へて居り。其賣上高が實に凄まじいことであつた。此日西岡俊雄さん、今井孝さん、伊東禿さん等夫々専門科目に就て講述せられ、關校長佐伯女史の實演並に講義等あり、一同來る度毎に新智識を得るとの大喜悅であつた。

松山辨理店の

連判狀

コロンブスの亞米利加發見と、伊豫の國とは不思議な因縁が有ると地理の先生が被仰る。よく承つて見るとコロンブスの亞米利加發見は西曆一四九二年で「イヨノクニ」である。斯様なお話は少年の記憶に資する丈けでなく、伊豫の國がプライトな姿で頭に印象せられる。松山は由來野球が強い。此邊一寸亞米利加に似て居る。似て居る所は又一事が萬事で活動性にも表はれ、其進歩的な片鱗が辨理店の作業にも反映して居る。承る所に依れば愛媛縣下の電氣店七十餘軒に對し、從來の賣上を斟酌して定めたコンチンジャンが二萬六千個、之を目標として縣下一順連判狀に引受個數を記入させて調印を求めやうと云ふ。本部推獎の連判狀式販賣術を率先採用せられたと云ふことである。

天満マツダ會の 會員募集

天満區域の登録特約店は十八軒、彌々天満マツダ會の結成が出来、理事機關によつて此地區の需要數とコンチンヂヤンの問題を仔細に研究して見ると、十八軒中には廢業やら轉居やらあり、店數とコンチンヂヤンの總數とに不平衡を來すことを發見したので、特約店募集を申合せたとの事である。

築港マツダ會の 方面新開拓

築港マツダ會の登録特約店は十二軒ある。之では他のマツダ會と對抗上淋しいのみならず販賣網が荒過ぎる。須く會員を殖やすに如かずと、大島、川瀬兩理事より港ラヂオ商會外五軒の紹介あり。阪神共同會社に於ては夫等の信用調査を行ひ、株主卸店と信用限度を協定して、取引口座を開く事となつた。

マツダの陣太鼓

チンドン屋と紙芝居とは建國二五九二、三年の街頭風景であつた。偕次の藝當をと常に考へ續けて居る東京出張所の砂田茂さん、沼津の長倉新太郎さん（静岡の壽美屋電氣株式會社顧問）を訪問の途、三島神社に賽した時耳に響いた太鼓の音にヒントを得てマツダの陣太鼓を造つた。直徑二尺一寸黒胴に皮は赤の漆塗、マツダマークの白抜模様、之を二人の人夫に擔がして、ドロン／＼と大東京を隅々まで觸廻そうと云ふ趣向、芝の増上寺珍藏の關ヶ原の陣太鼓に略似てゐるからマツダの陣太鼓と好一對、此太鼓を特約

店の店頭に掲げて、マツダの民謡の調子に叩けば、不景氣退散お店繁昌疑なしのグロテスクなお呪ひになる。昔希臘では之をホーカーズ、ポオーカースと云つたとやら、疾くも此珍趣向は深川マツダ會の人氣を呼んで、我も我もと申込殺到、陣太鼓息つく間もないと言ふよい景氣。

自然に出來た

荒川マツダ會

以前から南千住には荒川電機工業組合があつた。組合長は山崎電氣商店の御主人。顧問に市會議員の田中榮藏辯護士、組合員十二名、其外貌は堂々たるものであつた。處で城北會社の中井輝男さん、此連中にマツダを賣らす方法はないものかと多年早大で學んだ學理に照らして苦心中、前期の後半に入つて、膝も談合、大野さん、塚本さん御兩軒にもう五千個此際引受けて貰ひ度いと鼎座の協商は更に山崎組合長をも加へてのことゝなり、夫では組合で引受やう。各店の代金決裁は毎月十日の無盡會で行ふてはと話は纏まつて、組合員一同と田中顧問とに正式に相談に及ぶと一同異議なし。各店の引受數を其席で纏めて、城北會社よりランプは會長の山崎さんに届け、會長より配給を行ふことゝし、名前も荒川マツダ會としようとして決定。前期末に此方面豫定外五千五百個の注文獲得で、中井さん城北會社販賣員中最優秀の成績となり、爾來約束通り支拂ひはキチンキチンと

決裁され、賣價の統制が出来、賣上は向上の一路を辿り、大野さん、塚本さんの御兩軒も大喜び許りか、城北電氣會社の松井茂樹専務は、南千住は好調で今期は十二軒の賣上が一萬五千個になりそうです。全く中井さんの偉勳ですとニコニコ顔。商談のプッシュが自然に生んだ荒川マツダ會の存在は、吾人に偉大な教訓を與へた。

九月初旬廣島

シンヂケート

は來期の豫定を確立す。廣島マツダシンヂケートは山本さん、梶さん、澤さん三店で結成されたものである。今期六月初頭より責任數と賣上との比率の點に於ては卸會社辨理店中のトップを切つて王座を占むる活躍を續け、十萬個の豫定に對し十二萬五千個は確實であらうと云ふ見込とのことで、疾くも九月初旬に昭和九年上期の豫定十五萬個を確立して、福山のマツダ會の創立を俟ち、廣東、廣西、吳、尾道と五マツダ會に愈々コンチンジャン主義の連判狀を實行の計劃を樹立されたと云ふ。廣島出張所の野村務さん「時折中央都市の融通投物の流入があるが蕙に包んで故買員の如く夫に運送途中の事故等を考へれば、電氣屋さんの仕入は却つて割に合はない。コンな事をお互にして居る間は、賣價の統制が取れず、結局お互の損失、投物にはマツダのサービスがないから、斯様なランプはボイコットするに限ると云ふ話がポツポツ出て居る。私は買ふなら四割五分以上敲いてお貰ひなさい一割五分以上の開きがなければソンの物は算盤に合はぬでせうと云つて居

ります」と朗な報告。

四條マツダ會の

發會式

四條マツダ會の理事會を、平安電氣株式會社會議室に於て開催して、諸般の打合を行つた内、發會式に關する事項の報告を摘録すれば「發會式は廢して茶話會的に行ひ、發會式の費用を以つて會員章と會員手帳とを作成し、會の權威の高揚に資することはもとより、實惡例を貽すが如き冗費は之を節し、目的遂行に貢獻を期すること」とある四條マツダ會は京都の中心、このブロックから、この發意遙かに其發展を祈る。

或日の葉書

日報の摘録

深川區斷然賣る氣あり。第一位を獲得すべく猛進するを約す。賣出しも一層景氣付ける意氣込なり。(第十區座談會の日)この日五軒訪問三軒よりの註文數壹千六百五十個
中央電氣商店 田川 盛雄
全區域に亘り集金状態普通なり。受註軒數四軒、小賣値段嚴守に付各得意に相當のセンセイションを起し目下善處策を具體的に考慮中。受註數電球四十個眞空管十二個

城北電氣會社

堀

徹

本日午後二時より西成マツダ會理事會を本社二階にて開催……小生初めての經驗にて結局上司の方々の後援を多々受け、非常によき體驗を得たり。今後は單獨にて進む豫定なり。本日特に注意すべきと思はれたる先方の要求「協定値段表は木か金かで造れ」である。阪神共同電氣會社木下義尚さん五軒歴訪。東部マツダ會調印（連判狀）數量貳千貳百個、松坂屋訪問、受註普通電球百五十個、豆球百個、電氣時計七個

愛京電氣會社 吉田新兵衛

本月分豫定一萬二千個（赤箱）は本日（上旬一週間）にて獲得済にて、其上約二千個オーバの有様に候

金澤出張所 關川重雄

大分電氣株式會社のプロフキル

本年六月一日より營業を開始した大分電氣會社は、大分縣下の小賣市場開發と、久住電業外五電燈會社及大分セメント外三自家用のサービスとを擔任し、別府の瀬戸さん、大分の明視堂さん、中津の深尾さんが重役として參加、木屋竹輔さんが支配人に就任。創業以來着々電球も真空管も優秀なる成績を上げつゝある。秋期に入るや疾くも宣傳ピラの配布を行つたが、其方法は「電球の消費ワットの差により一箇年間に生ずる電氣代の相違」に重點を置いた宣傳ピラを、従量燈需要家中二十燈以上の家々に對しては、其主人宛に別に書面を添へて郵送し、又小賣店の店員よりは見込ある家

々の主人にピラを手渡す方法により、縣下三萬枚を配布した。此思索は従量需要家に呼掛ける式により電燈會社の歡心を得ると共に、新聞折込の如き、ヒット、オアー、ミスの粗雑な取扱ひを爲さず。何處迄も小賣店との汗の協力によつて、有効に宣傳の實を挙げやうと云ふ、苦心の伴つたものであらう。

照明學校て創立總會を開いた

世田ヶ谷マツダ會。世田ヶ谷區は城南電氣會社の區域である。特約店の肥後さんを理事とした第十二區マツダ會々員數十二名であるが、地圖を披いて其點綴せられた販賣網を見るに、廣大な一面がサハラ沙漠帶の如く目に映ずる。ソコで東京出張所の砂田茂さん市場調査を行つて見ると、井上實さん一統十五店の工事屋さんの系統があることが解つた。井上實さんに話して居る内、此新開地今こそ工事が多忙であるが、廳では震災後工事屋が行詰つたと同様の體驗を繰返さねばならぬであらうと杞憂中とある。工事屋さんが電氣器具の販賣兼業に轉向は唯時期の問題である。此際に實行せられてはとの砂田さんの勸告は、井上さんには空谷の聲音と響いて苦心は解決した。第一にマツダ電球からと、即座に工事的の町球を放棄しての決心。一令の下に十二名は集つて善は急げ照明學校の見學。其席で城南第十三區世田ヶ谷マツダ會の創立となつた。之により世田ヶ谷區は二十七軒の特約店は肥後さん、井上さんによつて統制が行はれ、販賣數も自然に倍加になることゝな

らう。

広島では電燈會社 と電氣店とが提携

広島電氣株式會社と云へば中國電氣界のナンバーワンである。從來春秋二季にホームカートの電球特價販賣を實行した爲め、電氣屋さんの反感を買ひ、勢ひ電氣屋さんは安球賣りて之に對抗と云ふ不自然極まる現象を呈してゐた。そこに本年四月本社の野村さんが、広島出張所に赴任し、銳意シンジケートの成立續いてマツダ會の設置と努力してゐたが、電氣會社電氣店の骨肉相噛む此の現状では到底電氣店の賣上は伸びて行く道理がない。そこで廣電の幹部と懇意づくで胸襟を開いて話合つた結果、遂に廣電も幡然悟られ、從來の春秋二季の電球特價販賣は全廢し、其の代りとして外廻りと稱する專屬サービス係を二人一組として三組常置、之が毎日市内を巡廻して協定値段で赤箱マツダ電球を賣り、同時に器具の註文もとつて來る事にした。且又今後電氣店が賣出し等を行ふ時には廣電も參加すると云ふ兩者の提携が出來、此處に広島市内電球小賣協定値段維持の一大礎石が築かれた。賣價の保證は同時に利潤の保證、そこで電燈會社と足並揃へてのマツダ販賣の實蹟が擧る事となつた。

時計屋さんが マツダの販賣店

になつた話。福島縣喜多方町に日進堂と云ふ時計屋さんがある。此店の電燈は三十七燈點いて居る。ソコへ會津辨理店が投込んだピラが「嘘のやうな本當の話」之を讀んだ御主人、店にも相當電燈を使つて居る。物は試したマツダに全部取換へて見やうと今迄の安球と差替へて、一ヶ月經ち二ヶ月過ぎると觀面メートルは下り、嘘のやうな本當の事實に信念を得。マツダランプの販賣は功德になると六月より電球を賣出した。時は日永に向ふランプの不況期にも不拘、場所柄もよし老舗のことで、六、七、八の三ヶ月に四百七十個の賣上があつたと云ふ。

マツダ會のコン テストは白熱す

東京四卸會社は各マツダ會理事名を以つて、八月一齊に會員に所屬マツダ會の割當數の實現が入賞資格の絶対條件なること、此割當數の實現には卸會社と卸店との約束數を賣つて貰はねばならぬ。そして特別の協力によつて一等賞(百五十圓)を獲得し、一同揃つて温泉旅行でも出來るやう御盡力を希望する旨を通達し、爾來各マツダ會は此競技會を議題の中心に取扱ひ、店飾り、ウキンドーの化粧、三種の旗掲揚、さては街頭宣傳、全マツダ日の實行等々總動員の結果は日々新記録續出となり、愈々スポーツ精神は發露され賣上競技は將に白熱點に迄展開されて居る。

深川帝友會理事 マツダ黨に改宗

深川區森下町石川電氣商會は深川の資産家、電氣屋さんとしても相當な老舗である。深川帝友會の理事として一統の頭目であるが、時勢に鑑みこの程マツダ黨に改宗したとあつて中央電氣會社へ初註文千二百個、帝國ランブ其他の町球は斷然手を切つたとの事である。

日本電力會社驟然 協力主義に轉向

小田原、平塚兩市及神奈川縣下の一部を供給區域とする日本電力會社は、マツダランプの特價販賣を年々實行し、其都度電氣店の憤慨を買ひ、電氣店は又ボロ球を以つて盗用の助長を爲すが如き結果に陥り、双方の不祥は云ふ迄もなく金港商會は中に立つて市場の統制に惱んで居たが、秋元専務日本電力への數次の交渉、漸く奏效して、日本電力では電氣店と協力してマツダの普及に便宜を與へやう。引札には従量燈需要家へのお勧めと明記して呉れ、然らば日本電力會社後援と銘を打つても宜敷い、又講演會でも開くなら場所も辯士も會社で便宜は計つてもよいとの話になつたとの事である。

諏訪辨理店の近況

長野縣諏訪郡岡谷小井川の金萬電氣商會増澤繁さんと辨理店契約が成立したのは、辨理店開基の會津の調印、翌月の昭和七年三月一日であつた。

今期は第四期に當り前年同期に比して七割増の一萬七千個の賣上が豫想せられて居る。上諏訪の販賣店十九軒殆んど全部がマツダは高價で賣れぬ。仲間の競争で利益がないから扱はぬと以前は云つて居たものであるが、今では其内四軒迄所謂背負賣と云ふ山岳地方數十里に涉り、電氣用品を賣歩く外交員にマツダを背負はして販賣さすと云つた氣の入方、又鹽尻の販賣店へ六里も離れて居る山間の山家からマツダランプを時々買ひに来る。尋ねて見ると安球を使つて居たが斷線が早く、五個六個買つても又買に出かけなければならぬ。ソウするには一日掛りで甚だ面倒だからマツダランプにしたらソンの心配がなくなつたので以來電球はマツダに決めたとの話であると云ふ。先頃諏訪マツダ會開催の時以上の噂が出て、列席の今井硝子店壹千五百個、春日電氣店壹千五百個と云ふ風に夫々註文確定、斯くして今期一萬七千個の受註を得たとの事である。

山手マツダ會の 主婦の會

山手マツダ會は理事會の決議によつて、電氣店の主婦に電球の知識を充實することの必要と云ふ見地から、一日マツダ照明學校で主婦の會を開催した。第三、第四、第六、第十一區長であり又照明學校在外研究員である中村芳三郎さん、本多三良さん、小俣平さん、岡安三雄さんの四理事主催せられ、日頃之丈は主

婦として知つて置かねばならぬ事、且つ又電気店主として痛感して居られる點を列舉懇述せられた。後照明の比較實驗からバルブ工場を見學せられ、和氣靄々の内に終了した。

成田の御不動様が マツダの御採用

成田の御不動様正確に申せば成田山新勝寺、現代的の事から云へば幼稚園、小學校、中學校、女學校の經營者。電気方面から見れば自家用需要家で百キロの消費者である。主任技術者は東電系統から推薦、ランプもトウランプ使用、燈數六百燈と云ふことである。或日千葉辨理店の顧問佐倉の河合秀一さん新勝寺の購買部へ出頭、マツダを勧誘されたが、坊さんでは埒があかぬ。主任技術者にお目に掛り度いと會つて見れば多年お馴染の足立さん、曾ては河合さんの部下であつた人、懇意な間柄には掛引がない。義理でトウランプは使つて居りますが矢張り駄目です。貴方が御關係ならマツダにしませう。私も傍ら此町で電気屋をやつて居りますから、マツダランプの戸別勧誘も暇々にやりましたせうと云ふことになり、お不動様マツダの採用に亞いで成田の町々にマツダの普及が行はれることゝなつた。

自家用 蓬萊屋の巻

成田のお不動様の門前に蓬萊屋さんと云ふ喫茶店がある。料理兼旅館で燈數五百燈、自家用需要家で、鈴木電気店の御主人が主任技術者を勤めて居られる。電球はキンセンランプとある。此鈴木さんは元帝國電燈から東電へ引續いて勤めた人、佐倉の河合秀一さんマツダの勧誘に行つて見ると右の次第、ソコで話はトントン拍子宜敷い全部マツダにしますの應諾とのこと、東京出張所の松平さんから右の報告にヒントを得て、本部では百キロ以内の自家用の主任技術者は電気店主の兼務を普通とするらしい。其人が解りさへすれば話は早い。販賣術の第一課アプローチとは直接責任者に接近することを教へるが、マツダの優秀經濟は電気業者の常識であり多言を要せぬ。其よく解つて居る人に接近さへすれば話は即決。特別の事情のない限りマツダ採用は請合ひ、而かも其店を通じてのサービスとあれば、百年のサービス満點の効果が收められる事であらう。

伊勢丹の チウブラランプ

都の西北を扼し一日に吞吐する人の數は東京驛を凌駕すると云ふ新宿驛、それを中心とした朝夕の所謂新宿はあらゆる階級の交響樂。宵闇迫れば文字通りの肩摩毆擊眞正直な田舎のポット出等到底一步も歩けるものではない。此の雜沓を見下ろして巍然として立つ伊勢丹デパート、此の建築請負の仕様書には「マツ

ダ管型電球を使用の事」と云ふ一項がある。丁度伊勢丹の隣同じデパートのほてい屋はK電氣店の御得意、そのショウケースの中にはマツダ四〇W電球が燦然と輝いてゐる。K電氣店のSさん、ほてい屋の隣に伊勢丹が立つと聞くや、是非共之もマツダの手でと早速伊勢丹へ御百度を踏んで口説きにかゝり、百方手を盡してマツダ電球の優秀を推賞した。その結果伊勢丹も此の熱に動かされ右の一項となり遂にSさんの勞報いられてK電氣店に芽出度く落札となつたと云ふ去る十月二十八日華々しく開店した伊勢丹全店二千幾百本の管型電球はSさんの徹底的頑張りの賜物であつた。

水戸マツダ會が とりもつ

ラヂオ商組合員和解の巻。水戸市内のラヂオ商組合の十二人は、どうした事か一年程前から結束亂れて四分五裂、群雄割據の戰國時代を現出し、御互に困り乍らも意地の張合をやつてゐた。處が本年五月石川一二さんが吾社の水戸辨理店を引受けられるに及んで、是非とも同地の電氣商を糾合して、マツダ會を作らねばならぬと云ふ事になつたが、サテ現状は右の通りとあるので之は東京電氣の名でやるに限ると、東京出張所の松平さん水戸に出馬、マツダ會招集の電話を掛けた處驚く可し組合員十二人の中十一人迄定刻にチャンと集合、互にヤアヤアと云ふ譯で久濶を敘し、今喧嘩してゐる人々とは見へぬ和ごやかさに、マツダ會發會式は豫定の通りスラスラ運び、就ては九月、十月、

十一月、毎月一回宛マツダ會員たる電氣店主或は店員參加のチンドン屋宣傳隊を組織し、マツダランプの大宣傳をやらうと云ふ事になつた。誰々さんは第一回に、誰々さんは第二回目と、キチンと會員を三回に割當て、第一回は去る九月二十四日に四人のマツダ會員が參加し、電球の大きな作物二個を加へたチンドン、オン、パレード勇ましく水戸市内を練り歩き、百パーセントの効果を擧げたとの事。處が面白いのはマツダ會の會合が終つてからの十一人の組合員、別室に席を變へて今度はラヂオ商組合の會議を開いたが、既に先刻仲直りの出來てゐる皆の事、此迄の事は一切水に流して元通り、仲良く商賣に勵みませうと、シャンシャンの手打も朗らかな和解的一幕は夜の二時。翌日松平さん迄に之と云ふのもマツダ會の御蔭ですと、御禮の御挨拶があつた。

川口市の 釣桿屋さん

甲府のF電工社と言ふ電氣屋さん。先日新聞紙上に一〇〇ワット六五錢の處四五錢、六〇ワット六五錢の處二五錢と堂々と自家廣告をやり、他の同業者を困らしてゐる。處が此の間の某紙に依れば、二十萬圓以上を捌く埼玉縣川口市青木の特産釣桿の製造業者。今までお互にツマラヌ濫賣競争をやつてエライ馬鹿を見たといふので、こんど同業者四千餘名組合を作つて販賣統制をやり、序に若干値段もツリ上げやうと相談したとある。一方は他人の迷惑もお構まひなして値段を下げる、一方はお互に

値段を上げて仲良くしませうと言ふ。此の二つの話の間には天地の差がある。尖端を行く電気屋さんにFさんの様な人があるのが不思議な位、川口の釣桿屋さんの方が餘程頭が進んでゐるやうだ。吾人のマツダ會設置、賣價の統制も結局この釣桿屋さんの理論と同一、薄利多賣とダンピングを履き違へず、而も値段をツリ上げると云ふ釣桿屋さんの意氣學ぶ可きものがある。

御輿宣傳の威力

先日中央マツダ會の理事塚崎屋電気商會から、中央電気商店（卸會社）の椎橋さんの處へ電話が来て「御輿行列の宣傳前は店に来る御客の注文は、他製品が八〇パーセントでマツダが二〇パーセントだったのに、宣傳後はマツダ九〇パーセント他製品一〇パーセントと云ふ形勢逆轉には全く驚きました」と大満悦であつたと云ふが、目明き千人目くら千人の此の世の中何事も宣傳が第一と首肯せられる。

甲府辦理店東西 マツダ會發會式

甲府辦理店の横田さん賣價の維持は利潤の保證。電気店の各自の疑心暗鬼の解消にはマツダ會の設立その健全なる發達が第一と云ふ本部の主義に共和し、甲府市内を東部西部の二部制に分け、而も會場は料理屋等では眞面目な會合は出来ぬ。世は非常時堅實にと云ふ譯で商賣の元締甲府商業會議所のホールを借り、愈々去る九月二十八日夜東部、續いて翌晩は西部とマツダ會の發會式を舉行した。何分甲府辦理店創設以來始

めての全販賣店一人も残らず出席と言ふ劃期的な會合だけに、更新の氣は堂に滿ちマツダ會の名のもとに全會員打つて一團の融合親睦が見られ、殊に郊外の販賣店主は定刻に遅れては一大事と、電車或は自動車を利用して會場へ馳せつけると云ふ熱心さには、横田さんも恐れ入ると云つた有様であつた。兩晩共横田さんが幹事長となり挨拶に續いて新規販賣店の爲に東京電気會社の概況、辦理店の概況を説明し、次いで製造元販賣店需要家三者の融和を強調、更にマツダ會の性質及目的の解説。今期商戰に對しての奮闘について希望と云ふ順序で議事は進行したが、引續いて滿場一致を以て販賣店はマツダ會の名のもとに協定値段勵行、不正商人の撃退、安球の壊滅、全縣下マツダ化の徹底、イルミノの活用等を決議し終つて會員から種々意見所感百發。かくて會は終始盛況を極め最後に高らかにマツダランプ萬歳を唱和し、高揚された意氣と感激の交錯裡に閉會したと云ふ事である。一種地に落ちて萬葉の花とならぬもそれを育てる人の心次第、作つた時の氣持を忘れず、常に魂を吹き込んで行く事の必要が痛感せられる。

電燈會社へ イルミノ戰

地方の電燈會社の中には、マツダの良いことは知つて居るが間に合へば夫で結構と云ふので、他製品中比較的名の知れて居るものを採用せられる向もある。大分縣南海郡蒲江町の蒲江水力電気株式會社は從來アサヒ電球を採用して居られた。ソコで小倉出張所の松浦豊喜さん一日イルミノアムメーターを、携

帶して同社に赴き、主任技術者の小幡辰男さんと一緒にアサヒとマツダとの比較試験を行つて見ると、十、十六燭光共にアサヒはマツダに比較してワット数が何れも二ワット強多く、而も燭力はマツダに劣ることを明かに知る事が出来た。同社には五〇キロの水力発電所はあるが、湯水の時九水會社から月最低八、七六〇キロを受電して居り、毎月最低量を相當超過して居る現狀に徴し、又點燈二千五百燈數に對し小幡さんが採算せられた處、マツダ電球を採用せば年間七百十四圓の電力料金が節約せられることになり、斯くては假令アサヒランプを無代で使用しても猶損失を蒙ることを衷心認識せられ、電球の撰擇は誠に大切なこと、合點せられ、延取引の契約書にポイント判押を捺されたこと云ふことである。

岡山の電球 經濟研究所

岡山市西大寺町と云へば大阪の心齋橋筋と云つた中心街。此處に堂々たる店看板墨色鮮かに「電球經濟研究所」とある。更に店前左右に白布をたれ、一は「マツダランプ臨時宣傳部、電氣店でお買求め下さい。こゝでは賣りません」と又一は「電球を御持參下さい無料で比較試験をして差上げます」とステートメントを公表し、マツダランプの赤襷を掛けた洋服一名、和服一名の社員がデビューした。之は初秋十日間の珍事で市民の注目を相當に引くものがあつた。此處に仕掛けたイルミノは又要所々々の電氣店々頭に備へ、期を同じふして岡山市内五個のマツダ會總聯盟の引札「電球はマツダラ

ンプ嘘のやうな本當の話」は市内一圓に配布され、斯く初秋の氣勢を煽つて商戦の火蓋が切られた。

伊豫の今治と西條

伊豫の國は松山辨理店の井菱商會によつて市場の統制を行ふが、市場は更にマツダ會に細別して今治には連判狀式に加盟店を懇懇と云ふ方針に出た。割當數は店舗の格式に従ひ大體を定め、談合を重ねると多少の相違はあつてもコンチンデヤン總數はOK。而かも從來アンチ、マツダであつた四軒迄、マツダ黨に改宗しての加盟、責任數も引受けたと朗かにマツダ會の發會式には會てない市内八店全部の顔揃ひ、吉村さん(吉村電機商會)を幹事に御願し。又西條町にありては新居、宇摩兩郡同業者十三店、岩本電氣商會を中心として共同購買の形式をとり、一切岩本さんの御指揮の通りやらうと頗る圓滿な申合が出来たと云ふ。

水戸辨理店土浦 代理店の三友商會

過般東京出張所の松平さんが兩毛地方に名馬探しの旅に出た時、土浦町に三友商會と云ふ良駿ありと聞き、早速色々取調べて見た處土浦の電話工事を一手に引受け、而もオールマツダの電氣屋さん。小賣で月百個の賣上げがあり。マツダ以外は決して賣らず。店主の渡邊誠さん店員共に、安球を買ひに来る人

には「マツダ一個は安球三個より遙に得」と力説してマツダを買はせてみると云ふマツダ黨の御仁だ。渡邊さんは土浦で自分だけをマツダ電球取扱店にして貰ひ度いと御希望。それではと松平さん、土浦町の電氣店十軒を貴方に御委せしますから、此等を糾合し土浦マツダ會を作り貴方が監督され、年間六千個は必ず引受けて頂き度い。渡邊さんもこれで日頃の念願成就と水戸辨理店土浦代理店と名乗を挙げ、保證金も納めて愈々土浦方面の販路開拓に従事する事となつた。水戸の本丸土浦の出丸、互に相寄り相扶けての今後の奮闘、千葉辨理店の櫻井さん河井さん組。足利辨理店の秋山さん蛭間さん組と相對應してダブルス戦の名技は今後の活躍振が期待せられる。

徳島辨理店の披露とマツダ係

の實地指導。伊藤格治さんの葉書日報から抽出して、徳島辨理店の披露からマツダ係多田守さんの實地指導繪巻物を展開すれば。

十月十日 披露會及マツダ會發會式は十二日午後四時より魚治料亭にて舉行の事に決定。午後は之れが案内賣出の説明註文獲得の爲め、辨理店マツダ係多田さんを同伴市内各販賣店を歴訪す。

十月十一日 昨日同様受註率極めて良好。各店の賣出期間中の責任數を決定す。而してマツダ

係はスツカリ悦に入り「要領は判りました今後は小生にて引受け努力すべし。」依つて明日は手分けして廻る事と爲す。

十月十二日 マツダ係と手分けして廻る。午後五時より辨理店披露會マツダ會發會式を市内魚治料亭にて行ふ。東京電氣側として小員より挨拶辨理店設置の意義及設置迄の経緯、マツダ會に就いての説明を爲す。終つてマツダ會幹事二名を互選。川島木村兩商會主當選、直ちに値段の協定に移り満場一致にて小賣協定値段嚴守を申合す。

十月十三日 辨理店應援の第四日目、最終日として市内の工場及撫養町の電氣店にマツダ係を同伴。註文受並に賣出期間中の責任數協定の爲め訪問。本日も引續き受註率良好、前後四日間に亘る應援にて徳島縣總註文受數一萬十九個。而してマツダ係も前後四日間に亘り小員に隨行大體の要領を會得し、兩三日中に廻り残りたる郡部を一巡する由なれば相當の成績を上げ得るものと思考す。

得意歴訪數の日本新記録

中央電氣商店の田川さん名詮自稱。盛んに雄躍日本記録を創作して居る。或日の日報によれば今日は非常に驚異すべき記録が二つ出來た。(1)チラシ一萬二千枚配布したこと(2)御得意四十八軒廻つたこと、あり尙御得意にはチラシ一枚も配布せず、区域内(本所區第十二區)に配付。其効果が見物であるとの由。

此日受註二軒より二百個とある。蓋しチラシを自分で配布しつゝ、お得意を廻り、受註に努力の傍らチラシ配布の効果に研究的の態度を持し、而も配布數に於て又得意先歴訪數に於て日本記録を作つた。

マツダ會同志の 廣島では廣東、廣西の二マツダ會に吳、尾之道の四マツダ會で競技會を行
コンテスト ふ事となる。各自策戦計畫をささ怠りなかつたが、廣西マツダ會でも嵐
幹事長を始めとし、粕谷、藏本兩幹事に出張所の野村さんを加へて先ず幹事會を開催、相談の
結果、何はさてき措き座談會と云ふ事になり、それでは我々が手分けして會員の宅を個別に
訪問しせうと云ふ三幹事の熱心振に、未だ會を開かぬ内から既に意氣敵を呑む有様、その他の
會員とても何れ劣らぬ一騎當千の剛の者、出席率は100%闘志満々。座談會は嵐幹事長の司會で
開催、劈頭コンテストの第一等を目指し全員一致團結を誓ひ、第二には宣傳方法として東西屋
利用の行燈行列と決定。東西屋、引札、行燈は東京會社持、行燈は各商店一ヶ宛、行列後は各自
店頭に吊す事とした。嬉しい事には會員諸氏がマツダ會は自分の會、マツダ會と自分とは不可
分の一身同體である事である。氣持の上の此の變化は行爲にも現はれて協定値段も嚴守、廣西
マツダ會では一名の違反者もないと言ふ一絲亂れぬ統制振には出張所の野村さんも大喜びであ
る。毛利元就の教の如く多人數の仕事は團結が第一、廣西マツダ會に此の強味あり。併せて全

員一致の熱のもとに繰り出した宣傳行列、効果觀面、素晴らしい人氣を呼んだとある。尙先般廣
島市で行はれた招魂祭當日、一般宣傳として赤箱サックと引換に玩具のライターを子供に限
り進呈したが、仲々評判が良かったとの事である。

中央電氣商店管下

先期中央電氣商店では管下のマツダ會コンテストを行つた。處が第五區

第五區の策戦會

の銀座高島屋附近の一帯は 期初より成績は悪くはないのだが折悪く

もコンテスト最中に賣込んだ球が二千個も逆戻りして來た爲成績はガタ落ちの慘狀。そこで一
日中央電氣の椎橋さんを中心として、八重洲口の白鷹で座談會を開催し、議論百出對策に頭を
捻つたが、窪田季雄さんの音頭に依り、一つ俺達ばかりで策戦會議を行らうではないかと云ふ
事になり、賛成々と満場一致で可決。日取も十一月十日と極めた。さりながら椎橋さんは他
の區にも顔を出す東京電氣の社員の事として天機漏らす可からずと云ふ譯で十一日の策戦會の參
加御遠慮願ひ度いと云ふ熱の上り方であつた。

隨感

殻を破つて
プツシユ

阪神共同電氣株式會社と云へば 大阪及神戸市と其附近に配給の爲めに最近設立せられたマツダランプの卸會社である。

其處の青年社員の休憩時間中に「バットの何れが雄か」と云ふ問題が湧起つた。上だの下だの誰か烏の雌雄を知らんやだのと一通り賑つて夫は爰に書いてある。之此通りと云ふのを見れば「プツシユ、ジス、エンド」の英字である。成程「プツシユ」は押す押すは雄に通ず、伊勢の瓶子は醋甕也とある。扱てソコで諸君、プツシユは押す頑張る、ジス、エンドは之目的也、即ち頑張ること男子の目的也。煙草は魂に油さすと云ふ。魂に油さすことは永遠の躍進を約束するのだから、煙草を喫する時はプツシユ、プツシユとプツシユを忘れてはならん。人間は先人と偏見と習慣との中に安住して、時々首だけ出して感心はするが、直ぐ又殻の中に隠れる。そこで永久に躍進がない。商賣の成功は殻を破つてプツシユするに在ると本社から來合せたN君の例の講釋で折角の陽氣な話もダァーとある。

市場の統制は 田舎のことを在郷と云ふ。在郷とは宿を離れた村で、村には在所、宿、山

方面の力による

家と夫々の面を爲して居ると云ふ譯か、朝鮮では村を面と云つて居るそうであるが、我々の所謂方面とは全く新しい觀念で、英語のサークルを獨逸式に翻譯したものである。サークルとは圓又は圓周であるが、少人數の集會とか、少人數よりなる團體の自治とか云ふ意味である。電氣店の立場に於て電燈會社を侵してはならぬ、と云つて盲從する必要はない。何處迄も共存共榮で行かねばならぬ。ソコデ電球の賣價は電燈會社の賣價よりも高く、小賣店は小賣店らしき相當の利潤を得ねばならぬ。さすればお互に同業者が協定値段を維持勵行して、市價の統制を行ふことが出来るのである。夫には毛利元就公の教訓の通り、各人思ひ思ひに爲さず結束する必要がある。國際聯盟が巧く行かぬやうに、大規模の組織は必要としても其結束力は却つて弱いから、一定地區少人數と云つて先づ二十店前後が宜敷からう。夫等の人々で集團自治を行ふことが效果的である。此考の下に一つの方面を纏めてマツダ會を造ることを、本部は慫慂して居る所以である。

マツダ會は連判

狀て行き度い

商賣は秘密を尊ぶと云ふことは眞理でありませう。然し或一定の地區の同業者が、お互に顔も知らず其商賣も認識して居らぬ場合を想像して見給へ。必ずやお互に猜疑心を有つて色眼鏡で見合ふ。ソコへお客が掛引をしてあの店では安く賣つて居ると云へば、ソウかも知れぬ。夫では何程か負けて置きませうと云

ふ事になるのは極めて自然である。然し斯様なことでは協定値段の維持が出来るものではない。須く一定地區の店丈けはお互に知合になり、商賣振を認識し合ふことが必要である。夫には半期間の引受數の如きは、連判帳式に書いて自他共に承知し置き、其數量を自他の協力によつて増進せしめ、常に協定値段を切らず利益を保障しあつて置き度い。ソコ迄行かねばマツダ會の本當の機能が發揮されたものとは言はれない。

店主が桃太郎式

てあれは

屹度繁昌する。桃太郎の鬼ヶ島征伐は、情操教育の第一巻として、誰でも聞かされ又話して育つて來た。あの桃太郎が先頭に立つて武者振勇ましき風貌、腰にさげた吉備團子一つでお伴する猿や雉子を思ふ時、商店を經營せられる御主人は是非桃太郎式でなくてはならぬことを痛感致す。猿や雉子は其風貌の勇しさに心服して、一つ働いて見度いと言ふ氣になるのだ。吉備團子一つで報酬の多きを望むものではない。職業は人格の表はし場所である。徒らに店員共を叱咤することは自分が實行の勇なきことを白狀するのみならず、店員達に實行を嘆願する悲鳴であつて、斯くては店の繁昌する道理はない。

大倉邦彦翁

食前の言葉

我國の神官僧侶牧師の數は二十五萬に達して居る。人口率に比較すれば世界最高の地位を占めて居りながら、布教の及ばざること甚だしい。衆生と

布教者とは互に其罪を問ふて水かけ論をやつてゐる。願はくば論ずる者先んぜよと喝破せられる大倉邦彦翁は、食前の言葉として

- (1) 此食物が食膳に運ばれる迄には幾多の人々の勞力と神佛の加護によることを思つて感謝致します。
 - (2) 私の徳行の足らざるに此食物を頂くことを過分に思ひます。
 - (3) 此食物に向ひ旨いからとて貪る心、不味いからとて厭ふ心を起しません。
 - (4) 此食物は私を癒す良薬と心得て頂きます。
 - (5) 此食物は道を成就せんが爲に頂くことを誓ひます。
- と記述せられて居る。店員の教養は素より、特約店指導の位置に居られる辨理店主は、恰も布教者と同様の立場に立つものであるから、願くば先づ大倉翁食前辭を三味されんことを切望するものである。

取引先の信用限度

商品と現金との引換なら別段の心配はないが、延取引で貸越となると貸越高何程位を頃合とすべきかが自然問題になる。ソコで信用の限度を決めて掛るが安全第一となる。所が自分の腹丈けて決めて置くか、取引を開始するに就いて双方で決めるか、何れが宜敷いか、地方には夫々の習慣があるが、仕入勘定が地方

的でない今日、地方の風習に一方引ずられることは平衡を得ぬ。ソコに無理が生ずるのであるから、矢張り新式約束で行く方がよいことになる。云つた次第、約束は約束通り實行を期し度い。マツダ會の仕組に於て同業者の取引は約束を守ること。即ち良習慣の建設と云ふことを申合せてはどうであらうか、換言すれば約束日に支拂はぬ時は、延滞日歩として何錢か宛支拂ふと云つた罰則をも決め、夫が不幸に原因する場合、マツダ會の決議で日歩は免除し得ると云つた調子で、圓滿な融通を計り度いと思ふ。信用の限度は對物信用、人格、生産力等を考慮して相當の餘裕を置く方が宜敷いが、平均一ヶ月分賣上高に對する二倍乃至三倍程度を限度とする方がお互の爲めに宜敷からうと思ふ。

當然のサーブिस

本社購買課の田村さんは、曾て株式會社中央電氣商店（東京）に駐在して倉庫主任をして居たことがある。大分日は経つたが今でも中央商店の御得意の中には、田村さんのことをよく尋ね無闇に褒める人がある。何故夫程同氏の印象がよかつたかと尋ねて見ると、同氏は夜の十時でも十一時でも、態々公衆電話まで使つて、今日見積つた電球は本社では納期が何日掛るとのことであるから、何月何日納入と云ふことにして戴き度い。退社前に電話でお知らせしやうと思つて居て遂忘れ、今想出したから一寸申上げますと云つた念の入れ方であつて、何事でもキチンキチンとして頼もしい人だと言

ふ。同氏は主なお得意の電話番号は手帳に書いて置いて、何時でも又何處からでも電話を掛けることを億劫がらなかつたと云ふことである。サーピスとして當然であり、又商賣としても本格的である。亞米利加ではテレホン、セールスと云つて、電話で注文の促進が頗る有効だと云ふ話を聞いてゐる。お得意のことを常に念頭に置き、電話を有効に使ふことは相當考へる價値があることだと思ふ。

コンチン ジヤン

目下各國共に輸入制限でヤキモキやつて居る。中にも佛蘭西は各國別に輸入品目其金額に制限を加へやうと、所謂コンチンジヤンをやつて居る。此コンチンジヤンと云ふ言葉は周の井田法と同様で、太閤様の清洲の割普請、米國ではクオータと云ふ割賦法のことである。電球の商賣に於てもお得意に夫々期別別に相當數のコンチンジヤン即ち割當を行つて、其數の實現を期するやうに努力することが効果的である。但し自分一人でコンチンジヤンを行つても、相手が承認して呉れねば効果が無い。ソコでこちらでコンチンジヤンを行ふと共に相手からアグレマンを得、お互に得心づくで一緒に努力する、其協力がなくては成果は望めない。先づコンチンジヤンを行ふだけの相手に對する認識が第一、ソコに一切のプランが起り、努力の甲斐がある。注文を待つて賣るに至つては、時代遅れの最たるものとの謗は免かれない。

よい習慣の接木

野薔薇を培ひ肥料を與へても、矢張り同じ野薔薇より咲かないのに、よき薔薇を接木すれば本來の花は咲かないで、接木のよい花が咲くと同様、自分の體驗に他人のよい經驗を接木して、之に努力の肥料を與へたらどんなものであらう。屹度自分本來の花より努力の肥料の加減によつて、相當よりよい花が咲くに違ひあるまい。夫には勉めて協力の機關であるマツダ會に一同繰合せて出席し、建設的の商賣談を交換することである。Y電氣工業所の主人がマツダ會の席上で、「自分はマツダランプと云つて注文して呉れるお客さんは 例へ其が一個であつても全く自分の常得意だと思つて難有く思ふが、安球をと云つて注文するお客さんは、自分の店のお客さまとは思へぬ」と云ふ話をせられた處、私も最近そんな風に思つて居りますと列席の三、四人の人々が云つたと云つて、道に帝都の中心區域の電氣屋さんだけあり、はつきりした頭の持主が多いと、株式會社中央電氣商店（東京）の常務の伏見虎司さんのお話、同社取締役の井上爲一さんは總ての會合は時間勵行が第一です。時間勵行のない會は不眞面になつて仕末が悪いとお話、マツダ會が出来た以上何處迄も良い習慣の接木をしてよい花を咲かせなければならぬ。

辰野九紫の お辭儀論

泉鏡花の「雛の節句の翌晩春で臙で御縁日……これで出来なきや日本は聞だわ」の名篇「日本橋」は藝妓道德を説いたものであるが、その中に姐さ

んが若い妓にしみじみと心得を聞かせるところがある。藝妓といふ稼業は罪の深いものだから、晝日中往來を歩くにも人様に道を譲つて、冬は陽の當らない地點を、夏は照る地點を選つて行く位に、慎しみ深くなければならぬといふのである。我國に於ては士農工商とあつて、由來商賣人は慎しみ深きことを、各層を通じて當然とせられて居る。従つて爾汝の取引は別として接客の現業にあつては、お辭儀も一應心掛け置く可きであらうと云つたもの。九紫君の語る處に依れば彼のお辭儀無精は、高等學校時代の生活の影響であらう。中學時代は上級下級の區別儼たるものがあり、上級生には一々クン附けにしてゐるが、高等學校へは入學試験と稱する難關があつて、運のいゝ奴は筒袖肩上げの年少にして白線帽を被り、氣の弱い男は兵隊や巡查が若く見えてしやうのない年配になつて辛うじて入學を許されるので、校内自から長幼序なく相互に呼捨てゝある。

東京音頭

一、ハア 踊り踊るなら

チヨイト

東京音頭

ヨイヨイ

東京出張所 砂

田

茂作

花の都の 花の都の真中で サテ

ヤイトナ ソレヨイヨイヨイ

二、

マツダよい電球

夜の太陽

家庭の和樂は

家庭の和樂は

この電球で

三、

花は上野よ

電球はマツダ

マツダマツダで

マツダマツダで

店繁昌

四、

明るい銀座は

東京の名所

マツダランプが

マツダランプが

軒並に

五、

西は満洲

南は南洋

隅の隅まで

隅の隅まで

マツダです

六、

昔や武蔵野

芒の都

今はマツダの

今はマツダの

灯の都

七、

花になるなら

日本の櫻

電球買ふなら

電球買ふなら

マツダです

八、

電球買ふなら

マツダに限る

電氣を喰はずに

電氣を喰はずに

よく光る

よい事の

実行が第一

山形縣天童町は人口約五千、此町の産物は將棋の駒、其産額は年々殖へる一方で大坂を凌ぐ現況だと云ふ。駒用のまゆみ黄揚、ほう梅等は附近に潤澤、處が漆書は殆んど全部小學生の手になると云ふから面白い。彼等は放課後僅か四五時間に千餘枚描き、然も無駄駒と云つて素人目には解らないが、彼等の氣に入らぬ時捨てる無駄駒と云ふものは殆んどないと云ふ。斯様にして天童の小學生達は全く天童で月に三四圓の稼人である。蓋し歩書は一日三錢五厘位、熟練して王書になれば日給四十錢になると云ふ。「歩書き々々々々で暮すより馴れてなり度い王書きに」と云つた民謡はあるか無いか知らぬが、同じ數をこなすにしても安物では金額が上らぬ。商賣は金額の上るものに限る。斯様なことは誰でも知つて居て扱つてマツダ一種主義となると、一般の電氣屋さん實行が出来兼ねる。奈良陸軍大將は現代の人々はよい事を充分知りつゝ、實行が出来ん。よい事の實行が第一であると各地で講演をして居られると云ふことである。

誠意の無策は

自然の商略

佛畫に群盲撫象があります。兎角人間は自己本位に物事を解釋して、眞理の春を決めて仕舞ふ癖がある。此處に議論が起る。象の足を撫で、象は恰も大木の如し。又鼻を撫で、象は太き繩の如しと云ふ。所詮人間は輪廻に

迷ふ 辰野九紫クンの文字の辯オジキによれば、芥川龍之介はお時儀と書いた。森鷗外も亦然り。尾崎紅葉は辭宜とやつたような氣がする。いつそのこと兩方の顔を立て、時宜としたらよからうの何のと、小六ヶしいモノのいひ方をされては五月蠅い。僕は何の考へもなくお辭儀といふ字を使つてゐるだけのこと。それで文句があるなればアヤマルのみとある。英國では有象無象をウアールド エンド ワイフと云ふ。之を直譯すれば浮世と妻、之を逆轉すれば「ツマらぬ浮世」の洒落にならうと云ふもの。裸體で道中がなるもの乎と云ふが、蜂退治には裸體で行くに限る。蜂は出てゐる所を狙つて刺すもので、裸體で行くとすつかり出てゐるから、何處を刺さうかと思つて迷つて逃げる。又蜂は口笛が大嫌ひだから口笛を吹いて裸體で行けば蜂退治は屹度成功すると古老の言。裸體は無策のやうでさに非らず。口笛は自然の商略、誠意と云ふも熱であらう。目的を定めた意志の結晶であらう。標題の標語は長野縣飯田町の市瀬某の商店繁榮秘訣標語日刊工業懸賞三等當選のものである。

百聞一見戦法

百聞は一見に如かずと云ふ古い諺がある。世智辛い此の節の事、いくらマツダ電球の優秀さを口を酸バクして述べた處で、ただ良い球だと云ふ許りで元來が十錢球の三倍以上の事、値段の高いと言ふ感じの方が御客の頭から離れない。處で一度イルミノ アムメーターで品質の優秀さを目の前に證明して、十錢球はワットを餘分に食ひ

明るさも劣るから只でも損と示せば、いくら頑固な没常識漢でも成程それではマツダをと言ふ順序になると言ふものである。辨理店の元祖會津の宮森電氣店の石山博さんは、照明學校内地留學以來感激して、今年の二月から百聞一見戦法に出て安球征伐に大童の奮闘中であるが、店頭小賣は勿論街頭へ進出し住宅、商店、醫院、旅館、工場等片端からイルミノ實驗は却々有效、先日の日報にも二軒で十二個の電球の注文をとつてゐる。ワットを澤山食ふ安球は丁度大飯食ひで情け者、此邊ランプと人間と一脈通ずるものがある。聞く所に依れば嘘についても直ぐバレると言ふ千里眼の様な器械が出来たそうだが、大飯食ひの情け者か、小食の働者か見分ける器械がイルミノと言ふ譯、茲にイルミノ活躍の天地がある。

上手な販賣術

或會社にズ抜けて成績のよい販賣員が居る。此人が手を掛けるとドンな高價な品物でもドシドシ捌ける。實に不思議な程である。ソコで支配人が君は販賣の天才だ、然し何か工夫があるのであらう。教へて呉れぬかと話した處、其人は何の工夫もありません。商品の特長を有の儘話すだけですとのことであつた。其後此販賣員の對話を支配人が氣をつけて居ると、此人は商品の特長の第一だけを第一回に話し、第二回目には特長の第二だけを話し、之を販賣が成立する迄順次繰返し々々話續けて決してアキない。成程「あきない」とはよく云つたものだと、支配人はポイント膝を敲いて感得したと云ふことが或雜誌に

出て居た。人間の口には一口づゝしか入らぬと同様、耳にも一つ一つしか入らぬ。ソコへ一遍に色々詰込れては何にも入らぬことになる。昭五年の國勢調査の抽出統計によれば、内地人口六千四百六萬七千人の内五割五分九厘迄を十五歳乃至五十九歳の人々が占め、又未婚者は總數の五割三分一厘に當るとのことである。之等の人々所謂數の中軸を爲す青壯年は何を欲求して居るか、食物に就ての岡本一平の説によれば、支那料理をシミシミ食つて、口直しに壽司を二つ三つ、それから銀座へ出てカフェ、ノアールを飲み度いと云ふ。黒い珈琲さへカフェ、ノアールと佛蘭西語でなければ氣分の出ぬ當世の大衆、之等の人々に呼掛けるには、一つ一つ適切な言葉を選んでピタリと其氣分に合はす。而も急がず焦らず倦まず厭かず狙撃的にやつて行く、上手な商賣のコツも其邊にあらう。

電氣サインの

通行人調査

東京電燈を一般に東電と呼んで居る。此東電と東京電氣との共同經營に日本電氣サイン株式會社がある。この會社の支配人の有田哲男さんが、昨年第一相互館の壁面に施設せる同社の電光ニュースを、見る人、讀む人、見ない人に仕譯して、銀座に流れる京橋の畔の通行人調査を行ひ、東都廣告界の注意を喚起したことがある。此努力は其廣告料金収入にも反映して、赤字より黒字にと好轉を來した。今年再び此調査を行つてはどうかと云ふ話が重役間に持上つた。處が夫は解つて居る。成程我々には

解つて居るが、廣告主にはドウか、解つて居るであらう。然らば外交員にはドウかと、堂々廻りに廻つて行くと、當時の外交員は一人残つて居るだけで、殆んど全部が新顔と云つた状態、ソコで其調査數字は最早死んで居る。外交員が自分で苦勞した調査の資料で無い限り、信念が無く従つて話に熱が入らぬ。又去年と今年とを比較して見る所に研究の眞面目さがある。夫ては實行しやうと云ふことに話が決定した。

小賣協定値段 嚴守實行委員

方面の妙諦は集團自治にある。協定値段の勵行は此力による外ない。之が出来れば電氣店としては利益は保證せられ、電燈會社の援助を受くることすら敢て難事ではない。是が非でも之丈けは實行し度いものである。マツダ會も其爲めの存在に外ならぬ。と云つて却々容易でない。ソコで東京に於ては約二百名の有力な方々に委員を委嘱して、之が實行に着手することとなり、四卸會社一齊に此運動に着手した。城北電氣會社の販賣員中井輝男君の日報を摘録すれば「小賣協定値段勵行實行委員二十二名宅を松井専務と同道し各店主に面談、今回此舉に出でたる主旨につき説明をなし、全部異議なく賛意を表されたり」とある。乞ふ隗より始めよと申す通り、委員諸公は業界のリーダーなる故、先づ諸公より御實行を願ひ度い。徳孤ならず必ず隣あり、特に御願申上ぐ。

壽命三萬 時間の電球

城南マツダ會店主講習會の時、壽命三萬時間（二十年）保つ電球が展示せられた。此電球は六〇ワットの洋梨子型の普通電球と外見も光束も同様であるが、ただ異なるのは三萬時間も保つように作つた爲め、ワットは普通品に比して餘分に食ふと言ふ點である。此の電球が三萬時間も保つと聞いた時、一齊に顔色は緊張し目は好奇心に輝いたものであるが、さて性能検査の段となり愈々イルミノにかけて普通品と比較して見た處驚いた。まるで月と鼈程の違がある。一方は刻印通りキッチンと六〇ワットあるのに、三萬時間の方は九〇ワットからの大食球である。さてそこで之は一體どつちが徳なんだと言ふ事になり、一キロ十二錢と假定して例の様にパチパチと算盤を弾いて見ると、勿驚二十年保の電球を使用してゐれば、普通品を使用する人より一年に約五圓も餘分に支拂ふ事になる。此の調子で二十年も保たれた日には百圓も餘分に金を捨てる譯である。此の現實を見詰めながら尙も不思議そうな顔をしてゐた人もゐたが、之は先入主と言ふか錯覺と言ふか、保の良いものが徳と言ふ前世紀的觀念から抜け切らない爲である。茶碗や箸の様なものだと一度買へば長く保つ程徳であるが、電球となるとそうは參らず、球を買つただけでなく電氣代を拂はねばならない。一年間に支拂ふ電氣代が、電球代の十倍以上だと言ふ事を忘れる處に、この錯覺の起る所以がある。此の面白い電球は結局ワットを餘分に食ふ球は、點けるだけ損、只貰つても損と言ふ事を実證して呉れた譯である。イルミノは此の舊時代の錯覺を切りとるメスと

して有効である。優秀な**マツダランプ**にして壽命を長くすれば如斯、況んや安球の偶の長命に至つては其の能率の悪さ加減が思ひやられる。三萬時間保つ電球は安球征伐にイルミノ戰術の有効さを保證したものと云へやう。

マツダ會第一期

工作レビユー

卸會社又はシンヂケートの無い地域に辨理店が逐次完成し、更に辨理店の無い地域には方面契約による**マツダ會**と、内地は素より殖民地迄**マツダ**の販賣網は充實して行く。ソコで本部では**マツダ會**第一期工作と稱して出来上つた**マツダ會**のレビユーを行ふ。第一期工作は地域、特約店數、役員、販賣責任數と仔細に思索され、其辛勞の跡瀝然たるものが見へるが、更に數字を基點に之を逆に觀察すれば、第二期工作として必要と思はるゝ節々が現像して來る。例へば東京の赤坂區は特約店數十七軒で今期一萬四千九百個、愛知縣の知多郡は特約店數十八軒で今期の數量一萬七千三百個、之を比較して見れば東京市赤坂區は知多郡一郡にも及ばぬ。赤坂の電氣屋さんは知多郡の電氣屋さん程の賣上が無いと云ふことになる。事實果してソウであらうか。疑問は發明の母也と云ふ。第二期工作は爰に到つて數字を基礎に建直すことの必要を暗示する。

東京電氣の特許權數と

特許權數と

研究所の増設。東京電氣の特許權は夥しい數に上つて居る。簡單に仕譯して見れば、特許が八百二十二件、新案が四百一件合計千二百二十三件、此外に意匠が三十四件、商標が百三十三件と云つた現状である。如何に研究所の機能が逐次着々と我國文化の發達に貢獻しつゝあるか、窺はれる。年々歳々研究内容の充實と其範圍の擴大とに従つて床面積は擴がり行くので、最近重役會に於て研究所本館右翼四階建、總坪數千四百坪の建増工事が決議され、第一期七百五十坪第二期千六百五十坪の増築に着手することになり、東北帝大の千葉茂太郎博士も入社して、研究所の一部を擔任せられてゐる。

辨理店の

マツダ係給與

成功して居られる電氣店の店員待遇法に就て承る處に據れば、千差萬別と云つた形ではあるが、面白いと思ふ方法の一に、二十五歳の番頭さん一人住込で月給十九圓五十錢、七月と八月との二ヶ月は十五圓、此内から毎月七圓五十錢宛貯蓄銀行に積立てさせ、五ヶ年経てば元利五百圓になると云ふのがある。店主の方から云へば五ヶ年経てば、更に商品の出資をして此番頭に支店をやらせ商賣の擴張となり、番頭さんの方から云へば、五年経てばお嫁さんを貰つて電氣店を開業、此五ヶ年間は技術の修業に資金の貯蓄と云つた双方具合のよい話、辨理店の**マツダ**係店員待遇法は老舗だけに夫々變つては居るが、其内通勤番頭さん月給三十五圓、**マツダ**電球賣上一個に付いて金五厘の歩合と云ふのもある。一個五厘の獎勵法は味へば味ふ程、イミシシな効果的のものであると思はれる。

辨理店の集金

集金の圓滑は成功の秘訣であると云はれて居る。其丈けに却々六ヶ敷い。殊に辨理店に對しては大所の勘定として引張られ勝ちになり易い。ウツカリして居ると辨理店自體の信用限度の倍額迄も賣掛代金が滞つて居る。一方本社へ辨理店は立替拂の餘儀なき状態に陥り、憂鬱になると云つた實例さへ見るに到つた。ソコで此集金を如何に迅速にすべき乎の問題を本社へ御相談とある。本社に於ては辨理店は我社出張所の代行機關である。督促のし難い所へは出張所から書面又は掛員出張の序に親しく督促を實行して見た。處が素々拂へないのである、引張る丈け利息が得と云つた調子の店々であるから、支拂期日が確定してキチンと決済の約束が成立した。コウなれば後荷の註文にも樂に應ぜられることゝなる。所詮本社と協力して何處迄も約束嚴守主義で宋襄の仁は行はぬこと、又本社としては出張所は此間の呼吸に同調して實際的應援を試むことが必要であらうと云ふヒントを得た。

協定小賣

値段の勵行

阪神共同電氣會社原さんの葉書日報によれば、東淀川マツダ會の理事山岡銳商店では九月九日以來斷然協定値段を實行せられたが、お客は何の不平も云はず買つて行くと云ふことである。之と同じ話は甲府銀座とも云ふ甲府市柳町の中楯電氣店にもある。中楯さんは辨理店引受と同時に安球は倉へ仕舞込み、全マツダで而も協定小賣値段の實行、其以前とてマツダと云ふお客にはマツダを賣ること勿論である

が、値段は甲府電力の賣價に同調した安値段で賣つて居たのではあつたが、爾來電球の賣れる數も減らぬし値段に對しても小言はない。偶には安いのはないかと云ふお客はあるけれども安物は責任が持てぬ故やめましたの一點張で行き、十錢玉一個持つて來る小供には安球はありませんで程よくあしらひ、結局數も減らぬどころか却つて殖へ、賣上高は上つて來たと同店マツダ係横田俊明君の報告が想出される。要するに何事も信念なくして實行は出來ぬ。俺の辭書に不可能と云ふ字はないと奈翁は云つたと云ふ。此勇力こそ自力更生の母體であらねばならぬと思ふのである。

ヒタ押の頑張

りは確固たる

信念から。大衆小説に武士が一刀の柄に手を掛け「拔手は見せぬ其處動くな」と偉い勢だが「ヘン何を云ふんデイ斬れるなら斬つて見ろ」と毛だらけの尻をクルリと捲つてフテ返つて座り込んだ雲助に、ウムウムと唸りながら立往生と云ふ不覺な場面がある。之は一體何かと云へば抜いても斬れる自信が無いからの事であり、正宗なれば見事一刀兩斷と行く所だが、如何にせん竹光ではいくら面の皮が厚くてもソウ容易く拔手は見せぬとは參られない。今春會津辨理店の石山さんが若松聯隊にイルミノ戰を仕掛け見事主計中尉殿を落城させ、すつかりマツダに兜を脱いだ中尉殿、翌朝先約のエビス電球を電報で斷つたと云ふ愉快な事件があつたが、之れ即ち石山さん腰間の秋水は、當世第一の名球マツ

ダ丸と自信があるから若松聯隊何のその、本阿彌のイルミノ鑑定の手でヒタ押しに猛進し得たと云ふものである。嘘だと思ふならマツダに全部取かへて御覽なさいと云ふ、齒切れの良い啖呵は信念なしでは一寸出来ない言葉である。最近の石山さん相變らず店務の傍イルミノ式の宣傳に着々奏効してゐるが、或日の日報によれば宣傳軒數六軒中成功したのは四軒、打撃率七〇%總收獲十二個とある。甲府辨理店の横田さんも負けては居ず、先日川崎本社へ來た時、今秋は山梨縣下の製糸工場を虱潰しに赤タンでイルミノ戦を仕掛け、安球を掃蕩して見せると偉い意氣込だつた。横田さんの着想誠に結構、球は赤箱能率は100%。腰間の秋水に不足は無い。此處に於て縣下オールマツダは横田君の頑張りの一手にかゝると云へる。

東京電氣業

組合の見積

附帶條項の制定、東京電氣業組合に於ては、見積附帶條項を制定して業界更生の實を擧げんと努力して居る。其案文は第一より第十四項目に亘り、第七項に延滞利子日歩二錢五厘を提議して居る。其全文を掲記すれば「第七「貸金の御支拂が御契約期日を経過致し候節は、御支拂當日迄未拂代金に對し百圓に付き日歩二錢五厘の割合を以て賠償金を申受く可く候」とある之を某問屋が實行して居る、日歩十錢に比較せば四分の一と云へる。日歩二錢五厘は九分一厘二毛五絲、無擔保賣掛金に對する利子としては巷間所謂ソウトーのものでせう。斯様な規約の制定及實行が必要とせられる時代相を認識し、

お互の協力によつて之を守ると云ふ風に心掛け、業界に動脈硬化を起さぬよう致すことが業務に忠實と云う可きではないか。拂ふ方も受取る方も約束を勵行すること、夫自らが協力であり、協力を觀念遊戲に扱ふ時は何れかに無理が出来破綻を生ずることゝなる。よい習慣の建設が不景氣對策の第一歩であり、斯くして努力してこそ日本の文化は進み業界は安定するであらう。

辨理店と

シンヂケート

辨理店と云ふ商業用語は東京電氣の創成したものである。新らしい時代に新らしい概念と新らしい仕組とが必要とせられる。獨逸のエンゼン博士の説ではないが、左様に痛感せられることは當然である。昭和七年二月一日を紀元として我が日本史に辨理店制度が加はる。創成の昭和七年上期は試験時代で會津、諏訪、岡山の三個所、同下期には甲府、秋田、仙臺（シンヂケート名稱を用ゆるも辨理店と同等）金澤、長岡の五個所を加へて合計八ヶ所、更に本年上期に入り郡山、千葉、水戸、廣島（仙臺と同様シンヂケート）の四個所を加へて合計十二個所に達し、斯く順次着々たる實驗を経て本年下期に入るや、俄然全國普及の積極方針に進展總計四十四個所に達し、尙ほ逐次増加の狀勢に在る。實に昭和の豪華版と稱すべきであらう。此辨理店にはマツダ係として専門に市場統制と販路開拓とに従事せられる店員を置かれる所が漸次殖へて來た。粗より細に、簡より繁に彌が上に發展を祈願するものである。

水戸辨理店

マツダ係の

給與と待遇。市場の統制と販路の開拓、本社との事務上の連絡には相當の人が要る。少くとも専門の者を置かねば徹底的に、又完全を期し難いところであつて辨理店主は腦漿を搾る。扱て給與の問題には凡そ標準が、あるが舊店員と新店員とのバランスも要る。ソコに悩みが起る。此問題を解決せられた實例として水戸辨理店が擧げられる。承る所に據れば店主の石川さん色々考へた末、竹馬の友人川田梅之介さんを採用せられた。此人は當年三十七歳、永年勤めて居られた製材會社が去年の暮閉業以來、妻女經營の小店に太公望を極め込んで居られたのであつた。ソコで話が初まり當分月手當二十五圓、電球一個に付五厘の賞與で、マツダ係としての川田さんの活動がスタートせられたと云ふ商賣のコツは經費を掛けぬこと、但し店員の所得は可及的厚くすること、之を混ぜ合した所にあると云つたものでせう。此式は前橋辨理店と同様の思索、斯くてマツダ係の給與と待遇との標準は建設せられたと申して宣數からう。

マツダ會の

發會式で

連判狀の確認。同業者の融和懇親は相互認識を基調とす可きであるが、此相互認識は皮相のものであつてはならぬ。職業意識にピツタリ嵌つて所謂ピライト効果迄行かねばならぬ。ライトは照明電氣屋さんの本職である。其本職に「ピ」がつくのと「ス」がつくので大變な相違を來す。ピライトは夫婦約束をするとか

困苦質入とか云つた字であり、スライトは輕蔑する粗略にすると云ふことである。人を輕蔑したり粗略に扱つては交際は圓滿に行くものではない。苦も樂も共にするこそ痛快其物であり、快があつても痛のない關係は友達とは云へぬ。大分マツダ會の發會式では十、十一月の連判式責任數に一同賛成と云ふ報告があつた。出席會員十四名大分市内の同業者が各店の責任數を斯くして知合つて、ウロ覺に知つて居る數字を一同の面前に更に確認して、相互の認識は進むと云つたもの、又連判狀の本案愛京電氣會社ではマツダ會の發會式に當つて責任調印數引取に關し一層責任觀念を有たす爲め、一同の面前で代表者の調印を受けコンチンジャンの確認を促したとある。斯くしてこそ市場の統制は圓滿に行はれると云つたものである。

町人學

住吉街道に立つて克明に通行人を豆一粒づゝで計算した松本重太郎は、阪堺鐵道布設と云ふ事業を完成して、今日の南海鐵道を生んだ恩人である。此人は丁稚がおために貰つた五錢で鉛筆を買つたと聞き「鉛筆のようなのは店に使さしが澤山ある。其を貰へばよい、不意に入つた五錢何故夫を貯蓄しないのか」叱つたと云ふ。今は時めく大阪南地の大和屋の主人、當時丁稚の祐藏、松本さん當番の十八會の茶會の日、二番倉の第五號の火入の部から、主人自慢の逸品青磁の十七番を運ぶ内、どうしたはづみかコロリと落ちて千圓を代なしにした時、御家の一大事とイキリ立つ番頭を宥めて、「叱りなさんな私は常日頃よく叱

言は云ひますが、悪い癖がつかぬようにと思ふからで、こんな大きな粗相はこちらで叱らなくても當人はチャント悪いことをしたと意識がハッキリしてゐる。千圓だの五百圓だのと値段を云へば子供がいぢけます」と云つたと云ふ。之が町人としての魂であり、斯くして大和屋の主人は今日の成功者になつたのである。岡田播陽に據れば、複雑を單純化し、重大事程いと手輕に五月蠅事程極めてあつさり片付ける。この性能の發揮こそ町人の眞髓だと云ふ。先づ之は町人學と銘を打つて宜敷からう。

終刊の辭

辨理店の皆様が戦線に奮闘せられ、御辛勞を思ふにつけ、吾等又一種の緊張を覺へ百ヶ日無休の精進を方面彙報の形式に修道、之を刊行し御清鑒に供した次第であるが、幸に此間無事豫定の通り終了を告げるに至つた。回顧せば方面彙報は單に雜事を録したマツダコクテール一杯に過ぎないが、其精神に至りては人事を通じ事件を借りて、マツダ電球と眞空管との厚味のあるもつと立體的の新世界を描き、皆様と共に相互の示唆に資せんと思案したものである。蓋し吾等が接觸する事物及見聞する幅が自ら限定し、比較的狭い天地に、徒らに生温るい概念を牧歌的に取扱はざるを得なかつた點は、御寛容を願はなければならぬ。

又 新 篇

電球商品學の卷
紅象の卷

電球商品學

マツダ又新時報 發刊の言葉

辨理店の數は四十六を算するに至り、小賣網の幹線工作は略一段落を告げた。又昨年九月一日より日曜日無休刊を以て、連日に亘り呼び掛けて來た方面彙報も、舊臘無事其の任を果して目出度終刊した。乍然之は單なる序曲であるに過ぎず、開拓事業の大なる結實は之れからである。大きな實を結ぶか、小さな實に終るかは今後の努力如何にある。眞の戦は之からである。將來多事多難の業界を觀する時、現在には山雨將に到らんとして風樓に滿つの状態、苟且にも寸時の沈滞遲緩も許さぬ。この非常時に處する途は、一つに前線に活躍される皆様と、後方部隊たる本部とが常に一心同體となり、滿々たる闘志と鐵壁の守りを持してこそ始めて遂行し得る事を思ふ時、皆様との絶へざる交渉の重要さがクローズ、アップされて膜に網映する。此の意味からして方面彙報の續篇として、「又新」の元氣を以て二月一日より四ヶ月間、毎月一と六の日に「マツダ又新時報」を發刊し、我々電氣マンの主なる兵器の電球に關して品種別に最新の知識を供給し、併せて各地方方面運動の情況を掲載する事にした。又此刊の姉妹篇として電球學を數頁宛連續發行して、皆様の

御清鑒に供する爲め目下計劃中であることを申添へて、各位の御健康を祈る。

奉祝用サイン ランプ註文殺到

皇太子殿下御降誕奉祝の微意を表する爲、我社は赤、黄、琥珀、緑、白の五色の電球を以て奉祝用マツダサイン電球として推薦し、去一月五日より來る二月二十日迄を限り破天荒の廉價を以て賣出した。賣行如何にと受註カードを覗いて見る。大阪方面から三萬五千個、東京及静岡方面から二萬五千五百個、北海道から一萬二千五百個、海の彼方の大連から八千個、小倉から四千二百個、名古屋から三千九百個、奥羽方面から一千五百個、金澤方面より一千二百個、締めて九萬一千三百五十個となる。此調子で行けば或は豫定の十萬個が二十萬個に達するかも知れない。何分共期節物丈けに供給不足を來してはと工場は、テンテコ舞の有様である。古來大阪商人と云はれてゐるだけに、大阪方面の人は機を見るに敏、我社の此舉に打てば響くの共鳴が受註カードに三萬個突破の躍進振を示し、成程と肯かしめるものがある。現在では東京方面は大阪方に一籌を輸してはゐるが、出張所の内報では五萬個突破は確實とある。尙北海道は更に一萬個、仙臺出張所も同じく一萬個引受確實故用意を乞ふとある。奉祝に間に合す爲め一大事の配給上の苦心は並大體ではない。誠に天下の吉兆と慶祝に堪へぬ氣分が漂つてゐる。

赤タンの辯

東京電氣が時代物の赤B電球をブツシユするのは可笑しいと御考の方があるかも知れぬが一寸待つて下さい。花の東京は銀座の眞中レストラン、オリンピックのメニューをヒョイと見る。コハ如何に何んと紙一面に横文字の羅列日本字のニの字もない。はて此處は一體日本人の來る所かと周囲を見廻せば、皆黄色い顔した同類ばかりとある。此の非常時に何事ぞ。横文字の飯なぞ喜んで食ひに來る奴の氣が知れぬと、ソコラの國粹主義の黒紋附なら一文句出そうであるが、幸ひなる哉、此處はモボモガの樂天地の銀座街、昭和維新國粹萬能の世流に逆行してまで、譯の解らぬ蚯蚓の横這を書いて置かねば來て貰へぬとは、メリケン擬の銀座人種を相手にするだけ、オリンピックのマネージャも却々骨が折れる。赤B電球の商賣住來も、此のオリンピックのメニューと一脈通ふものがある。世の中の人々は千差萬別で一様には行かぬ。御客が直線織條のB電球を下されと云ふのに、「そんな時代物は私の店には御座居ません」では商賣冥利が盡きませう。老人には老人に、若い者には若い者に向いた様な話をしてこそ話上手と云へる。處が面白い事には赤B電球の賣れる地方では奇妙に又他の新式電球も平行して賣れるから不思議である。赤B電球賣出しの本來の目的は從來「マツダにはそんな舊式電球は御座居ません」の一點張で、空しく逸し、他電球の蹂躪に委せてゐたB電球層を我が手に確保するのにあるのだが、一寸考へると此の賣出した爲に他の標準電球まで販賣高が増加しそうに思へぬ。處が此れは素人考への屁理屈で、赤B電球をウンと賣る位商賣に氣合が

掛つて居れば、他の電球も之れに釣られて自然増加を來し、そこで一と一を加へて三となり四となる面白い等式が成立する事になる。結局商賣の面白味は此の理屈で行かぬ處にあるのだが、いみじくも赤B電球は販賣増加のバロメーターの役を演じてゐる譯である。

全光禮讚

昨年十二月一日より期末の販賣戦に續いて、追撃的に實施された全光電球の全國的商戰は、去る三十一日劃期的大成功を收て終幕した。全光旬報の最終號に就て見るに總計に於て目標十萬個を遙に突破し、白銀のヴェールに包まれた全光は、其の柔らかな弧線の中に若鮎の如く潑刺たる生氣の搏動を見せてゐる。旬報紙上に註記してゐる如く、旬報の數字は此の商戰の眞の賣上數を示すものでなく、未報告の所もある事故實數は更に増大するものとは思はれるが、然し此の旬報に於てさへも大阪地方は四萬を抜く事三千、比率一三六、東京地方は三萬八千で比率一〇九、續く九州地方も一萬一千、比率一五七、殆んど各地共に豫定數突破の盛況である。此の調子では正確に計算すれば恐らく十二三萬個は確實に賣れるであらう。此の大成功の原因は、一つに最前線の皆様の異常なる努力と、照明に對する一般世人の理解の向上との結合の結果と思はれるが、此の十幾萬の電球が無言裡に物語る良照明の實物宣傳の効果は、蓋し今後偉大なるものがあらうと推察せらる。之を契機として全光の大發展が期待せられる。最近に至り裝飾用電球として圓型が復活し。今春開場した日本劇場とか昨秋

開店した伊勢丹デパート等では、之れをシャンデリヤとか、側壁用とか人の目に露出して見へる所に使用してゐる。我社では夙に圓型の裝飾的價値を認め、圓型の持つ豐滿な感じへ更にノープルな全光コーチングを施し、鬼に金棒的露出用の裝飾用電球としてデビューせしむ可く、目下着々準備中であるが、之を聞いた都下のMデパートでは早速製作を依頼して來た。洋梨型全光電球發展の潮流に乗つて裝飾用圓型全光電球の黎明も、その白銀のヴェールの彼方にほのぼのと輝き初めてゐる。

シヨウ ケース 兩口金管型電球。最近の商店照明と最も密接なる關係にあるものは何んとして用としての。云つても管型電球であらう。現在では小さい獨立の小間物店から、大は三越の如き大百貨店に至るまで、シヨウケース用電球は管型電球の獨壇場である。昨今ではデパートのシヨウケース用ランプは全部管型化した感があるが、乍然一般商店に於ては、其の普及範圍たるや未だ小部分に限られ、例へば大阪にある卸會社の阪神共同電氣株式會社の河野さんが、先月南海高島屋前から心齋橋筋の二百六十軒の商店を軒別に調査した處に依ると、管型を使用してゐる店は僅かに九軒、個數にして三十四個、内マツダ管型三十個とある。大阪目抜の新齋橋通りの商店にして如斯。況んや地方都市の商店のシヨウケース推して知る可し。今後彌々店内照明の智識の普及につれて、マツダ管型電球進撃の前途は洋々たるものがある。管型電球も其の初

期のものは捻子片口金であつた爲、シヨウケースの中に納めても時が経つにつれて、其自身の重みの爲に次第に傾斜し、誠に見苦しかつたが、最近吾社は従来の此の缺點を補つた内面コーチング兩口金管型電球を發賣し、大いに好評を博してゐる。新宿の伊勢丹デパートでは全店のシヨウケースに吾社新製品の内面反射晝光の兩口金管型を使用してゐるが、特に小間物部とか呉服部とか色物の照明に最も其の威力は發輝せられ、均等に適度に擴散されたる白光の下に絢爛たる色彩を浮上らしてゐる。晝光管型が發賣された當時は晝光硝子では硝子が破裂しはせぬかと危懼した向も相當あつた様だが、伊勢丹の大量使用によつてテストOK。而もシヨウケース用としては第一と折紙が附けられた。伊勢丹の業界に投じた一石の波紋に刺戟されて、目下建築中の澁谷の某デパート及日本橋某デパートでも、晝光管型使用に決定したと云ふ事である。

ネオン ランプ 昨秋東京の城南電氣會社區域の**マツダ**會理事總會の席上、二三の方が**ネオンの躍進** ランプに力を入れよ。最近知識階級の間には寢室燈としてネオンランプの需要が増しつゝあると云ふ話であつた。爾來本部では各方面へ向つて調査を開始し、終夜燈以外に用途の多いものを調べて見ると驚くべし。ビルデングの地下室には大切な電氣設備を支配して居るシグナルボード、又御役所には上局の登退廳の標示燈等はけ口はズラリと待つて居た。そこでネオンの一大躍進を目指して値下の斷行となり新型の發表となつた。ネオンは美しい光を

出すが餘り明くはない。然し遠目が利くのが特長で夜眼遠眼が良いのはお嫁さんと反對である。今少し明るいものが出來たならサイン等にさぞ良からうと云ふ希望をチコイ〜承る。お尤な話である。蓋し左様な御希望を満し得る時機も應て來るであらうと思はれる。

マツダ耐震電球

東京灣埋立會社は鶴見沿岸に約二百萬坪の埋立地を完成し、其地所に芝浦製作所を始め淺野セメント、日清製粉、鐵道省、東電の火力發電所等が次から次へと隣接して新築されてゐる。此の埋立はポンプ仕掛で海底から海水と一緒に吸上げた土砂を堆積して作つて行くのであるが、此の仕掛の設備してある浚渫船にはデイゼルエンジンを裝備して八五〇キロの發電装置のある大きなものもある。従つて其の震動たるや、電車や船舶どころの騒ぎでなく、驅逐艦が全速力で走つたより餘程激しいと云ふから思ひやられる。そこで船中に點ける電球はどうせ永持はしないんだからと云ふ理由で從來安球の使用を續けて居たのであるが、共榮會社のS君一日埋立會社の電氣主任を**マツダ**照明學校に案内して**マツダ耐震電球**の長講一席に及んだ處、有繫に専門の技術者丈けに即刻安球の不經濟なる所以を悟られ、芽出度延取引契約調印の端緒を開いた。此の浚渫船による川崎築港の工事が櫻の頃から始まるそうであるが、大師沖に一時間六立坪の割合で非常時日本の領土を擴げて行く勇ましい作業に、**マツダ**が燦として輝くことは蓋し愉快である。

マツダ集魚燈

夏の夜など漆黒の海の彼方に瞬く漁火は、詩人ならずとも詩情に訴へるものがある。燈火魚撈法の最初のもものは松明を使用したもので、現在でも烏賊網等に使用されてゐるが、漸次石油ランプ續いてアセチレン瓦斯燈と進歩して來た。だが然し此等のものは何れもただ海上で點火するだけで、海中で魚を集める爲に有効に働く爲めの光の量たるや僅に二割に過ぎない。そこで海中で點火し得たらと云ふ希望から、最近では特殊の器具を裝備した特殊の電球を海中に沈下して、之に海上の船中にある蓄電池より送電して點火する方が用ひられ非常に好結果を收めてゐる。集魚燈使用の魚撈法の最大の特徴は、海中で點火し得る爲魚獲高が他の方法より遙に大いと云ふだけでなく、而も費用の點でも半額位で済むと云ふ事である。昨年五月四日から十四日間合同電氣主催の許に三重縣錦浦で調査した處に據ると、集魚燈を使用した十隻の船が九回出漁した全收穫は、同時に出漁した同數のアセチレン燈の船の全收穫よりも一倍半以上多く、而も總費用は半額であつたと云ふ。集魚燈は鰻、烏賊、鱈、鯖等の網漁及一本釣の船に使用されてゐるが、現在我國で使用されてゐる網船用の二〇〇Wから三〇〇W位の大型のものは約五千燈、一本釣用の三〇W及四〇Wの小型のものは三、四萬燈位であり、各集魚燈には船中の作業を助ける爲、三個乃至六個位の作業燈が點火される。四邊海にて圍繞され、水産業はその重要産業の一つである我國に於ては、今後電氣知識の普及につれて此の集魚燈の利用は、益々増加の一途を辿るものと豫想せられる。

活動寫眞用
電球の話

日活の横田さんが日本で活動を興業に使つてから四十年、最近の活動寫眞の進歩は實に目覺しいものがある。一口に活動寫眞用電球と云つても活動寫眞を映寫する爲に使ふ電球もあれば、撮影に使ふ丸型の大きな電球もある。以前は活動寫眞と云へば直ぐアーク燈の青味を帯びた白光を想ひ起す程、殆んど電球等使用されなかつたが、最近活動寫眞の家庭化と共に、漸次製作技術の向上に伴つて、現在では興業用の機械を除いては殆んど全部が電球に依つて映寫されてゐると云ふ有様である。活動寫眞の普及は實に電球の進歩に負ふ所多大なるものありと言はねばならぬ。活動ファンのメツカ蒲田スタヂオ、大道具小道具雜然たる一角に、洋室らしき設備のしてあるセットがある。やがて監督の號令一下撮影は始まる。頭上一間の所に一キロのトツプライトは煌々と輝き、サイドライトは側面より射るが如く、俳優のプロファイルをクツキリと浮べ、三キロ或は四キロの眞晝を欺く大スポットライトは、或は高く、或は低く、蟻の這ふものがさぬ程、俳優の動作に伴つて圓筒の如きビームを投げかけてゐる。春寒猶去り遣らぬ昨今、薄物一枚で數時間ライトに責められてゐる俳優諸君も却々以て樂ではない。最近トーキーの擡頭物妻く全國のトーキー映寫館は四〇〇館以上にも及んでゐる。トーキーフィルムが發聲するのはフィルムの録音した部分を通して光電管に光を送るからであるが、此目的に使用される電球にトーキー用電球、一名光電管エキサイター用電球とも呼ばれてゐる小さな管球電球がある。型こそ小さいが聲の良し悪しは此の

電球の性能に懸つてゐる事を思へば山椒に似てピリツと辛い。

「八分艶消」赤箱 新艶電球の出陣

電球の品種には半艶消と全艶消の二系統があり、製造の立場にある弊社側も亦販賣側の皆さんにも、電球二重奏となつて徒らにストックは煩瑣取扱には不便を感じて居た。ソコで此の二つを合せて一本に出来たらとは自然に考へられる問題であり、又其希望を寄せられる向も多かつた。我社に於ても色々此研究を重ねて居たのであるが、八分艶消が恰度兩方を綜合して働程曲線にも良好な成績を示す確信を得、且つ關東關西方面の有力店の批評を求めた處、双手を擧げて歓迎と云つた調子であるので、之を「赤箱新艶電球」と銘打つて市場に漸次デビューさすことになつた。處がストックの關係上一時に全部新艶に置換へる事は出来ない。現在の賣行の氣配から先づ一〇〇Wを三月末、亞いで四月上旬六〇Wの順序でスタートを起し、大體今期中には三〇W、四〇Wとを賣出し、此四種類を皇紀二五九四年新型品種とする豫定で進行して居る。従つて當分の間は半艶、全艶、新艶の三重層は免がれぬが、聽て「八分艶」即ち「新艶」時代を招來することであらう。特約店ストックの關係上當分此新艶の廣告はせぬ計劃であるが、遷り變る「標準型」に就ての理解を十分豫めお持ち願ひ度い。然し地方的な特別のお好みによる半艶全艶は將來共に御注文に應ずる次第であるが、在庫の單純化資本の回轉率を高める爲めに、偉大な使命を有つ此新艶電球の出

現は、電球發達史の一頁を飾るに足るであらう。因に附言して置くが、「艶消」とは硝子球の表面の艶を消すことであるから外面の艶消、「新艶」の艶とは内面八分艶消で硝子球の表面の艶は依然存続する故、「艶消」と云はず、「艶」と云ひ此機會に呼稱をも改めた。物理的のことは兎も角「感じ」のよさを選んだ次第で、之も改良の一である。

マツダ投光器用 電球の話

眞白なその巨體一パイ 茫を浴びて馬蹄型にクツキリと大空を區切り、斷然西銀座を壓倒して立つてゐる日本劇場の勇姿は正に帝都夜の豪華版である。投光器用電球は作業場、廣場、操車場などの照明から更に用途は極めて多角的となり、建築物の足もとから外壁に沿ふて光を投げかけ、その建築物を闇の中に浮び上らせる所謂溢光照明だとか、又最近著しく一般化したものにプール、海水浴場、運動場の照明がある。昨秋早稻田大學に我國で始めて設置された野球場の夜間照明の如きは、投光器一五六個電力二三四キロワットにも達し、投光器用電球躍進の一大エポックを劃した。日本劇場や朝日新聞等と肩を並べて數寄屋橋々畔に今着々工事進行中の共同ビルの外壁に、聽て取附けられる新型の投光器用電球は又斷然新しいタイプである。此の電球の特徴は管型で出来て居り、特殊燈具の拋物線の焦點に電球の織條が来る様に設計してある爲、或る一點から照射光して非常に廣範に渡り光を擴散する必要がある場合には最も其威力を發揮する。又近年外國の

雑誌に盛んに書かれてゐる庭園の一隅を照す溢光照明の方式が我國でも次第に行はれる様になつて來た。闇の庭園の一角にポット浮び出て婉然と笑ふ櫻花一朵は、燦々と降る陽光の下に見るとまるで異つた風情がある。

豆球で寫す

活動寫眞の話

赤い夕陽の滿洲は、南船北馬の古語の通り交通の開けてゐる處は鐵路に沿つたほんの僅かな部分に限られ、従つて一般に住民の知識の程度は日本等と到底比較にならぬ程低い。そこで關東軍では滿洲各地に散在してゐる我兵士を慰問すると同時に、滿洲國の人々をも啓發するには耳からよりも目から教へる映畫教育が一番良いと云ふ事になつたが、サテ滿洲では一寸田舎にでも入るともう電源を得る事が出来ない上に、交通は極めて不便となるので、到底重い蓄電池では用をなさぬ。そこで乾電池使用の映寫機を作製する事になり、従つて使用電源の容量を考へて五ボルト、一アンペアの豆球を使ふ事となつた。此の電球は豆球とは云へ能率は非常に良く作つてあるので、三六ミリの標準フィルムを相當鮮明に寫し出す事が出來、携帯も至つて便利であるから滿洲では勿論の事、内地でも山や海のキャンプ生活等に此の豆球の齎す潤ひは相當なものであらうと思はれる。因に商品名はマツダ活動寫眞映寫電球(電池式)である。

涼味の光

マツダ晝光電球

春だ春だと云つてゐる中に、早や明日は靖國神社の御祭で端午の節句も間近く、つい先日まで妍を競つて咲誇つてゐた櫻花も空しく庭前に散つた花吹雪に僅に其名残を止め、初夏はスクスクと伸びる青葉と共に日毎に足掻き早めてゐる時、正に晝光電球待望の候である。むしむしする夏の夜見る物聞く物總てが暑苦しい中に、ほのかに青く輝く晝光電球は一日の灼熱に疲れた神經を休めるオアシスであり、一機の電氣扇にも勝した清涼剤でもある。去年の夏、甲府辨理店の横田さんは自製の晝光電球と普通球との比較箱を携げ、涼しい明りの晝光電球は商賣繁昌の基のスローガンを掲げて、甲府市内の呉服店小間物店を虱潰に訪問勧誘して大成功を収めたが、今日では色物を取扱ふ店に於て晝光電球は物指や鉢と同様にサーピス上必要不可欠のものとなつて來た。近年特に昨秋から東京では伊勢丹デパートを始め次第に店内照明に晝光電球を使用して明るい氣持を出そうとする傾向が濃厚になり、色物の見分と云ふ特殊な功德を持つた晝光電球今夏の大活躍は既に約束された感がある。

防空演習用電球

突如として起るサイレンの音と同時に、今迄煌々と輝いてゐた町々は一聲にパット火は消へ、防護團員の空襲消燈の叫のみ闇を貫いて鼓膜を打つ、凄慘と緊張の交錯した數分の後、早くも我戒陣を突破した敵の數機は頭上に迫つて來た、機翼

にほのかに見ゆるシグナルと、轟々たる爆音によつてそれと知られる敵、味方の敵機の追ひつ追はれつの空中戦に相呼應し、地上からも轟然と大氣を揺する高射砲の唸り、豆を煎る様な機關銃の銃口より吐く火焰は闇中に紅蓮の尾を引き、必死の活動は開始せらる。防空演習は今や酣である、昨年關東地方で防空演習が實施せられた時、我社では特に防空用の電球を試作し、陸軍省や逓信省又川崎驛等で實驗の結果大好評を博し、其後臺灣でも今夏行ふ演習の爲に、臺灣軍司令部より鐵道部へ本電球の採用方を指令し、一千五百個の列車用のこの電球の注文を受けた。此のランプの特色は洋梨型或は茄子型のバルブに、光が洩れない様に内面反射のコーチングを施し、電球のトップに小さな透明硝子の窓をあけ、其處から光を眞下のみ照射すると云ふ點であるが、今年も所々に演習實施の豫報があるからして、此の電球の活躍は大いに期待せられてゐる。蓋し此電球は直下局部照明用である故獨り防空演習の時に限らず、時計屋さん、印刷屋さん、素より一般家庭常用ひられても斷然面白い、其シックな色合照明の面白い効果は新人の琴線にピッタリと合つて居ると云ふ朗かなニュースにも接して居る。

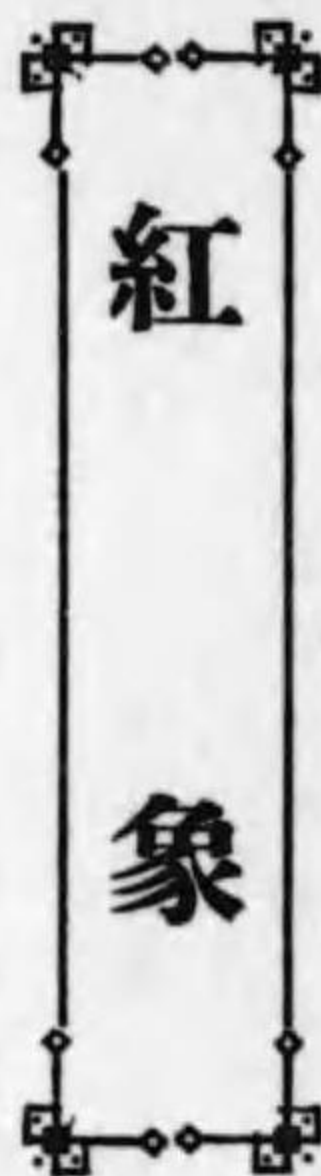
マツダ街路照明 用電球の話

街路照明は暗夜行路の道案内としては勿論、街路の美觀上からして又一方無言の警官として、現在では文化人と密接不可離の關係になつて來てゐる。處が東京に於ても銀座とか上野等の盛場には大街路照明の施設が爲さ

れては居るが、然し一寸郊外に近い新開地にでなれば、闇夜等手探り足探りと云つたヒドイ處も少くない。之を總括的に見る時東京市に於て街路照明施設を有する街路は、全市街路の總延長に對し僅か二割を占めてゐるに過ぎず貧弱なりと言はざるを得ない。帝都たる大東京市に於て然り、他は推して知る可しである。住民の安寧幸福の福音使として商店街發展策として又業者に對しては増燈開拓の新分野として、街路照明こそ今後益々發達すべき運命を擔つてゐると云へやう。街路照明には上向點火と下向點火の二通の様式があるが、現在我國では前者の上向點火の方が多く用ひられてゐる。街路は家の中と異りトラックや荷馬車の様な重たい物が通る爲振動も餘程強く、普通の電球では早く斷線したり又殊に洋梨型三〇〇W以上の電球は原則的には下向に點火する様に出來てゐる爲、上向に點ける場合思はぬ不都合を生じる事がある。そこで特に此等の點を考慮して街路照明用の電球が製作せられてゐる。最近外國では光の色は黄色ではあるが、非常に高能率で物の見分の良くつくナトリウムランプを應用して、自動車専用道路の街路照明に使用し、好成績を擧げてゐると云ふ事である。我社でも先般構内に特設したポールヘッドに此のナトリウムランプを點火し、試験と同時にデモンストレーションを行つてゐるが、青葉を通して燦然と山吹色に輝く光は、其堂々たる燈具と共に正に川崎驛頭の一偉觀たるを失はない。

高壓水銀燈利用 の銀座晝光化

高壓水銀燈は漸次外國で一般照明に利用するに至り、現にフィラデルフィヤ市にあるワナメーカー百貨店では、之を普通の白熱電球と併用して晝光色を出し、店内照明に使用してゐるそうである。我社では正門通路の片側にナトリウムランプ、又片側に此水銀燈を點じたポールヘッドを特設し、實驗の結果は非常に優秀であり又實驗はズット繼續して居る。此電球は二五〇Wの管型電球で水銀燈特有の赤味のない青色光を放ち、能率は晝光電球の約三倍、大變明るい、スキッチを入れて發光の全能力を發揮するまでに約十分を要し、而もアークランプである爲め過大に電流が流れる事を防ぐのと、此電球は二二〇Vでなければ充分光らないので、電壓を一〇〇Vから二二〇Vに上昇せしめると云ふ二つの役目を兼ねたスターターを、使用せねばならぬと云ふ事が取扱上不便であると云へば云へる。我社の此實驗は中央電氣會社の椎橋さん、久野さんの目に映じ、其結果兩氏は六月好期逸す可らずと早速管下の銀座町會と交渉を開始し色々と話合つた末、中央電氣會社から京橋、尾張町、新橋三地點のポールヘッドに使用の爲め水銀燈及附屬器具數點を寄附し、其代りに町内の全商店は全部晝光電球使用と云ふ事に話は纏り遂に町會の決議となつた。斯くなるにワナメーカーを銀座街頭に又店頭店内に實現することとなり、銀座だけでも今夏晝光電球一萬個は大丈夫と凄いや意氣込である。



近畿便り

大阪の渡邊橋の橋畔朝日ビルの中にある某電氣店、開店以來今日まで約五ヶ月程になり、電球は日に平均十五個の賣上がある。處が最初はマツダを取扱はなかつたが、御客の方でマツダばかり指定して來るので、現在では十中八九迄マツダランプを賣つてゐると云ふ話、場所柄だけに智識階級が多いとは云へ需要家宣傳の重要さが痛感せられる。

先般和歌山で同地の商業會議所で和歌山第三回マツダ會を開催し、市内だけで本期責任數二萬二千個と決定、會員のOKを得た。そこで和歌山辨理店は今期四萬個を目標とすると云ふ、連判状態々以て効果觀面である。

神戸の疋田電機店は大のマツダ黨で全光電球が大好き、秋の賣出しには一千個の中三百個は全光電球、今春の商戦にも百個の全光電球を仕入れ、現在では全光電球ばかり賣れると云つた有様とある。結局御客は或る程度迄賣る人の好みに左右せられる事が首肯せられる。

久留米と佐世保と

從來久留米辨理店管下佐世保市内の小賣電球の賣上成績は餘り香ばしく

木浦のニュース

なかつたので、マツダ會の創設を急いで居たが、先般目出度發會式を舉行、會員九名で年間二萬乃至二萬五千個を引受ける事を固く申合せ、從來の販賣成績、年間約五千個に比較し一躍四倍の激増を見る事になつた。連判狀式調印の妙味は盡きぬ。

佐世保マツダ會と時を同じうして高知辨理店管下では、御免町と山田町の販賣店十軒を以て高知第二マツダ會を結成、早速御免町に召集して席上値段の嚴守を申合せ、本期中五千個の責任數を各會員に割當て引受させた處、出席者の中に音頭を取る者があつて、各店に割當られた責任數は誓つて引受ける事を申合せ、マツダ萬歳を三唱して散會したとある、因に從來松村卸店の區域であつた野市、赤岡、岸本、夜須、安藝の五ヶ町の販賣店は地理的に不便の地である爲、無招集マツダ會員として松村さんが統制する事となつた由である。

朝鮮の木浦辨理店では皇太子殿下御降誕奉祝踊を舉行する爲「マツダランプの歌」を作つた。その一章を。

ハア祝へはらからチヨイト双手をあげてヨイヨイ

今日の佳き日を今日の佳き日をもろともにサテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ハア灯せともせよチヨイトマツダのランプヨイヨイ

御代の光を御代の光を壽ほぎてサテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

(東京音頭の曲)

近畿地方の
マツダ會工作

奈良辨理店の藤田さん雪解けと共に俄然猛烈なる活動を開始し、本月八日には田原本マツダ會、九日には櫻井マツダ會、十日には高田マツダ會、松田マツダ會を連續的に開催、十六日には郡山マツダ會の發會式を挙げ、十七日には餘威を駈つて五條町に進撃、さしもの難物Y有力店も一氣に落城させて芽出度五條マツダ會を結成し、茲に奈良辨理店下のマツダ會は八ヶ所を數ふるに至り、それ等の引受責任數の總數は四萬個となつた。遙に藤田さんの健闘を祈る。

先般京都府下宮津町で第二回宮津マツダ會を開催した時、席上當マツダ會本期販賣責任數を五千個と決定、同時に會の健全なる發達を期する爲不良會員の除名を決議した。不良會員とは支拂不良並に亂賣常習者を云ふのだそうである。會員の眞劍味が思ひ遣られる。

金澤辨理店
の春季商戦

金澤辨理店では去る二月十日から三月十日までの一月間商戦を実施した。今期豫定獲得を目標として而も期間が短い事とて戦は當初より猛烈を極め白熱的追撃に終始し、遂に六萬二百一個と云ふ好成績を収めて終了した。内

譯はワット球三萬六千二百五十一個、赤タン一萬九千三百五十個、サイン球四千六百個である。

關西と どころ

とある。水郷松江に咲くマツダの花に榮光あれ。

この程京都府下網野町で網野第二回マツダ會を開催した。網野町は機業地の爲め漸次休燈時季に向ひ需要も激減と云ふ事であつたが、豈圖らんや本期も前期通り二千個引受と確定した。「當地は機業の中心地、販賣店各位の販賣熱高潮に達せば二倍三倍の責任數は易々たる見込」と大阪出張所の松岡さん物凄い元氣である。

香川辨理店區域の丸龜マツダ會は、今期間の割當責任數四千個を會員各位に割當た。從來同市では値段の五錢引で小賣をしてゐたが、席上幹事の三井さんの努力によつて協定値段の嚴守を固く申合せた。蟻の穴からでも堤は切れる。疑心暗鬼なき協力一致こそ健全なる發展への本道である。

函館の大火

三月二十一日夜十時、風速四十米の烈風中突如として北海道函館市に起つた劫火は、忽ち二千名に近い尊い人命を奪ひ、二萬戸に餘る家屋は遂に焦

土に歸した、親は子を失ひ子は親に別れ、剩へ北海の寒風は無情にも事後三日間も肉親を失ひ家を失つた氣の毒な人々を氷雪の中に曝したと云ふ。事件發生の報一度各地に傳はるや全國の同胞愛は糾然として起り、或は救援隊の派遣となり、或は新聞社へ義捐金の寄託となつて現はれてゐる。不幸我が函館辨理店の竹内さんの御家も灰燼に歸してしまつたが、然し御一家御一同御無事避難せられ微傷だに負はれなかつた事は、不幸中の幸であり、せめてもの慰めである。竹内さんは事件後直ちに蹶起して假事務所を焼け残つた驛前に設置し、電話を假設すると同時に舊住所の地藏町の廢墟にバラックを急造し、且從來一家の仕事として次弟が行李や鞆の店を開いて居たのを止めて之を電氣部の方に併合し、今後は電球とラヂオ一式で進み、ランプは年間十萬個を目標とする事に決定された。御兄弟三人店員五名力を合せて日夜復興に努力して居られる様は涙ぐましいものがある。先般竹内さんはナツパ服に身を固めて川崎本社を訪れたが、その凜然たる眉宇には禍を轉じて福となす確固たる決心が窺はれた。遙に全國辨理店の諸氏と共に滿腔の御同情の意を表する次第である。

但馬便りと

伊豫便り

先般三丹辨理店管下の但馬篠山町で篠山マツダ會を開催した。處が丁度昨年未某方面より赤箱は二等品などと赤箱攻撃の怪しからぬ中傷的新聞廣告を掲載した爲、席上大分此の問題が喧しかつたが、結局大阪出張所の松岡

さんの説明に依つて、赤箱こそ最優秀品である事を諒承し、本期同會引受責任数を二千五百個と決定、之で三丹辨理店も本期責任数は三萬五千個に達し一意之が達成に邁進する事となつた。此程松山辨理店區域の大州町では大州マツダ會の發會式を舉行 席上値段を協定し之が嚴守申を合せ幹事を互選した處、有力店の山中さんが當選全會一致で責任数を四千個と決定し之が協力突破を約束した、因にマツダ會發會式が縁となり同地同業組合設置の議が起り、組合長に中山さんを推し櫻花満開の頃産聲をあげる事となつたが、此の爲に同マツダ會では會員の發言に依り山中さんを卸店と決定し、去る三月廿三日以後は會員はすべて山中さんから購入してゐる。

電球サツク型の

カット アウト

本社から最近電球とサツクの「カット アウト」を全國の特専店階級の電氣店に向つて發送した、ショーウィンドウの中にカウンターの上に、春の和やかな空氣と調和してマツダランプの明朗な雰圍氣を形成してゐる。特にサツクの中のコードの附いた電球が點火せられた時は、他の點火しない電球迄も緒一に眞珠色に輝き、行人の足を止めるに一層効果的である。陽春の店頭へ相應しい飾物である。

大阪、松江

會津の近況

先般大阪の阪神共同電氣會社管下天満マツダ會が春期會合を開催した時、會員全體で連判狀を取つて爾後絶対に亂賣をしない事を誓約し、且今後は簡単な經費でマツダ會を度々開催し、會員相互の親睦を計る事を決議し

た。當日の會費一人前二十五錢大阪商人の眞劍味を窺ふに足る。

四月に入つてから山陰の松江辨理店管下では木次、今市、平田、米子、境と連続的にマツダ會を開催してゐる。引受責任数は木次二千二百個、今市三千五百個、平田一千七百個、米子三千五百個、境一千二百個と決定したが、ソケット數との比較から云へば各マツダ會共餘裕綽々たるものがあり、責任突破は一つに電氣店の精神作興如何に懸つてゐる。マツダ係坂田さんの健闘を祈る。

會津辨理店では三月一日から四月三十日迄活動寫眞招待券附大賣出をやり需要家宣傳に努める一方、卸店に對しても期間中最も引取數の多い六人を選んで川崎本社の照明學校へ招待する事とした爲、目下各卸店共鎬を削つて激戦中とある「今期こそ大丈夫好成绩を報告し得る」と石山さんの意氣込はスゴい。

滋賀便りと

甲府便り

滋賀辨理店管下長濱地方では、マツダ會員の電氣店が配給所を嫌つて其處から電球を引取らず始終ゴタゴタしてゐたが、三月二日の長濱マツダ會に於て「本社並に辨理店より直送。但し急を要する場合は理事鈴木さん、家森さん、鳥居さんの三電氣店より無手数料で配給し間に合はす」と云ふ事に満場一致で決議し、直ちに各會員の責任個數も決定して引受を了した。そこで辨理店では直ちに註文書のフォームを

作成、會員に郵送した處、忽ち註文殺到し暗雲退散の今日では會員一同朗かに一路責任數の達成に邁進してゐる。因に同辨理店では會員證として班瑯引の看板を作成し會員間に配布し、店頭の花の美しかれと祈る。

去る四月十七日甲府辨理店では三十餘名から成る大宣傳隊を組織し、早朝天地も響けと城中にこだまする大太鼓の音を合圖に、爛漫と咲匂ふ櫻花に送られて舞鶴城を出發。終日市内を練歩いて大成功裡に終幕した。此の宣傳隊の特色は販賣店主、子息、店員の諸氏が欣然として参加せられた事であるが、各員の熱心さの程も思遣られ横田さんの元氣や當る可らず。

愛嬌味のある

最近我社の、ワット電球に良く似た球でバルブのトップに「眞珠瓦斯入一〇〇V五W」と銘記した電球が巷間に賣られてゐる。現在の我國では未だ瓦斯入電球
 試験に及んで見たら、此は如何に新發明品にあらずして瓦斯入處か七ワット半も食ふ大ポロ球と判明したインチキも此邊迄徹底すると愛嬌味が出て来る。

修業式と長崎

去る三日の午後新橋の藏前工業會館で 山手電氣會社管下の電氣店主十一

ニュース

人の第三回在外研究員證書授與式が舉行された。我社の清水副社長の挨拶に續いて卒業生一同を代表し エジソン商會の魚住勵さんが演壇に立ち「此の講習によつて如實にマツダ製品の優秀性を確認し得、萬人の味方を得た様に心強く、今後我々は従來の自個中心主義を棄て社會一般の爲に永遠に生きる道を見出さねばならぬ」と語り、次いで「それには宜敷く之を機會に研究員一同一致團結して、マツダランプによる照明報國に邁進し度い」と力強く述べられた。最後に特に病後を押して出席された第一期生代表本澤常吉さんが、昨年より在外研究員の手始の事業として行つて來てゐる掛圖使用の街頭講演を實演してその要領を教へられたが、そのユーモアたつぷりな講演は満座の人を全く照明經濟の話中に引込むものがあつた。夕刻和氣霽々裡に散會した。

長崎辨理店では「マツダランプ宣傳」の赤襷を掛けた店員二名殆んど毎夜の如く市内を軒別に勧誘して歩き、マツダランプの定價販賣實行の結果平均一人、毎夜九圓内外の賣上があり、此の勧誘料の一割が月給よりも多いので洋服や靴を買つたり残り貯金が出来、店員もニコニコ宣傳も徹底、やつて見ると妙に五W良く賣れ、現品持參の勧誘宣傳の効果一〇〇パーセントであるとは朗らかなニュースである。

「涼味の光」商戦

時既に五月も中旬若葉も日増に緑を加へ、町行く人の装ひにも夏來るの感

は深い。吾社では今年も例年の如く六月一日から七月三十一日迄二ヶ月間に亘つて晝光電球の商戦を実施する事とし、既に諸般の準備工作も終了した。「涼味の光」こそ夏枯征服の最良の武器。諸賢の健闘を希ふ次第である。

販賣主義より

開拓主義へ

販路擴張の一般的方法は或町を選び其町の有力店を探し、其店に是非共御盡力をと頼込む、所謂有力店一本槍の販賣主義である。此の方法も勿論結構であるが、乍然此遣方では其店一個の熱量で狭い範囲に支配され、或程度迄の成績は上つても大部分を放棄する事になる。夫は恰度植物を植へるのに大きな根の下だけを耕した儘で置くのと同様であり、相當範囲に涉つて耕してない爲に伸びんとする大切な毛根の發育は妨げられ、營養不良に陥り結局花が咲かぬと云ふ事になる。然らば毛根部の耕作施肥とは何か。そこで従來の廣告方法とは別に、或町に於て最も人目に附易い場所々々を選んで、柱掛の瑛瑠引看板を掛けたらと云ふ一案がある。尤も之を實行するには、他人の家に看板を掛けさせて貰ふのだから、どうしても町内の有力者の援助とか何とか特別な手段も入要であらうが、兎に角K町の辻々にはマツダの瑛瑠引看板が掛つたとする、之が第一工作である。畑は耕した肥料は遣つたあとは播種あるのみ。そこで其町の電気店、ラヂオ店を訪問して相談的に其店の引受數の交渉を始め、順次交渉の結果其等の引受數の合算がK町全體の販賣豫定數

に達すれば良し、若し達せねば更に硝子屋とか時計屋とかを開拓してある數を引受させK町見込數に達する様にする。此れが第二工作である。此點は従來豊公清洲の割普請とも云ひ連判状とも稱して來た處である。種は蒔いた。肥料は利いてゐる。自らマツダランプの販賣店へのストア、トラフィックは多くならざるを得ない、かくして苗はスク〜と伸びて行くが、聽て第三工作として移植とか間引く必要が起つて來る。之が値段の協定でありマツダ會の創設である。現在本部では右の考への下に着々研究を續けて居り、最近右の縦二尺横三寸の瑛瑠引看板を製作することにして居る。辦理店の皆様に於て此の看板の御希望があれば入要數を電球課迄御申越を乞ふ。

第一着手は

武者繪カード

今期も餘す所一週間愈々戦は大詰に近くなり責任數目指して獅子奮迅と奮闘される最前戦の皆様は並大抵ではない。又相當のストックを抱へたマツダ會員店が之から夏向に其消化を迅速にすることも、更に一段の努力を要することであらう。ソコで本部では消化を促進しマツダ會員の賣上回轉率を高める便として、六月一日より直ちにマツダの夏期サービスの大運動を開始し、各位を御援助申上げる事となり目下着々工作中である。其計画は漸次發表の豫定であるが、先づ第一弾としては「武者繪カード三百萬枚」の配布である。此繪は「楠公父子櫻井の別」「源義家が櫻吹

雪を浴びて出陣の圖「源義經壇之浦の八雙飛」加藤清正の虎退治「川中島の上杉、武田兩雄の決戦」見るからに血湧肉躍る勇壯極まりなき五枚の武者姿であり、栗として洵に重寶のものである。而も之は今春東京、横濱、静岡の六卸會社が利用して非常な人氣を呼んだものである。之を五月の勘定でプッシュした電球數に比例して、卸會社辦理店よりマツダ會員に配付し、六月一日以來「マツダの夏期サービス」の一としてマツダランプの景品に御利用を願ふ。追つて「マツダ夏期サービス」の店頭釣下看板を配付す。一日も速かにストックの拂出をすることは、夫丈け資本の回轉率を早めることである。第一彈第二彈第三彈と更に巨彈の用意は「マツダ夏期サービス」の旗印の下にドンドン行進しつゝあり。

防空演習用

電球の規格

曩に御紹介申上げた防空演習用電球は、其後益々好評を博し、臺灣から四千二百個、近畿地方より一萬三千個の大量注文を先頭に次々注文又照會に接し、工場は爲めに多忙を極めてみると云ふ有様である。我社では非常時に鑑み電球報國の一端として、この防空演習用電球は特に定價を三十錢として提供する事としたが、規格は左の通り一般用十ワット一種とし、其構造は大型の茄子型、硝子球の頭部に圓形の透明部を残して其他の部分は空色内面コーチングを施し、更に纖維の周圍に白色コーチングを施してある爲、照射角は約六〇度即ち電球が床面より二米の高さにある時、床面上の圓形の

照射面の直径は約二・五米である。而も照射面の燭光は約一四燭であつて、反射率の高い白色反射面をコーチングしてある爲、普通の一〇W球の約二倍の明るさを持つてゐる。電球規格及定價は

- (イ) 真空螺線纖維
- (ロ) ボルト 一〇〇—一〇V
- (ハ) ワット 一〇W
- (ニ) 電球ノ直径 六〇ミリ
- (ホ) 電球ノ總丈 一一二ミリ
- (ヘ) 口 金 普通捻口金
- (ト) 定價 三十錢

尙右以外に列車用の防空演習用電球は特別の規格及定價に依る事となつてゐる。

初夏のニュース

本部隊では戦線各位掩護の爲め、適宜巨彈を新聞に又雑誌に放つて行軍の効果充實を期してゐるが、初夏に際する適時砲撃として「マツダランプの新聞廣告圖案文案の大募集」の形式により、之を二十日以來東京、名古屋、京都、大阪、神戸の大新聞十三紙に發表した。賞金は圖案文案共に七百五十圓宛であり、大紙面を埋めるマツ

ダの廣告文字と相俟つて、其公衆への訴及的効果たるや實に素晴らしいと、東都新聞界は或種のセンセーションを捲起した。

甲府辨理店の横田さんの報告の一節に「頃日山梨縣全圓に渡る甲府稻積神社の祭典、加ふるに山梨縣赤十字總會にて閑院總裁宮殿下の御來駕を仰ぎ奉り、二、三、四の三ヶ日間柳町街頭に小屋を設け、此の人出を利用してマツダ販賣店聯盟の名に於てイルミノアムメーター比較試験を致し候處、俄然素晴らしき人氣を博し直ちに販賣店に走るもの、目下點燈中の電球を持つて來るもの、等實に愉快なる宣傳を致し候云々」とあり三日間の奮闘にスツカリ咽喉を傷め聲を枯したと云ふ横田さんの面目躍如たるを覺ゆ。

三寸看板

開拓主義への第一工作、町の辻々へ掛けるマツダランプの瑛瑯引看板（縦二尺横三寸のものは他の看板と區別する爲め將來三寸看板と呼ぶ）を本時報に發表するや、滋賀、長崎、廣島、埼玉、大田、福岡の六ヶ所よりイチ早く申込があつた。本部は更に此三寸看板第二段の工作に着手と同時に諸般の準備に躍進して居る。此方程式Vは販賣の效果即ち賣上數、Sは販賣術、Xは宣傳法で販賣術に宣傳法を加へた丈では効果は少ない。販賣術に宣傳法を乗じて初めて最大の効果が上る。由來宣傳法は環境に依存して効果が伴ふものであり、其儘が未定數のXである所に興味があると云ひ得べく、此工作に本部

は目下没頭中である、目下米國に視察出張中の寺尾廣告課長さんよりも新らしい資料がドシ／＼届きつゝあるから、次々に有効なXが現象することと思ふ。蓋し如何に有効なXでも之を販賣術の努力に掛合せねば何等の効果が伴はぬ。「鐵道沿線の瑛瑯引看板」はよい特約店募集の効能があると、先般上京せられた釧路辨理店主高橋さんから承つたが、此三寸看板には夫と同様の機能が期待せられる。

又新時報

續刊に際して

二月一日春霜と共に筆を起したマツダ又新時報は其豫定のコースを無事終る事となつた。顧るに此間極めてラフな描寫ながら或は電球の諸品種について紹介し、或は地方的ニュースを掲載し、常に休戚を俱にする皆様の無言の親友として慰め合つて來た四ヶ月であつた。「新艶電球」發賣の號外には直ちに會津より照會の手紙を寄せられ、又近くは「三寸看板」については直ちに十指に餘る申込を受け、殊に長崎辨理店の如き先に出した方面彙報の拔萃を活版で印刷して管下の電氣店に配布し、教育資料として使用されて居る等此のさゝやかな又新時報に心の友を見出す時、編輯に當る本部としては感激の外なく層一層と勇氣附けられて來たのである。今や又新時報は發刊當初の聲明通り其任を終へてゴールに立つてゐるが、然し此の短い四ヶ月間の活動だけでは何んとなく物足りなく而も時は正に夏枯を迎へんとする今日此頃終刊してしまふのは何んとしても心残りせざる

得ない。そこで移り行く業界の情勢を最も早くキャッチして皆様に報導し、御互の繁榮への道を一里塚としたい念願から、又新時報は更に「又新」の元氣を以て、若鮎の如く潑瀾と續刊して行く事とした。心の友として有益な示唆を得られる便ともなれば幸甚である。

防空演習用

電球註文陸續

防空演習用電球は發表以來好評噴々。又々大阪方面から五萬七千個の大量豫約の註文を受ける等註文相次ぐ盛況であり。従つて工場でも期日に遅れては一大事と、去る三日の日曜日も臨時出勤して大車輪の活動中である。先般大阪の阪神共同会社の玉井さんが此の電球の見本を持つて廻つてゐた處が、丁度時計屋さんが居合せ時計の修繕にはは重寶だと大變褒められたと云ふ朗らかなニュースがあつた。勿論時計屋さん印刷屋さん等も此の電球の良得意ではあるが、更に一層大きな得意としては病院の病室燈又工場の作業場の手許燈として大量的フィールドが存在する事は見逃す事を得ない。滋賀辨理店の村田さんも去る四日報告を寄せて、地元八日市マツダ會は云ふに及ばず地方へ出向いた際は管下の販賣店から豫約註文を取つて來て居るが、近日中に謄寫版刷の註文書を作成し會員に配付し大々的に註文獲得の心算。一會員二十五個平均としても約二千個は賣れそうだとある。依つて此際エビスの親子電球を一蹴し度いと闘志滿々の報告があつた。

巨象の垂看板と

赤鉛筆の景品

去る六月一日より全國一齊に開始した拂出の大運動は、各地とも着々と其緒に着き先日來本部に於て考究中であつた「夏期サービス」の垂看板も愈々明後日（十三日）出來。直ちに出張所を通じて全國の辨理店へ配布の豫定である。此の垂看板は白地に綠で夏期サービスの六字を大きく染出し、大象がマツダランプに乗つた姿は威風堂々四隣を拂ひ、正に此の拂出運動の大旆たるに相應しい出來榮である。此れと同時に先日來武者繪に續く第二弾として準備中の赤蕊鉛筆も十五日出來の筈である。此れは適當數を出來次第遲滞なく直ちに辨理店へ直送し、景品として一〇〇パーセントの効果を收める様御利用を願ふ事になつてゐる。巨象の旗印のもと第一弾第二弾と續く巨弾に「夏期サービス」の砲煙は巷に次第に濃くなつて行く。

長岡便り

去る五月長岡辨理店は管下の高田市でマツダランプ宣傳のチンドン行列を行ふ事になつたが、丁度時を同じくして高田市では市で招聘した信州名物を同様に、武者行列が通る道順を先へ先へと前觸的にやつてのけた。何しろ町は市内の人は云ふに及ばず、此の武者行列を見んものと押し寄せた近郷近在の人々でゴツタ返し押すな押すなの大盛況。そこを時代物の鎧兜に身を固めた古武士の一群が肅々と進む前を、之れとはまる

で正反對の文明開化の權化の**マツダランプ**の宣傳隊が、陽氣にチン／＼ドン／＼とやつて行つたものだから宣傳効果は正に二〇〇パーセント最近のタイムリーヒットであつた。

長岡では以前晝光電球を盛んに宣傳した事はあつたが、最近ではどうしたものか管下の電氣屋さん晝光電球に熱がない。西山さんハテ此れは變だと早速調査に及んで見たら何んのこと、電氣屋さんの方では「晝光電球はもう止めになるのかと思つてみた」と云ふ御挨拶。面喰つた西山さん「どう致しまして此の電球こそ、之から需要がウンとある最新式の電球です」と説明しては歸つたものゝ之れでは駄目だ。そこで長岡の高工電氣科へ馳附け、是非一つ晝光電球をと忽ち注文獲得。その足で早速管下の電氣店に高工でさへも採用した電球だから註文を願ふと話込んだ處が効果觀面、電氣科で御使用になる位の電球ならと直ぐ様合點。其後引續き晝光電球の註文が來始めたとは愉快な話である。

防空電球 好評嘖々

長岡滋賀兩辨理店の大活躍新潟縣下では來る七月十四日から十六日迄の三日間防空演習が行はれる豫定であるが、丁度先般本紙で我社の燈火管制用電球を知つた長岡辨理店の西山さん、現品はまだ見ないが何はさて置き先づ宣傳と早速土地の防護團、在郷軍人會、青年會等を歴訪其話をして廻つた處極めて評判が良い。そこで直ぐ見本にと取敢へず百個だけ註文したが、其後愈々演習氣分濃厚となるに連れ、

管下販賣店だけでも五千個は賣れそうだと目下大馬力をかけてゐる。

滋賀辨理店の村田さんも今夏近畿地方で行はれる防空演習には、自分の長濱**マツダ會**だけで二千個販賣を目指し、謄寫版を利用して防空演習の模様入の引札を作り、その上註文書の特製して管下の販賣店に郵送する等、此の處燈火管制用電球の宣傳販賣に大童の態であるが、先日も宇治川電氣株式會社の近江支店を訪問、定額燈需要家にも使用出来る様交渉し、遂にその承認を得たので喜び勇んだ同氏、得意のガリ版で直ちにその旨を記載した案内書を作成。管下の販賣店に配布し大いに士氣を鼓舞してゐる。現在では同支店管下では五燭光が十燭光の約半數である爲色々意見もあつたが、結局國家的な計劃であり而も此の電球は盜電用として不向であると云ふので、特に**マツダ燈火管制用電球**に限り定額燈にも無檢定で使用差支へなしと云ふ事になつたと云ふ事である。

因に本部に於ては從來の防空演習用電球なる略稱を廢し、本電球の正式の名稱は「**マツダ燈火管制用電球**」と決定された。

晝光電球商戰

第一句の戰況

C-2 電球商戰の幕は、去る六月一日を期して全國一齊に切つて落された。

最初の一句を通觀するに朝鮮軍トップを切り稍遅れて九州勢、續いて關東軍と堂々圖南の鵬翼を張つて各地とも進撃を開始してゐる。初旬の雄は何

んと云つても先ず第一に熊本辨理店に指を屈す可く。長棍一打憂然として響あり早くも責任數突破の長打は本商戰劈頭の快技たるを失はない。大田、三丹、大邱、和歌山、博多、全州、羅南等勇躍機先を制して勝敗を一舉に決せんとするものゝ如く、孰れもスタートダッシュは物凄い勢である。戰は未だほんの序の口の前哨戰に過ぎず、此れからの頑張り具合で如何なる黒馬の出現するや全く以て測り知れない。晝光電球のみは今日此頃の梅雨空を完全に蹴飛ばして朗らかである。

奈良辨理店の 電燈會社との

連衡政策。奈良辨理店の藤田さん目下商戰中の晝光電球及今夏の防空演習に對する燈火管制用電球の賣出に懸命の努力中であるが、先般合同電氣奈良支社と交渉の結果、此の二種の電球は辨理店と同社と合同して賣出す事となり、而も今後同社では奈良マツダ會を認め後援に力を惜まぬと云ふ大變な好意を示されたので勇氣百倍した同氏、更に宇治川電氣奈良支店とも目下交渉準備と云ふ事である。因に防空電球は同地方でも非常なる好評を博し既に豫約七百個を獲得したと云ふ。遙に御健闘を祈る。

防空演習目指 して 阪神

共同會社大活躍。大阪の阪神共同會社では場所が場所だけに、今夏の防空大演習には格別の力瘤を入れて頑張つてゐるが、先般同社の原さん京阪沿線淡路の木村賞美堂を尋ねた處店主の曰く「今夕六時から當町小學校で警察

役場及其他の關係者が集合し、役員會が開催されるので其れ迄に防護團長に見本を見せ、團長より一家に一個をモットーとして薦めて貰ひ。是非とも此のランプに決めてしまふ様に努力致します」と語られたとの事である。同じく阪神共同會社の河野さん日頃膝元の第四師團高級副官を訪問。盛んに防空ランプを宣傳した處副官も「大變立派な製品です」と感心して褒めたと朗らかに報告を寄來した。

米國GE會社 より我社新株

七萬九千株讓受く。我社山口喜三郎社長今次の歐米旅行を機とし、GE會社の持株中七萬九千株の讓渡を受くる交渉目出度成立を見るに至り。此結果GE會社の持株は我社總株式の恰度四割に減少し、日本人持株數六割と云ふことになつた。山口社長の此交渉は極めて圓滑に運び、發明經驗の移入に關しては從來と毫も變る所なく、最近發達の事業の應用に對しては寧ろ從來にも優つて自由と便宜が與へられると云ふ二重奏である。我等は此機會にGE會社の襟度に帽子をぬぎ又此取引に伴ふ代金決済に必要な送金爲替に對し、我政府が爲替管理法のエキゼンション允許を與へられし事を衷心より感謝致度い。尙我等に此國家的の慶を可能ならしめた最大の因子は、各位の御後援御指導の賜に外ならぬ。爰に江湖に厚く感謝の誠意を披瀝致す次第である。

畫光電球商戰 第二句の鳥瞰圖

第一句に於て雌伏の形であつた北海道軍と東北軍は、第二句に入るや俄然頭角を現はし一躍忽ち八〇パーセント臺に飛揚し、他の暖國勢を尻目にかけて萬丈の氣を吐いてゐるのは痛快であり、之に續いて九州關東の兩雄肩一つの差を競つて力走是努めてゐる。二十日間を通じて卸會社中の雄は阪神共同の四千四百六十九個であり比率に於ても又相當の成績を示してゐる。何分苦熱の坩堝の様な大阪をその地盤に持つ阪神の事とて驥足縱横の大活躍は本商戰に於て特に期待せられる。辨理店に於ては旭川勇しくも先陣承つて早くも二千三百三十五個と進んでゐるが、函館の一千三百四十個と共に北海道の意氣を示して残す所なし。此の外では長岡甲府不振の關東辨理店中に在つて孤軍奮闘の態であり、關西軍では和歌山、三丹、松江、鳥取の活躍又見る可きものがある。殊に天候不順雨天の多い山陰支隊三店の力戰は、北海道東北軍の熱戰と對比して見る時實に面白く、山陰健兒の意氣隆々と昇るを見る。九州軍中に於ては久留米博多の二巨豪あり。久留米の如きは賣上實數に於て旭川に續いて全國辨理店中第三位を獲得してゐる。時既に七月梅雨の候も後旬日を殘すのみにて來らん炎熱を迎へて盜夏の寵兒C-2の意氣將に昂然である。

函館からと甲府

去る三月二十一日突如として起つた列風中祝融さんに見舞はれた函館辨理店の竹内さんは、其後日夜復興に努力せられてゐるが最近本部に便りを寄

からの便り

せられた。其一節を抜萃掲載して皆様と喜びを共にする次第である。

今回災害に際して過分なる御慰問品御惠送被下且心からの御同情と御懇篤なる激勵を賜り眞に友愛は血縁に勝るの感深く家内一同感激仕候其後皆様の御後援の下に銳意復興に専念仕り着々舊態に相復しつゝ有之候間乍他事御放念願上候云々

尙假營業所の寫眞も同封してあつたが東京電氣株式會社函館辨理店北斗電氣商會の看板の下に竹内さんを始め店員の皆様がズラリと立並び燃ゆる様な闘志が全面に躍動してゐる。

甲府辨理店の中楯さんから甲府マツダ會西部幹事長の眞野さんと連名で、武者繪カードの送附に附て左の様な書信を寄せられた。

今回マツダ夏期サービスとして巨費を投ぜられ武者繪カードの御惠與に預り誠に難有奉謝候早速マツダランプ需要家様にサービス仕候處却々良く出來て居ると喜ばれ武田上杉の川中島源義家の出陣さては壇の浦の源義經等興趣滿喫至つて好賣行にて現在當地の不景氣に反し、我等のマツダ電球のみは好景氣の由會員より悦ばれ居候云々。

天滿マツダ會 の決議録

此程大阪の天滿マツダ會で例會を開催した。回を重ねるに従ひ會員同志の遠慮も去り互に持論を開陳して愉快に進展、當日左の四項目を審議したと

- 一 防空ランプ宣傳 一家一燈主義可決
- 二 定價販賣の強化 可決
- 三 需要家宣傳普及方法 問題大なる爲留保
- 四 時間嚴守 可決

朝鮮 防空 ニュース

朝鮮に於ける防空演習氣分は最近頓に濃厚の度を加へて來た。京城出張所の伊藤さんの報告によれば、豫て提出して置いた防空ランプの見本は非常に好評を博し、第七十三第七十六聯隊所在の羅南辨理店から突如六月末二千個の電報註文が發せらるゝに至つた。一方北鮮鐵道管理局にも列車車の防空ランプが近々發註せられるの機運にあると云ふ。

晝光電球 商戰

第三句の戰況

晝光電球は戰端開始以來茲に三句水銀柱の奔騰と共に戰は彌々白熱線に入り今ぞ酣である。第二句來頭角を現はして來た北海道軍は第三句依然たる黒馬の粘りを示し、第二位の東北軍を次第に引離し悠々トツプを切れば、關西特有のうだる様な暑熱に戰機を捕へた關西軍、此處一番の短兵急な進撃奏効し忽ち九州軍を抜いて第三位を獲得、中京軍は鯨流の頑張りに一躍九州軍と同列となり、此處に端なくも兩

軍天氣晴朗なれども波高く舳々相摩す事となつた。關東軍にあつては長岡の奮闘亞いで甲府の頑張具に流石古豪と肯け、關西軍では阪神共同平安の二卸會社を始めとして滋賀、三丹、和歌山、松江、香川、鳥取等一騎當千の剛者轡を並べて躍進又躍進、殊に弱冠滋賀二句の沈黙を破つて蹶起一番、忽ち關西辨理店軍の陣頭に立ち新進の元氣旺盛な處を見せてゐる。九州軍では久留米一頭地を抜き大分、臺灣、博多、熊本、又良く北海道軍の旭川強力以て第三句も相變らず全國辨理店中第一次を占めて王座を譲らず、英姿颯爽道軍の名譽を双肩に荷なつて堂々と進む。戰の局面は今日此頃の苦熱に拍車をかけられて日一日と展開して行く。

南紀地方のマツダ會

改修工作着々進展

八年前下期は辨理店建設。九年前上期はマツダ會の設置。九年前下期はマツダ會の改修工作。即ち脆弱なるマツダ會を強靱な販賣網に打直す補強工作と觀じた大阪出張所の松岡さん、此程先ず和歌山縣の海南郡から改修工作に着手し始めた。即ち海南郡で上期の倍加工作を施そうと云ふのである。續いて御坊町では五〇パーセント増加について協議打合せ更に田邊町に手を延ばした。田邊マツダ會は本年上期には三千餘個を販賣はしてゐるものゝ、之又倍加工作の必要ある爲マツダ會理事と協議。續いて田邊町に隣接してゐる白濱湯崎は有名な南紀の温泉地で目下發展中の土地だけに一舉五倍増を目指して驀進中。一二度の工作さへ施せば勝算歴々とあり、三十四五度の近年にな

い此の猛暑を冒して此の處松岡さん倍加運動に大童である。

防空ランプ販賣の 新戦術吊下の一手

大阪阪神共同麾下の天王寺マツダ會員宮川電氣商會の御主人、我社で防空ランプを賣出すや逸早く之を仕入れて附近の勝山通の繁華街の各商店に賣込み其の上宮川さんが此等の店主と昵懇なのを幸ひ、各店に御願して之を店頭で吊下げて貰つた。處が之を見た通行人變な電球だが一體之は何に使ふのかと問ふと店主は之はマツダの防空ランプで斯く斯く斯様。宮川さんの店で賣つてゐると教へる計劃、圖に當つた宮川さん僅か三日間で一百個を忽ち賣切つたとは流石に大阪商人である。

滋賀辨理店の緊

急臨時マツダ會

つた。

- (イ) 會員より毎月會費一圓宛を徴收積立。會則違犯者の積立金は沒收除名する事
- (ロ) 會員は毎月一定日に會合し意見の交換をする事
- (ハ) マツダ會の存在を需要家に確認せしめ且つマツダ製品の徹底的普及を計る目的を以て會員

近頃彦根で濫賣する者が現はれ緊急臨時マツダ會を開催する様會員間の要望に基き、滋賀辨理店は彦根で臨時マツダ會を開催し、濫賣防止法及び宣傳方法市場統制案として左記諸事項を決議し 即日實行に驀進する事とな

交替にて一日三四名宛一團となり街頭宣傳を行ふ事

- (ニ) 彦根唯一の百貨店丸菱の二階電氣部又は三階の一部使用を交渉し會員毎日交替にて二三名宛出張しマツダ製品の宣傳販賣を實行する事 (本件の具體案は理事に於て研究の上作製の事)

大阪市電の車内晝

光電球使用後日譚

大阪市電が去る七月一日より電車内照明に晝光電球を使用し始めた處奇妙に同日以來町の電氣屋さんに市電で點けてゐるあの電球を呉れと云つて買ひに来る 此の様子ではまだまだ大衆は我社の晝光電球の存在を知らないらしく電車に乗つてハハア之は涼しそうだ、では一つと云ふ事になるらしい。販賣店では市電が實物廣告して呉れて洵に結構ですと大變喜んでゐるそうである。

晝光電球商戰

第四句の戦況

赤熱の三句を過ぎ愈々白熱の後半戦に入ったC-2商戰は、今日此頃の全國的天候不順に禍されたか 第四句此處一番のミドルスパートは物足らぬ感があつた。北海道軍依然として先頭を維持してゐるものゝ今句は稍落調。之に反し關西軍の躍進振は殊に目覺しく漸次道軍との間隔をつめつゝあり。旭川函館の如き超弩級の活動に全軍の興廢を賭ける道軍と、全軍の精銳一致協力の關西軍との決戦、果して道

軍の強引よく最後まで王座を張頑り通すか、將又遂にペースメーカーとして終るか一に今後二旬の奮闘に懸る。而も東海軍の如き粘りに粘つて黒馬を狙つて虎視眈々たる今日、勝敗の歸趨は混沌として全く豫斷を許さない。關東軍總體的に不振であるが今旬の栃木辨理店の長蹠は物凄く當りを見せ、一蹴忽ち甲府を抜いて長岡に迫るあたり新進の活躍潑刺として頼もしい限りである。關西軍にあつては阪神共同、平安、廣島、和歌山、三丹、滋賀、松江、香川、鳥取等の鱗鱗舳舳相銜んで威風堂々全軍の意氣天を衝く慨あり。鎮西軍は久留米、大分、博多、小倉、臺灣、熊本等の強豪を擁し、殊に久留米の張頑りは將に北海の雄旭川と相對峙して南北に龍蟠虎踞、兩雄來らん二旬の猛闘は蓋し當商戰の白眉たるに相應しい熱戦であらう。

阪神共同管下

防空ランプ販賣

戰線の二風景。此程阪神沿線で防空ランプ宣傳のチンドン行列を行つたが、其前日阪神共同から實施區域の電気店へ其旨を傳達した。處が機敏な某電気店主、同日チンドン行列がウンと防空ランプを煽り立て、通つた後から、現品自參で軒並に戸別訪問して賣つて歩き、一日で三百七十個の防空ランプを賣つてのけたと云ふ。東京でも先日中央管下でチンドン行列をやつた日、或電気店では一日で四百五十個瞬く間に賣切り、見事昨年度の店頭小賣日本記録を破つたと中央の伏見さんの自慢話である。大阪市九條の和田電気店では飾窓の中に敵機襲來の模型を作り、ベルが鳴ると同時に一齊に消

燈、續いてマツダ防空ランプ點火と連續的に實演して行人の目を惹き賣上高を増進してゐるが、一方阪神共同が去る十日より三日間に亘つて實施した防空ランプの大宣傳は百パーセントの効果を收め、宣傳前は戸別訪問しなければ賣れなかつたものが、今日では反對に客の方から買ひに來る様になつたと云ふことである。

山陰地方マツダ會

改修工作着々進展

鳥取辨理店に於ける新會員の開拓は大體八、九月中に終り續いて強化工作に着手する順序であり、其方法としては大いに三寸看板を利用する事に決定したとのことである。

大マツダ會可なりや、小マツダ會可なりやの問題は人的要素地理的要素の支配を多分に受ける上に、其自身目下發達の途上にある爲め未知數に屬し、此方程式は今後の慎重なる研究に依つて始めて解決されるものであるが、從來の經驗から見て大體に於て小マツダ會の多設主義の方がより効果的と信じて來た大阪出張所の松岡さん、從來の大濱田マツダ會と益田マツダ會を二分し、可個別々に補強改修する爲め先般來分立工作の準備中である。

防空ランプ一戸

實現す。大阪の衣笠商店の御主人の防空ランプ熱は大變なもので、こん

一燈のスローガン

な電球は小數宛を多數の顧客に捌かねばと、全店員を總動員して得意先の戸別訪問を行ひ、又一方御自身は町内の有力者達と親交があり、而も自分が防護團の役員に推されてゐるのを幸い、町内の寄合に出掛けては防空ランプをプッシュした。その結果は町内で據金した防空用寄附金で纏めて防空ランプの購入となり、一戸一燈主義のスローガンが完全に遂行されたと云ふ。

徳島辨理店の

盆踊を利用

した宣傳計劃。徳島には昔から舊盆になると阿波踊が行はれ、各所思ひ思ひの趣向を凝して獨特の手振足取面白く「踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らんせ」と全市を踊廻るのを例としてゐる。そこで徳島マツダ會では此の好機逸す可からずと、マツダ會員が揃のマツダランプ浴衣で踊出そうと舊盆街頭宣傳の計劃を立て目下諸般の準備中であると云ふ。

人口順位指數表

と其利用

試に内地人口分布の地方別現況を知る爲めに、人口六千四百四十五萬五人を一道三府四十三縣の計四十七で除して、平均の百三十七萬人と云ふ商を得る。此商を基準一〇〇として順位に羅列すれば人口順位指數表となる。ソコで十段毎に横線を入れて見ると更に興味が湧いて来る。之は自然に同類項が眼前に展開して、或比較が求められるように感得せられるからであらう。十位迄は數の開きが大きい丈けに

更に細別を要するが、其他は指數が接近して居るので實際に何にかに利用が出来ソウに思はれる。山梨縣では、三寸看板が五千枚必要であると云ふことである。サレば鹿兒島縣では三寸看板が何枚要ることになるであらうか、此指數表で比例を求めれば

$$5,000 \times \frac{114}{46} = 12,391 \dots \dots \dots \text{鹿兒島縣}$$

雑つと一萬二千枚要ることになる

又假りに大分縣の賣上が十萬個であり、青森縣の賣上が六萬個であるとせば、同様の計算により。

$$60,000 \times \frac{69}{64} = 64,687 \dots \dots \dots \text{大分縣}$$

故に、大分縣は、其賣上十萬個より、此數を差引いた。即ち

$$100,000 - 64,687 = 35,313$$

雑つと三萬五千個分の賣上げに無理があるのではあるまいか。賣掛金の回収に注意を要するところになる。

此反對に、青森縣は

$$100,000 \times \frac{64}{69} = 92,753 \dots \dots \dots \text{青森縣}$$

故に青森縣は其賣上六萬個を此數より減じた。即ち

$$92,753 - 60,000 = 32,753$$

雑つと三萬個賣上が不足して居ることが解る。勿論地方的事情によつて、賣上の差異が出来ることは當然であるが、此數字は、六萬個に對する三萬個の不足と云ふ事實の報告であると共に更に五割増の賣上促進を爲す可きことの必要であると云ふ意見を、雄辯に陳述して居るものとも解せられる以上は假定の數字に就ての運算であるが、此場合青森縣は三寸看板の利用に就て一考して見る必要があると思ふ。ソコで更に山梨縣との比例計算を行つて見る。

$$5,000 \times \frac{64}{46} = 6,956$$

此計算によつて、青森縣は、雄つと三寸看板を七千枚貼ることが必要であると感得される。此貼付がドウなつて居るか。其丈けの數が若し徹底して居れば、販賣の努力が宣傳に掛合されて居ると考へて宜敷いと思ふ。こんな風に各位に於かせられて試みに御覽になつては如何。

人口順位指數表

順位	道府縣	指數
1	府	395
2	府	258
3	府	204
4	府	193
5	府	186
6	府	184
7	府	141
8	府	131
9	府	125
10	府	124
11	府	118
12	府	114
13	府	113
14	府	110
15	府	109
16	府	107
17	府	106
18	府	99
19	府	94
20	府	90
21	府	87
22	府	86
23	府	84
24	府	84
25	府	83
26	府	83
27	府	83
28	府	79
29	府	72
30	府	71
31	府	69
32	府	64
33	府	60
34	府	57
35	府	56
36	府	55
37	府	54
38	府	53
39	府	52
40	府	52
41	府	50
42	府	50
43	府	46
44	府	45
45	府	44
46	府	42
47	府	36

晝光電球商戰
第五句の戦績

無軌道的の長梅雨に崇られて出足を阻まれたC-2も、クツキリと紺青に晴上り眞夏特有の入道雲さえ姿を現はし始めて來た今日此頃、水銀柱の奔騰に比例して元氣百倍、土煙を上げて疾驅する其鐵蹄の響も加速度的に高まつて行く、第五句の第一位は依然として道軍の手にあるとは云へ、道軍最近のスランプに乗じて關西軍九州軍の追撃は益々急を極め、九州軍は今句一躍して關西軍と肩を並べて第二陣を承り續く第三陣の東海軍東北軍も僅か紙一重の差を争つて次第に道軍の牙城に迫つてゐる。關東軍中にあつては依然として長岡、栃木、甲府が斷然光つてゐるが、全體的に見て足並は揃はず關東軍不振の原因は此處に存し、關東武者の面目にかけて卸會社辨理店共々に乾坤一擲、從來の頽勢の挽回に掉尾の勇を振はれん事を希望して止まない。關西軍では阪神共同、平安、廣島、和歌山、徳島、三丹、松江、滋賀雁行し制覇の希望に燃えて英氣勃勃たるものあり。九州勢では久留米、小倉、大分、博多、臺北、臺灣等の強豪嚮を並べての驀進は凄じい勢である。殊に小倉、臺北の兩雄枚を銜んで雌伏四句、決然大地を蹴つて立上つた其武者振や雄々しく、小倉に至つては久留米に續いて旭川の堅壘に肉迫し王座を繞つて鼎座の形となつた、關西軍と九州軍の底知れぬ強味は一つに此全軍一致協力のユニホミチーに外ならず。旭川函館の二店を頼む道軍との間隔は日一日とつまりつゝあり。亂雲の去來頻りにして黒雲を呼ぶ三軍の血戰の近きを暗示してゐるものゝ如くである。尙當商戰は本年の天候不順を考慮し八月一日より一ヶ月の

延長戦を実施する事に決定した。

マツダ會々員
の新指導標

三寸看板。或辨理店の半期マツダランプ賣上個数が四萬九千個であり、其全區域内の人口が六十七萬三千人であると假定せば、其賣上の割合は百分率に於て七・三、即ち人口百人に就て七個三分賣れて居る勘定である、之を
作表して見ると、ロ、へ、チの三區域は、一〇〇以上で光つて見へる。此人口百人に十個以上と云ふ事實は、聽て他の六區域も亦同様に期待し得らるべき筈であると物語つてゐるよう
に諒解せられる。

	マツダ會	區域内人口	賣上數	賣上百分率
計	リチトへホニハロイ	六七三、〇〇〇	四九、〇〇〇	七・三
		五三、〇〇〇	四、五〇〇	八・五
		六〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一〇・〇
		八〇、〇〇〇	五、五〇〇	六・九
		七五、〇〇〇	七、〇〇〇	九・五
		五〇、〇〇〇	四、〇〇〇	八・〇
		四五、〇〇〇	六、〇〇〇	一三・三
		九五、〇〇〇	五、〇〇〇	五・三
		七八、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇・三
		一三七、〇〇〇	三、〇〇〇	〇・二

赤箱 C-1-2

第一次戦々評

本格的暑熱の再來と共に俄然勢づいたC-1-2は、旬を重ねるに従つて漸次正調に復し 第一次戦に於ては大體豫期通りの成績を擧げた事は慶賀に堪へぬ次第である。過去五旬に渡つて王座を維持し續けて來た道軍ではあつたが、今旬は遂に精銳選つて關西軍の總攻撃の前に惜しくも兜を脱いで第二位に落ち、第三位は九州軍續いて第四位は東海軍が獲得する事となつた。不振の關東軍中であつて長岡獨り良く關東武者の面目を發輝して頑張り、其負ず魂は特筆大書に値し、續く甲府と共に曉天の明星と仰ぐ、大豪道軍を屠つて覇權を掌握した關西軍は阪神共同以下熟れも一騎當千の強豪。就中今旬の阪神共同、平安、岡山、松江の奮戦は一際目立つて勇ましく、眞一文字に道軍の堅陣目指して突撃するその武者振は蓋し當商戦の壓巻であらう、關西軍と共に破竹の勢で進撃を續けて來た九州軍に於ては、大分電氣此處ぞと陣頭に立つて大聲叱呼士氣を鼓舞したが、如何にせん既に陣營疲労の色あり、遂に道軍關西軍と三者鼎立の生彩ある最後の戦を交ふるに至らなかつた事は返す返すも残念である。さりながら臺灣に於ける兩雄一進一退負けず劣らずの大接戦は思はず手に汗を握らしめ、熱戦數合暑熱を忘れて涼風颯々と吹く、期待した久留米と旭川との一騎打は久留米の最後のダツシユ意外に弱く、遂に旭川最後まで王座を譲らず勝旆は高く其陣頭にはためいてゐる。斯くして道軍、關西軍九州軍巴の激戦に依つて波瀾に富んだ第一次戦の幕は閉じたが、更に八月一日より一ヶ月間のその後半戦とも見る可き延長戦こ、そ不幸從來天

候に禍されて不振であつた關東軍等にとつては名譽恢復の絶好の好機 緊禪一番の猛闘を希望して止まない。

防空ランプで菊人形の局部照明

此程大阪出張所の木下さん、防空ランプの新利用方法として關西名物の菊^{カキ}人形に着眼し、早速見本持参の上説明した處、先方でも大いに共鳴不取敢試験的に一〇W、二〇W、四〇W、各々二十個宛の註文を獲得した、と云ふのは従來一般に難事とされてゐた菊人形の局部照明に種々工夫を凝して應用し、新機軸を出そうと云ふのであるが、この試験の結果に依つては思はぬ秋の收穫も期待し得よう。之れから各地で開催される生花、盆栽、菊花等の品評會の際、從來の不體裁な裸電球を止めて防空ランプを使へば、經濟的で有効適切な局部照明が得られ、必ずや斯界の好評を博する事疑ひなしと大阪からの自慢便り。

愛京會社の活動寫眞利用

(す)を數枚添附し

の宣傳賣出。名古屋の愛京會社では去る七月より活動寫眞による宣傳隊を組織し目下盛んに活動中であるが、宣傳實行方法としては電球引取個數二個毎に招待券一枚宛を添へ、更に之に優待券(下足案内料として五錢を要招待券附賣出個所に於ては晝間は揃の服裝マツダランプの帽子を冠つた五

名の樂隊に十本の大旗持が一團となつて市内に引札を配布宣傳、實施一週間前に特約店は勿論湯屋雜貨店等に宣傳用ポスターを掲載し、販賣店は一齊に需要家に電球販賣勧誘。而も招待會の劇場を利用し二回舞臺上よりイルミノアムメーターを以てマツダランプと他製球との比較を實演し、一般需要家にマツダランプの電燈經濟を力強く呼掛けると云ふ仕組である。七月中は雨天に祟られたが管下三縣下で實施個所二十一ヶ所延日數二六日、招待券發行數三千七百三十枚實際入場者一千八百八十七名、優待券入場者七千二百十五名電球賣上數七千二百六十個と云ふ成績である。

東都防空ニュース

未經驗の商品だけに得意も最初の中は大變考へたらしいが、既設の販賣網を利用し逐次廻つて見ると案外賣れるので、漸次追加註文が來て居る。本日防空ランプ受註數四百六十個。

販賣店の御主人又は雇人自ら御得意を廻つて一個、二個、五個、十個と註文を貰つて來て居る。本日の受註數百六十個。

晝間は主人留守の方多き事と而も期間の短き事は夜襲するより外に路がなく、一昨日より夜襲による受註開始目下着々實行中成績良好、本日の受註數三百五十一個。

松岡さん小區域

着々進展。高野山は高野口マツダ會の一部ではあるが、往昔九百九十の寺々

制倍加補強工作

と云はれた各寺院は殆んど全部が従量燈需要家であり極めて有望。當地は單獨の責任を課した方が効果的と考へた大阪出張所の松岡さん、近く同地だけでマツダ會を開催し、責任數は前期の倍加數とする事に同地の有力者山下さんと打合を終へた。續いて和歌山縣の船戸で粉河、岩出、根來寺、那賀郡一圓を區域とする粉河マツダ會の結成總會を開催したが、此のマツダ會も高野口マツダ會から舊高野口マツダ會員二名を主體として分離獨立したものであり現在會員は八名に達してゐる。是によつて舊高野口マツダ會全區域前期責任數の三倍加の實現を見る事となつた。

東京警備

司令部より

我社防空ランプに證明書下附さる。日毎に熱度を高めて來た三都聯合防空演習は、昨日の豫行演習を一轉機として俄然本舞臺に入つて來た。之と共に我社の防空ランプの賣行も加速度的に其スピードを増加し、街頭に懸る防空ポスター新聞廣告さては今朝の新聞折込等擁護射擊のもとに、販賣員を總動員して一齊に街頭に進出、集中砲火を送つてゐる。折も折東京警備司令部に於ては、我社の努力と製品の優秀なる事を認められ、左の如き文面の證明書を下附せられた。

證明書

神奈川縣川崎市堀川町七拾貳番地

東京電氣株式會社

マツダ燈火管制用電氣 (二〇〇〇ヅオル
二〇〇〇ワット)

東京電氣株式會社製作ニ係ル右電球ハ

- 一、警戒並ニ非常管制中室内ニ於テ電球ニ何等ノ覆ヲ附スルコトナク使用シ得ルコト
- 二、電球直下ニ於テノミ相當ノ照度ヲ有スルカ故ニ燈火管制中家庭及工場内ニテ普通ノ書見並作業ニ支障ナキコト

ノ條件ヲ具備スルニ付燈火管制用電球トシテ適當ナルモノト認ム

右證明ス

昭和九年八月二十二日

東京警備司令部 印

北海道軍早くも

紅象旗戰役

策戰計劃を樹立し着々進撃。北海の雄道軍にあつては函館、旭川、釧路、帯廣の四個師團を以て北海道聯合軍を編成し目下着々準備工作中であるが、各師團の最底目標を定め管下販賣店の論功賞としては爆撃賞、拔群

賞、奮闘賞、努力賞等を掲げ、北海道樺太の販賣店を總動員して紅象旗獲得に奮進する事となつた、立秋と共に嵐を孕んだ北海の波は高い。

三丹辨理店管下

宮津加悦谷聯合

マツダ會開催。最近に至り宮津マツダ會と加悦谷マツダ會とは、相互に區域侵害問題を惹起したので之が解決と紅象旗戰役發表とを兼ね、先般文珠で再マツダ會の聯合會を開催した。何分商賣熱心の餘り惹起した問題の事として議論沸騰と見へたが、其處は三人寄れば文珠の智恵圓滿解決となり。今後は互に手を取つて一致協力販賣増進に努めましようと思ふので目出度く暮。續いて本論の紅象旗戰の説明に移り責任數を決定、之を機會に一路優勝目指して奮進する事となつた。雨降つて地固まる。夕立一過の北丹兩マツダ會の多幸を祈る。

防空ランプの

新用途發見陸續

去る二十四日の豫行演習の煽りを受けた東京、横濱、川崎の三都聯合の防空演習は日一日と巷に其熱度を高め、川崎の本社に於ても東奔西走の各卸會社の販賣員も電氣店も、此の處全く防空ランプの旋風の渦に巻き込まれてゐる。我社の防空ランプは局部照明用である爲、探せばいくらでも新用途を拜見し得ると云ふ所に妙味があるが、最近發見された用途の中で面白いのは卵屋乾物屋で卵の良否の鑑別に大

變具合が良いと好評を博し、又寸時も消燈する事の出来ない刑務所では大變重寶がられてゐると云ふ、銀座裏のカフェーやバーでは従六〇W位の安い色球を使つて感じを出してゐたが、此の代りに平時でも我社の防空球を使へばテーブルの上だけ明るくて他は暗くなり、而もワットは十ワットしか喰べぬので御客の心理と御店の經濟から大歓迎を受け、早くも敵機ならぬ他製球の撃滅に成功してゐると云ふ快ニュースがある。

因に従來防空ランプのカートンサックは無意匠であつたが、今回一〇Wから三〇W迄新裝を凝らして九月早々市場へデビューする事となつた。

阪神共同會社の

三寸看板工作

大阪の阪神共同管下の三寸看板工作は相々進捗を見せてゐるが、最近決定したプランに依れば全區域の貼附枚數は七萬五千九百枚。而して之を第一期第二期第三期各二萬五千三百枚宛の繼續事業とし、先ず第一期には同社全區域に亘り一平方糎一百枚の割で貼付を行ひ、引續き第二期第三期貼附の後、結局一平方糎内三百枚平均に貼付ける計劃である。貼附實施はマツダ會販賣店を動員し、場所の選定は其希望を斟酌し有效適切な場所を選ぶ事とした。貼附順は大阪市周圍部、阪神沿線、郊外住宅地、堺市、岸和田市、神戸市、大阪市内の順序である。同社の原君の報告に依れば、販賣店で三寸看板の話をした處大賛成で百五十枚は自分で貼り、貼り附けの手續等御手傳致しませうと云

ふ共鳴者も出て來たと云ふ事であり。又同じく宮本さんのレポートに依れば、マツダ黨の富士商會とつるが商會では之の通知に接するや早速手續を取り、既に貼付場所を選定、何時でも看板の到着次第貼つて廻れる用意をしてあるとの事である。

愛京會社の

紅象旗戰役對策

名古屋の愛京會社では今期紅象旗戰役に對し、「マツダ會創立一週年記念宣傳賣出」と銘打つて独自の管戰計劃を樹立し、既に實行に着手桂冠目指して邁進中であるが、其マツダ會獎勵方法としては戰役中管下十個師團の各責任數に對する實際引取數の超過率に應じ、第一位より第三位迄副賞附優勝カップを授與する事とした。同プランの最も異色のある點は宣傳方法にあるが、第一に街頭宣傳としては二個師團毎に期間中一名の專屬街頭宣傳員を配屬し、重要個所で連續的に街頭宣傳を實施する。第二に戰役中二個師團毎に參名乃至五名の奉仕係を配屬し、イルミノを持參しマツダ會と協力して自家用の大口需要家並に一般需要家に、マツダランプの宣傳並に注文を勧誘し、電球の納入及代金の回収は販賣店で行ふ。第三は宣傳印刷物の配希であるが、大象形及小象の形宣傳印刷物に引札、ブック形印刷物等本部から送られた巨彈を百%有効に利用する爲、奉仕係及販賣店に於て自ら配布する事に決定、「商賣は須くマックス」のモットーの實現を期してゐる。

毎水曜日には

全國八十三地方

新聞に一齊廣告。今回我社は紅象旗戰役を期とし、地方新聞廣告は「辨理店名」にて行ふ方針を暫定的に採用して全國八十三の地方一流新聞を選抜し、之をA B兩クラスに分け、A級は一〇〇行廣告、B級は三十三行廣告とし、九月下旬來毎週水曜日全國一齊に八十三紙の集中砲火を送る事とした。A B兩級紙共に「東京電氣辨理店」の名のもとに掲載し、A級紙は紅象の本役戰の旗標を掲げて小賣店を鼓舞し、B級紙はマツダランプとマツダ真空管とを交互にして、専ら辨理店輩下の特約店募集の側面的援助を試みる筈である。八十三紙の内譯を示せば關東地方は十一市で十四紙、關西地方は十五市で二十一紙、九州臺灣地方は十二市で十五紙、名古屋地方は一市で三紙、東北地方は六市で九紙、北海遣は五市で九紙、朝鮮は九府で八紙、金澤地方は三市で四新聞となる。尙東京、大阪の大新聞に於ける廣告は從來通り三百行主義に終始し、適時紅象のシンボルと共に「全國定價勵行」の巨彈の放つ筈である。

東都防空餘聞

此程實施され東た都防空演習の際、第一線に立つて我社の防空ランプ販賣に活動された各卸會社販賣員諸氏の報告に依れば、直接販賣上に最も有効であつたのはチンドン行列による宣傳、特に夜間を利用した街頭宣傳、防空講演會の際の引札配布、百貨店に委託し電氣部のみならず食堂の入口で賣る宣傳を兼ねた販賣方法であつたが、

中にも徹底した方法は電気店を一家總動員で戸別訪問に出動させた遣方である。蒲田の奥山ラヂオ商店同じく松屋商店電気部では、此の手段で一日に百五十個の防空球を得てゐる。戸別訪問して勧誘すれば、防空電球が一時の際物でなく、色々な用途を持つ電球である事も充分説明出来るので、勢ひ一般大衆の購買心も誘發されて来る。五反田の三井電気商會で演習終了後の三日朝から二三個防空ランプが賣れ蟲除けに使用すると云つて持つて行つたと云ふ朗らかな話は、此邊の消息を物語るものであらう、此の外に異色のある販賣方法としては、電気店が自分の店に出入する酒屋や米屋の小僧さんに一個幾らと歩合を出して、酒や米の御用聞と一緒に戸毎に防空電球を賣つて廻らしたと云ふ店も相當あつたが、其成績は目下調査中である。

九月の紅象旗

戦役鳥瞰圖

秋風都門に入つて茲に二旬。東都の秋を飾る關東學生競漕大會も恙なく終り、各校の精銳が死力を盡したブレイドに湧上る波紋の印象も、今尙江上に鮮かな今日此頃、我等の紅象旗戦役は愈々蟠踞三月の雌伏を脱し、此處にミドル、スパートの一大遭遇戦に入らんとしてゐる。今日迄の東西兩軍の戦績を見るに、東軍僅に西軍に先じては居るものゝ西軍とてもさるもの、此處一番のミドル、スパートに深く期する處あるものゝ如く、雄々たるプレード、ワークを示してゐる。東軍に於ては長岡、壽美屋函館、旭川の順位に進み、西軍にあつて小倉を先頭に滋賀、博多之に續く、東西兩軍を合して

見る時は、西軍の小倉の頑張りよく一頭地を抜いて斷然首位を贏へ、第二位は東軍の長岡、續いて滋賀、壽美屋と此の處東西兩軍入り亂れての先陣争いの態であるが、東西のベスト7揃つて奇しくも去んぬる今夏晝光商戦の雄たりしは注目ししよう。今ぞ待望の燈下親しむべき秋庭前に集鳴く秋虫の音も我等ランプマンにとつては征塵唳る笛の音と聞へる。

小マツダ會

主義に轉向

和歌山マツダ會。大マツダ會主義よりも小マツダ會主義に據つた方が、遙に効果的であるとのイデオロギーを最近頓に強めた大阪出張所の松岡さん續いて和歌山市も小マツダ會主義に轉向し、全市を四方面に分ち同一方面に於ける會員を一團とし、方面毎に責任數を決定して賣上競争を演ずる事に決定したが、此の奨励案は目下考究中である、宣傳方法としては店舗を中心として全市を二十二區を區分し、抽籤に依つて各區の宣傳日を豫め定めて置き、宣傳實施區の會員は當日マツダマーク入の紅白の幔幕を張り、マイクロホンに依つて街頭へ呼び掛けて宣傳し、一方全會員は襟に「一番良い經濟なマツダランプ」背に「マツダマーク」裾に「和歌山マツダ會聯盟」の文字入赤地の羽織を一着に及び大舉應援、半數は大巾長さ八尺の「マツダランプ」文字及マーク入赤地大幟十本を立て、鐘と太鼓のリズムに合せて區内を練り歩き、要所要所に止つては電燈繪解講演を行ひ、街頭宣傳を行ふ。残り半數の會員は行列に前後して區内の戸別訪問を行い一軒残らず勧誘す

る。斯くして一區より順次二十二區に及ぼし全市の隅々まで宣傳勸誘し、期間中同一區に於て三回繰返し実施する事に決定したと云ふ、以上決定の結果會員より責任數は前期賣上數の倍數を引受ける旨申出があつたが、結局最低責任數は前期の四割増、目標は前期の九割増に決定し、一路紅象旗獲得に奮進する事となつたと云ふことである。

關門及北九州 演習に我社の

防空電球。十月一日より三日間北九州地方に於て行はるべき防空演習も愈々目捷に迫り、目下電氣店總動員で防空球販賣に大奮である。特に今度の北九州の防空演習に於て、我社の防空球の賣行が二十萬個突破と云ふ素晴らしい最大原因は、電燈會社は窓口販賣、電氣店は戸別勸誘と云ふすばらしい協力の點にある。尙ほ演習統監部に於ては我社の防空球に對し左の如き證明書を下附せられた。

證 明 書

マツダ燈火管制用電球 (百ボルト十ワット)

東京電氣株式會社製作ニ係ル右電球ハ

- 一、警戒管制中室内ニ於テ電球ニ何等ノ覆ヲ附スルコトナク使用シ得ルコト、但シ非常管制ニ於テハ室ノ構造ニヨリ尙若干光力ヲ制限スルノ要アルベシ

- 二、電球直下ニ於テノミ相當ノ照度ヲ有スルカ故ニ警戒燈火管制中家庭及工場内ニテ普通ノ書見並作業ニ支障ナキコト

- 三、ビルディングノ廊下用、工場作業用、電車室内用トシテ燈火管制ノ際使用スルニ適ス

右條件ヲ具備スルニ付燈火管制用電球トシテ適當ナルモノト認ム

右證明ス

昭和九年八月二十二日

關門及北九州防空演習統監部 ㊦

米澤辨理店 の 開 設

山形縣は羽前三市十郡羽後一市一郡より構成せられて人口百八萬人であり、人口の角度よりせば本邦に於ける第二十八番目と云ふ順位にある。山形、米澤の二市が東南部に、又酒田、鶴岡の二市が西北部にあつて、二十個の町が百九十八個村を點綴して居る、此地域に於ける我社の現在特約店は十八軒であるが一年の過半が雪で蔽はれたる土地柄として、活動の敏活を期待し得なかつた憾があつた。ソコで仙臺出張所は小マツダ會實際主義に轉向し、山形市、庄内地方、置賜村山地方の三區に分

割し第一期三寸看板五千五百枚で市場開拓に進撃を劃すると同時に、其中心區機關の再検討を行ひ、米澤市桐町丸上遠藤商店主遠藤徳藏さんに置賜村山地方の辨理店を委嘱することとなり、同氏は又從來扱ひ來つた他製品年間二萬個を放棄し、マツダに専心せられることに芽出度決定した。遠藤商店は大正十五年の開業であり、ゴム靴、硝子電機器具の間屋業では地方屈指の資産である。そして新庄町に支店を有ち其販賣網は一市八郡に涉つて居る、同店の御發展を祈る。

東京 マツダ 販賣會社の

補助販賣員制度。今夏東京市内の四卸會社を合併して新に設立された東京マツダ販賣株式會社は、初陣の紅象旗戦役の前哨戦として去る九月二十一日から十五日間に互り、マツダランプの抽籤券附大賣出と共に之と併行して補助販賣員制度を実施した。補助販賣員制度と言ふのは、百五名のインテリ群を臨時販賣員として短期間採用し、之を管下の電氣店の要請に基き原則として一日一店に一人宛を派遣し、電氣店の主人或は店員と共に街頭へ進出せしめ、其電氣店の領域内の需要家の戸別訪問を爲す事に依り、徹底的宣傳を行ふと同時に註文も受けて來ると言ふプランである。戸別に行ふ宣傳の偉力に就いては言を待たないが、之の案の最も大切な點は電氣店を街頭へ進出せしめる習慣の端緒を作ると云ふ點、即ち電氣店をして從來の姑息な座賣的販賣方法から蟬脱して、進取的外賣的主義に轉向せしめる一轉機たらしめんとする處に在り、茲に於て短期間の此運動

に重大なる意義が生じて來る。受註數は人に依つて異なるが、九月二十一日のあの烈風を冒して十九軒を歴訪し、三百個を獲した石井補助員を先頭に、一日に百個二百個と大量受註を得た補助員も相當ある。殊に面白いのは此運動の副産物として、從來實地調査不充分的の結果等閑視されてゐた木賃ホテル街等に、立派な新市場を發見したと云ふ期らかなニュースもあつた。

十月の紅象旗 戦役鳥瞰圖

窓外にそぼ降る雨は漸く冷氣を加へ、庭の千草の緑も褪せて次第に黄ばみ 秋來るのは感は一入深い。ミドルコースに於ける戦は、全面的には期待に反して華々しくなかつたが、局部的には相當活潑な局面の展開を見せ、東軍では北海道部隊、西軍では北九州の小倉、博多、門司の三師團の飛躍的躍進振は當月の見物であつた。之は丁度去る十月一日から三日間に互つて同地方で行はれた防空演習に商機を掴み、電燈會社と提携して遮二無二防空球を賣り進んだ結果に外ならぬが、空陸立體戦に於ける防禦的武器たる防立球が、商戦たる紅象旗戦役では一轉して斯くも偉大な攻撃的役割を果してゐる事は、正に吾人の一大關心事でなければならぬ。各軍毎に戦績を見るに、東軍に於ては斷然北海道部隊が優勢を示し、其順位は函館、旭川、壽美屋、帶廣、長岡と進み、西軍に於ては小倉、羅南、博多、門司、滋賀、三丹と轡を並べ、殊に羅南、門司、三丹の三豪の奮起見るべきものがある。更に東西兩軍を合して見る時、依然として小倉王座を譲らず羅南、博多

紙一重の差を争ひつゝ龍攘虎搏の猛闘を演じてゐる。時將に戰雲は低迷して兩軍滿を持して放たず鯨波山河を壓する最後の一大會戰前一瞬のしじまである。

會津辨理店の

三寸看板

オンパレード。會津辨理店では、豫て鶴首してゐた三寸看板が到着したので、直ちに七、八日の兩日に互り若松全市の三寸看板貼付工作を実施した。七日は午前七時半と云ふに早くも岡野や、二六、渡部、神山、佐藤さん等々市内各電氣店の面々總勢十一人辨理店に集合。辨理店の宮森さん二六主人等が自ら街頭に立つて、八時十分大小象形、ブツク形のチラシを戸毎に配布しながら勇ましく出發した。先ずコースを大町より東部の町々とし、二臺のリヤカーには看板及小供へ配る武者繪カードや鉛筆等の景品チラシ等を満載し、行く町々で多數の小供に騒がれながら誠に賑かに、又看板貼付の方も手拭附の事故各家々の氣受けも良く、夕方六時頃迄には最も効果的に七百枚を貼付し得た。翌八日も前日の大活動で足はマルで棒の様になつたが再び同勢で八時出發、今後は下町方面に向つて進軍した。處が折悪して十時頃から糸の様な霧雨となり一同完全に濡鼠となつたが、何分多忙時の事として又々此んな好機會は得難いので、雨中の強行軍に一決。遂に手許の見へない夕方迄奮闘し八百枚を貼付した。七、八の兩日で千五百枚を貼付けたので、最早や市内に於て残る所は中部の町々の約三百枚となつたが、此分も來る二十日頃晴天を見計らひ今一度招集

し、人員も二十名位繰出して午前中に賑かに貼附して了ひ、午後は慰勞會開催の豫定との事である。

旭川辨理店の

粗品及サービス

券附大賣出し。北海の驍辨理店は管下二百四十九軒の電氣店を總動員して、早くも最後の猛烈なスパートに入つた。期間中晴天の數日間チンドン行進を以てマツダランプデーの空氣を醸成すると同時に、特製の青地に純白の電球を浮かせたポスターの外、引札等を盛んに利用して民衆の購買心に訴及し、一方新聞廣告は旭川新聞及北海日々新聞に掲載する等廣告の集中化を計り、紅象旗の桂冠目指して力戦中である。處が丁度十月七日旭川市會議員の改選が行はれたので、好機逸す可からずと早速之を利用し、左の様なユーモアたつぷりな新聞廣告を掲げて衆目を惹いた。

推 薦 廣 告

滿 津 田 蘭 步 君

暗黒化セル斯界ニ光明ヲ與フルモノハ獨リマツダランプアルノミト信ジ推薦申上候
來ルベキ電球改選ニハ是非マツダランプヲ御採用下サレ度候

推薦者 旭川滿津田會

責任者 東京電氣辨理店

當 選 御 禮

斯界を明るくのモットーの許に我が滿津田蘭歩君を推薦申上げました所全市一致御採用下さいまして有難ふ存じます。

就きましては左記の謝恩賣出しに依りまして御愛用の御禮申上げます。

一 マツダランプ一個御買上げ毎に

サービス券一枚添付

一 サービス券十枚を以て

電氣スタンド又は上等番茶器と引換す

一 賣出期間 十月五日より十一月十五日迄

旭川 マツダ會
東京 電氣 辨理店

滋賀辨理店のラ
スト スパート

六月以來好調を續けて來た滋賀辨理店では、愈々ゴール間近しと見るや得意のガリ版を使い、管下の電氣店に注文書添附の檄を飛ばして盛んに士氣を鼓舞してゐる。左記は最近の其一節である。

「紅象旗戦役も早四ヶ月を重ね、東西各部隊副賞付日本新記録を目指し奮戦又躍進戦役も後二

ヶ月燈火親む秋を活用 空に街頭に戦陣は敷かれ華々敷最後の突撃が展開さるゝ事と存じ候幸にして各位の御努力に依り當滋賀辨理店は第二位を保持致し居り候處九州軍優勢を示し小倉、羅南、博多、門司、滋賀、三丹と滋賀辨理店は第五位と相成候 各位も御承知の通り當戦役は守る者は破る攻るの一手に有之候 四ヶ月の戦線にて各位御疲勞の御事とは存じ候へ共最後の桂冠目指し御奮戦の程御願申上候
就而過日マツダ會に於て御承認相成候責任個數は勿論其以上是非共御引取被下様御依頼申上候

補助販賣員

派遣に對し禮狀

之を利用せられた各店から多大の感謝を寄せられてゐる。

續々來る。此程東京マツダ販賣會社で實施した補助販賣員の派遣は、電氣

店の街頭進出の端緒を開き、オリンパス電光社の如きは之を機會に其後も

歴訪宣傳を繼續してゐるが、電氣店として豫想外の收獲を擧げ得たので、

「電氣の家」
共同建物

ビルヂングの開館式。一昨年來大東京市のビジネス センターたる西銀座
數寄屋橋々畔に建設中であつた共同建物ビルも愈々落成し、秋晴れの昨三
十一日朝野の貴賓、名士數千名を招待して華々しく開館式を舉行した。建

物は總延坪三千五百坪 地下一階地上八階の九階建の堂々たる大建築。耐震耐火防火暖房設備は勿論、キヤリヤ温湿度調整装置並に冷房装置を施し、冬は暖く夏は涼しく年中室内換氣を行ひ、室内温度華氏約七十五度湿度五〇%執務にて能率の増進に務めてゐる。其他の設備も電氣的に完備し「電氣の家」の稱あり又宜なる哉である。殊に夜は外壁に取附けられた特殊の投光器から投げる光芒に全館闇中照り映へて敢然光の浮城の如く、足下の御濠の水面に映す姿は都會的に洗練された美しさに満ちてゐる。因に從來我社の芝口出張所を始め市内各地に點在してゐた關係子會社は盡く此のビルヂングに移り事務の合理化を計る事になつた。

我社々歌の制定

我東京電氣會社は明治十九年開設以來、社運隆々五千の従業員を擁する今日に至る迄未だ社歌と稱するものが無く、事ある毎に一抹の淋しさを感じてゐたが、今度吾人の此の久しい待望に應へて、斯界の權威佐藤惣之助作詞、古關裕而作曲になる社歌が制定された。時恰も紅象旗戦役は最後のクライマックスを迎へんとする秋に當り、進撃の軍歌として一齊唱和に相應しい若人マツダの雄叫びである。

愛京會社の

先般愛京會社の延家武さんが、名古屋から工場及び照明學校を見學に川崎

夜間街頭宣傳

本社を來訪せられたのを機として、街頭宣傳に關する座談會を開いた。其折の同氏の話の一節に、目下愛京會社では五名の宣傳員と同數の奉仕係が各一人宛組んで五班に分れ、盛んに夜間街頭宣傳の實施中であるが、其方法は先づ賑かな適當な場所に「屋方」を組んで演壇を設け、其周圍に瑛瑛引の赤看板を立て掛け、演壇の上には向つて右にイルミノを、左に消費ワットの計算表を、其後ろに「繪解」を置く。先づ之れで準備はOK。愈々講演を始める譯であるが、先づ開口一番自分達はマツダランプの宣傳に出張してゐる者で、決して此の場で賣り度い爲に來てゐるのではない。話を聞いた後で御買求めになり度い方は、どうか御近所のマツダランプの販賣店で御買求を願ふ旨を、ハッキリ聽衆に斷つて置いて實驗に取掛る。先づ豫め用意の四段切替のソケットを使つて、バット演壇の周圍を暗くしイルミノだけに電流を通じ、第一段階として青の着色電球と晝光電球とを入れて、晝光が夜間色物の識別に缺く事の出來ない所以を説明し、續いて半艶電球と透明電球とを入れて、透明電球は眩輝があつて目の衛生に害ありと説き、それを今度は全光電球に入れ換へ、全光電球の柔らかな光を讚美し、サテ愈々本題のマツダと他製球との比較試驗に入る。實驗に使用の電球は二〇Wと四〇Wの二種であるが、先づ兩者の明るさに就て比較し、續いて消費ワットに就て斷然マツダの優秀性を實證する。此の處で再びバット演壇上の電球を點け、壇上の計算表に依つてマツダ電球の使用が如何に需要家に徳であるかを如實に示し、次に更に電氣を切替へ例の

「繪解」に依つて解り易く照明經濟の大綱を説明し、最後に瑛瑯看板を指示すると言ふ順序である。延家さんに依れば短兵急に本題に入るよりも、聽衆の興味を引く様な事を持出しながら漸次本論に導入し、何時の間にやらスツカリ聞かせてしまふと言ふ所謂「不必要の必要」がコツだそうである。そして四段切替のソケットを使つて電球を明滅さす方法も、聽衆の氣持の轉換には却々有効との事である。尙奉仕係は屋方の組立を手傳ひ、そして附近の需要家の戸別訪問を行つてピラを配り、又イルミノの實驗を行つたりして電氣店から非常な感謝を受けて居る。街頭宣傳中に豆ランプを持參して比較を求める人が相當あるが、マツダの優秀さには自他共に驚きますとの話であつた。

十一月の紅象旗

戦役鳥瞰圖

深み行く秋と共に紅象旗戦役は愈々残す處一箇月。東西兩軍共に男子の面目にかけての一戦である。客月の戦績は全線的に見て兩軍とも異狀無く、依然東軍は西軍に一步を先んじてゐるが、局部的には東軍に於ては旭川の猛闘目覺しく、スパート一發良く函館を抜いて首位を贏へ、旭川、函館、釧路、長岡、壽美屋(聯)の順位となり。茲に進軍一位より三位までを占めて朔風吹荒ぶ北海の波と共に意氣益々軒昂。一方西軍は依然小倉王座を占めて堂々と進み、門司、羅南、博多、三丹、滋賀、之に續く、西軍二位より六位迄殆んど五角舷々相摩し火花を散らす熱戦は蓋し當月の白眉と云へやう。此

處に注意すべきは各卸會社管下の師團が聯合軍なる迷彩的煙幕の蔭に隠れて全貌を示さず「最後の五分」を狙つて虎視眈々たる事であり、殊に壽美屋の如き黒馬中黒馬あり勝敗の數は全然豫斷を許さないものがある。彼に孫吳の兵法あれば我に六韜三略の奇策あり。今ぞ精銳選つた東西兩軍最後の決戦の幕は切つて落された。

大阪の夜間街頭

宣傳の特異性

大阪の阪神共同會社では今夏來盛んに夜間街頭宣傳を行つてゐるが、其特異性を抽出して見ると、先づ宣傳を行ふ場所は電氣店前でやり、赤看板を示し「マツダランプは此赤看板の懸つてゐる店で販賣致して居ります。此看板の懸つてゐる店は絶對に定價でなければ販賣致しません」と強張る。處が此の口上が面白い。こう言へば前なる聽衆に對してマツダランプは必ず定價でと言ふ觀念を與へると同時に、反射的に効果は後の電氣店に作用して、嫌でも應でも定價販賣を勵行せざるを得なくなる。宣傳のピラ等も徒らに撒くと言ふ事をせず「御希望の人」に限つて與へてゐる等流石は大阪商人と首肯出来る。講演は一回二十三、四分間で濟むから一晚に五回はやれ、一回の聽衆平均五十人とあるからザツと一晚二百五十人に説教する事になる。演題の照明經濟は矢張りイルミノや繪解を使つて説明するのであるが、聽衆がマツダランプの優秀性に對し認識を深める事は言はずもがな、時には豆球の比較試驗を求める人もあり、特に消費ワットの少い關係から豆

球はマツダに限るの好評を捲起し、同時に又ネオンランプの需要が寢室用として急激に喚起され、一回店頭で街頭宣傳をやれば、其店の賣上は講演後一週間位の間グット増加すると言ふ事が顯著に記録されて居る。

小學校の先生から所望された

繪解。頃日都下の小學校から選抜された先生達約五百名が、十日ばかり毎日入替つて照明學校參觀に來社せられたが、其際例の繪解を教材として使用し度いから、分けて貰へまいかと言ふ希望を洩らされた方が相當あつた。人を教へる事が専門の先生方に賞められた繪解こそ。蓋し街頭宣傳には必須の武器と言ふ事が出來やう。

旭川マツダ會の近況

去る二月旭川マツダ會では本年度最後の總會を鯉川新築樓上で開催した。處が折悪しく風雨強く參會者は少ないではあるまいかと懸念されたが、何がさて熱心な會員の事として豫想を裏切つて續々と參集。最初の豫定より遙かに人員超過し新築廣間では收容し切れず、幹事は喜ぶやら面喰ふやら漸く會場を舊廣間に移し大盛會であつたとの事である。尙旭川辨理店では管下の會員に對して註文書と共に、紅象の繪の上に大きく「在此一戰」と印刷した檄を飛ばし、紅象旗戰役最後の總攻撃に全力を傾倒してゐる。

會津辨理店の若松市に於ける

三寸看板工作完成。會津の宮森さんから本部へ三寸看板工作に關して御便りがあつた。左記は其一節である。「其後豫定の通り去る二十一日日曜日折柄の好晴に恵まれて一行二十名。今回は小旗五流を押立て、残る町々を練り歩き、午前中に參百枚の貼付を終り午後其儘東方愛后山に登り、一同芋煮會を開いて慰勞致しました。これにて若松市内到る所マツダ看板化された次第であります」云々。

ラヂオ讀本の發刊

本年二月三日より始まつて去る十一月三日芽出度終刊した電球讀本に代り來る十二月三日より更に今度は電球讀本の姉妹篇としてラヂオ讀本を發刊し、皆様の御清觀に供する事になつた。形式發行日等總て前の電球讀本に倣ひ、新聞紙の形式を採つて毎月三の日月三回發行。内容は極めて平容に解り易く記述する由である。

八王子市方面の三寸看板工作

東京マツダ販賣會社では昨今の秋晴を利用し、去る十日より管下の八王子市を中心として郊外、立川、府中、青梅、五日市町に至る一帯の地域に三寸看板の貼付工作を実施し、既に豫定の五千枚の内四千枚を貼付け、目下殘餘一千枚の工作に進展中である。貼付方法は八王子市内に二千枚殘餘三千枚は隣接町村分とし、參加電氣店は山内電氣店、長田電氣商會以下約三十軒、參加店を九班に分けて各班長

の許に集合の上、リヤカー使用の三寸看板自轉車隊を組織し、各々看板貼付承諾書及貼付家屋了解用手拭を持参し、参謀本部二萬五千分の一の地圖に依つて出動、今日迄に延人員百三十名を突破してゐる。貼付數も原則として一個所一枚であるが、臨機應變二枚一組とした所も作る等、貼付の場所的選擇に細心の注意を拂つてゐる。因に同地方はオールマツダ黨多く且つ附近一帯は織物工場地帯である爲、一期五萬個迄は販賣増進し得る見込との事である。

「繪解」益々好評

此程岡崎少年刑務所教務主任の吉田廣暢さんより、本社へ次の如き文面の依頼狀を寄せられた。「陳者頃日御社の宣傳員の説明を傾聽して非常に益する處有之候、宣傳に洩らざるにしても電燈常識として職員並青少年に理解を充分ならしむるの必要を感じ申候次第に候。就而あの試験器具を備附くる事は豫算を伴ふを以て面倒に御座候「電燈經濟の話」とか申す掛圖的の繪入説明書丈にても教育上有益かと存候故、宣傳部員の御手許には無之事と存候に付き、御社に殘部にても有之候節は御分與願はれまじく候や」云々。

繪解を女學校の展覽會に

東京府立第七高女で新築紀念展覽會を開催するに際し、參考資料として照明知識に關し何か恰好のものをとの御希望を寄せられ、色々お話をする内繪解が偉く氣に入り、是非之を一部分與して貰ひ度いとの懇望であつた。

乍然我社でも何分限りある物件の事故一應御斷りしたが聞かばこそ、それなら貸して頂き度い。自分の處の生徒に寫させるからと云ふたつての頼み黙し難く、二日間だけと云ふ條件で御貸した。さて愈々展覽會開會となつたが、問題の繪解は實に美事に再生せられ、一枚一枚教室に掲げられて好評嘖々たるものがあつた。

照明學校で

教員研究會。去る十一月二十六、七兩日に亘り照明學校に於て都下の女學校の先生家庭電氣及照明に關する研究會が開催せられ、校長先生三名女先生十七名都合三十名が参加せられた。講習後引續いて座談會を開催、理論と實際とに亘り非常に得る所が有つたと感謝せられた。中にも日の出高女の先生は壽命と能率との關係原理を學校の教材に將來使用し度いと云ふお話であつた。

東北岩手縣下の

三寸看板

効果現れ始む。岩手縣の約四分の三は盛岡電燈會社の區域にして、メートル需要家は同社の約十分の一に過ぎず。而して花巻、遠野、宮古、釜石等の營業區域には何等メートル用電球を用意せざる有様なり。殊に岩手縣は東北凶作の最たる所にして日々電燈を廢して石油ランプを使用するもの續出し、其悲惨全く言語に絶するものあり。右の如き状態なるも銳意開拓に努力し、豫算に對して一二二%の成績を

擧げ得たるは誠に同慶の至りなり。」右は我社仙臺出張所々員住年早大の名捕手として天下に聞へた永野、改名して藤田重次郎君が最近本部に寄せたりポートの一節である。岩手縣の地圖を案ずるに、藤田君の報告にもある最も傷ましい凶作地は、花巻より仙人峠に至る岩手輕便鐵道、大橋より釜石に至る釜石鐵道沿線一帯の地域である。沿線の三都邑の人文地理的考察を試れば、花巻は嘗つて東京日々が全國温泉の人気投票を行つた際一等當選の樂を贏へた名温泉、中間の遠野町は毎夏甲子園球場に於て東北代表として奮戦し、其校長先生の光彩陸離たる光頭と共に野球ファンに馴染深い土地、最後の釜石は大平洋岸に臨み、附近一帯のリヤス式海岸線と共に釜石鑛山所在地として餘りにも有名である。東北の最凶作地に於て此の好成績あるは、直接販賣に従事せられてゐる方々の不屈不撓の意氣の熱とに依る事は勿論であるが、一方先般來着々實施されて來た三寸看板工作が、漸次其根強い力を發揮し始めた事は最も注目し値すべき點である。

全光電球賣出

紅象旗戰役も白熱的熱狂裡に終幕し、時は早や師走、日毎に白み行く降霜にも冬來るの感は一入深い。戰役を終るや否や直ちに息もつかず、十二月十日より一月三十一日迄全光電球の全國的賣出を行ふ事となつた。全光電球こそ年末年始の贈答品として、又期末の大量仕入の後を受けた店頭を飾るに相應しい變り種の高級品である。販

賣方法としてはマツダ全光電球の一般的普及化を計る意味に於て極力各店に引取方を勧誘し、二十五個入一函を引取毎に店頭掲出用の美麗な小旗二流を呈し、之を店頭に掲げしめて歳末年頭の店先を華かにして全光電球の大宣傳を行ふ事になつてゐる。此小旗はペンベルグの薄緑と薄青地の二種を用ひ、多様な年末年始の慌しき街頭に其獨特の落着きと優美さを反映し、而もゲルマン風に肉太な黒地の文字は、「全國マツダ會聯盟推獎「マツダ全光電球」の文字を鮮明に浮出して、白銀のヴェールを着た柔和な姿體の内に藏する全光電球の力強さを象徴したものである。

拂出運動は

武者繪カードて

我社に於ては本年六月初頭「楠公父子櫻井の別、源義家出陣之圖、源義經壇之浦八雙飛、加藤清正虎退治、川中島上杉武田兩雄の決戰」等南北朝時代、源平時代、戰國時代武家華やかなりし頃の五枚の武者繪カードをデビューせしめ大方の絶讃を得たが、今回本部では再び「京の五條の橋の上牛若丸と武藏坊辨慶の一騎打、稻村ヶ崎新田義貞祈願の圖、賤ヶ嶽之合戰に於ける黒絲絨の大鎧名代の十文字の長槍小脇に搔込み悍馬に打跨つた加藤清正、四條畷の楠木正行、桶狭間の今川義元の奮戦」と見るからに血湧き肉躍る勇壯極まりなき五枚の武者繪カード五百萬枚の巨彈を放ち、マツダ會員店に於ける消化促進と同時に賣上回轉率向上の便として御利用を願ふ事となつた。繪は東都一流の名家の筆になる逸品揃、武力的復古趣味擡頭の非常時的潮流を反映して古きが如くして然ら

ず、現代人の觸覺線を行くものと云へる。

武者繪カードを

ポスターに

「頃は天正十一年四月近江國賤ヶ嶽に老將柴田勝家と新進の驍將羽柴秀吉が兵を構へるや、加藤清正先づ勝家の甥加賀尾山の城主佐久間盛政の麾下の七本槍として傳へられる清正若かりし頃の語草である。我社に於ては今期も拂出運動の便として武者繪カードの配布を發表したが、更に此のカードの中の一枚賤ヶ嶽の加藤清正の武者姿を極彩色を以て印刷したポスターを作製し御利用を願ふ事となつた。新春の街頭に翻へる虎之助の颯爽たる雄姿は、少年ならずとも心の躍動を禁じ得ないものがある。

紅象旗戦役の

覇權は遂に西軍

の手に。紅象旗戦役の戦績は本社事業部統制委員會に於て約半ヶ月に亘る慎重なる審査の結果、交戦條約第一條及第二條による東西兩軍間の記録は、東軍百五に對し西軍百八の比率を示現し遂に凱歌は西軍に擧る事となつた。戦は最後迄白熱戦を以て綴られ、勝敗の分岐點はほんの最後の一舉手一投足によつて定まつたかの感がある。破れたりとも雖も偉なる哉東軍。あの終始一貫堂々たる奮戦振には心からの敬意と感謝の意を表せねばならない。

因に條約第三條及第四條の各師團間の戦績は、審査の終了と共に不日號外を以て公報の手筈であることを申添へて置く。

紅象旗戦役計劃

書を商業學校

の教材への話。此程大分電氣會社で中津市方面に於ける需要喚起の方法が論ぜられたが、其際丁度中津市の重鎮深尾和吉さんが縣立中津商業の先生達と懇意である處から、深尾さんの紹介で同校に於て我社紅象旗戦役計劃書を商業科學の活きた實例として木屋支配人が講義を行ひ、共鳴を得た生徒の實習に生徒をして數日間マツダランプの行商を行はしめては如何との話が擡頭した。紅象旗戦役計劃書は自畫自讚の様であるが、近代此種の商戦計劃中の傑作なる事は衆目の認むる處であり、商業學校の教材としては蓋し適當なるものと思はれる。乍然如斯業務用文獻を例へ教育の爲めとは云へ之を發表する事は不都合を生ずるが故に其科學的要旨を木屋支配人が課外講演として紹介し、生徒に行商の實驗をせしむることは面白いかも知れぬとの話になつたと云ふことである。

旭川辨理店の

新春アングリフ

旭川辨理店は昭和十年劈頭に於てアングリフを敢行する事となつた。期日は正月二日未明を期して顧客陣への總突撃である。各店の主要なる大量需要家、病院、醸造家、學校、役所、大商店、大工場等の大得意を選定して

マツダ會員總動員による突撃の計劃が夫である。旭川辨理店の發表する所によれば砲彈は左の三種に區分し、

甲	マツダランプ五拾個彈	内	全光電球を	三拾個
乙	"		二拾個彈	八個
丙	"		六個彈	三個

夫と共に掩護射撃用に（辨理店自身の負擔により）景品を甲乙丙各種に對して用意せりとある。特色あるアングリフ要項を抽出すれば、

一 一年末中に突撃すべきお得意數十軒を選出して甲、乙、丙に分類し電球をそれぞれ包装する事。

一 突撃彈藥掩護彈藥を準備し置く事。（辨理店への通知狀に彈藥申込書が添附してある）

一 需要家に對する挨拶狀を用意する事。（青生地紙に赤象のピラを貼附した美麗なもの）

一 正月貳日未明より馬橋又は手橋にマツダランプを満載し鳴物の音樂等賑々しく市中を行進し各顧客へ電球を配付する事。

とあり、新春劈頭雪を蹴立て、進む會員二百四十九店のアングリフ、酷寒何物その意氣は既に烈々として燃立つてゐる。

紅象旗戰役師團

別成績發表さる

東西兩軍の戦績は去る十八日號外を以て公報した處であるが、兩軍の師團別戦績に關しては之が慎重審査に當つてゐた本社事業部統制委員會により、本二十二日公表を見るに至つた。恰も此日我社總會の當日であり、普通八分特別七分計年一割五分の株主配當が決議せられた佳き日に當り、戦績の發表を見るは二重の喜びであり誠に感激に耐へぬ次第である。交戦條約第八條に依る東西兩軍の入賞師團は左記の通りであり、爰に感謝と祝福の誠意を披瀝し萬歳を三唱す。

東軍

- 第一位賞 旭川師團（比率二六五）
- 第二位賞 函館師團（比率二四五）
- 第三位賞 長岡師團（比率二二二）

西軍

- 第一位賞 滋賀師團（比率二五六）
- 第二位賞 平安第三師團（比率二三一）
- 第三位賞 博多師團（比率二二二）

尙交戦條約第九條による褒賞授與式は、來春二月一日日本社に於て舉行の豫定を以つて、着々準備が進められて居ることを申添へて置く。

我社四・五V及 三Vスワン

口金付豆球發賣に就而。從來自轉車燈及手提燈に使用するスワン口金付豆球は、御承知の通り吾社と松下電器製作所との契約に依り、吾社は製作するのみで之が販賣は一手に松下電器に一任して來たのであるが、過般契約を改訂し今後吾社から松下電器に一手販賣を許容する品種は、ナショナル電氣ランプA-2號に使用する七・五V球と、ナショナル電氣ランプエイスに使用する六V球の二品種丈に限ることとし、吾社はスパイラル式の四・五V球（ナショナル電氣ランプ大型用）と、S字型織條の三V球（ナショナル電氣ランプ小型用）の二品を、今後吾社直接一般市場に販賣する事になつた、此の四・五V及三Vの兩球は需要の點から見れば豆電氣ランプの王座を占めるもので、總需要の九割位は之で充たされて居る一般向普及型であり、松下のナショナルランプに限らず、湯淺蓄電池のユアサランプにしろ又はキミガヨランプにせよ、大型用と言へば四・五V小型用と言へば三Vの豆球を使用してゐる現状である。松下一手販賣時代の三V球はS字型直線織條であつたが、之を今回は現行捻口金豆球の如くスパイラル織條に改めて製作する事になつた。何故三V球をスパイラル式に改めたか？ それはS字型直線織條（町工場物は殆んど之である）よりも、同一明るさで約三倍の遠距離に光が到達するのと、織條がコイルになつてゐる爲強靱と言ふ二つの特長があるからである。此の點松下時代と比較して飛躍的進歩が發見せられる。

新春譜

「老人は既往を懐い、壯年は將來を語る」と云ふ諺があるが、駭々乎として止るを知らざる我等マツダマンこそ、久遠の新春譜の樂人である。今年は亥年、猪は眞一文字の突撃の代名詞として用ひられる程、戦闘意識の旺盛な動物であるが、一面極めて家族的であり、兩親が其間に子猪をはさんで歩く姿は、誠にいじらしいばかりであると聞く。亥年に於ける第二回紅象旗戦役のモットーは、實に此猪の習性が最も直截簡明に表現してゐるかに感ぜられる。殷の湯王は浴場の盤の縁に「苟に日に新なり、日々に新にして又日に新なり。」と書いて置かれたと言ふ事であるが、亥年に於ける各位の御健闘又新ならんことを翹首して止まない次第である。

夜店説法から 奮起した

平安第三師團中川さんの奮闘。紅象旗戦役愈々クライマックスに達するや、各師團にあつては前進又前進、師團長以下幹部諸氏の奮闘振は實に涙ぐましいものがあり、平安聯合師團に於ても松原マツダ會理事たる中川一英さんの猛闘は一際目立つて勇ましかつた。中川さんは二三年前全マツダに轉向せられた方、戦役開始の際の平安會社の割當數は一千個であつたが、平安會社の連判狀で他店の豫約數を知つた闘志満々の中川さん、何糞とばかり忽ち五千個の豫約註文を發した。處が丁度御店の前で御藥師様の夜店が開かれるところから、一日御店の前に例のイルミノと繪解を持出し夜店説法を

やつた處、驚く可し夜の七時から十時までの間に**マツダランプ**だけの賣上高三十九圓餘、而も定値販賣勵行の上である。之に力を得た中川さんヤレば幾らでも賣れるものと一家總掛りで俄然頑張り出し、五千個の豫約も忽ち賣盡して更に五千圓を追加、とうとう最後に又更に五千個要求と迄熱を上げたが、賣るのは今期だけではなく來期もある事だからと、反對に平安會社の方から宥められ、不承不承一萬個で我慢したと云ふ。昭和十年の春を讚へるに相應しい朗らか過ぎるエピソードである。

白濱温泉に於けるチンドン

宣傳隊の効果。紀南の白濱温泉と云へば日本本土最南端の温泉、前面は澎湃たる太平洋の黒潮に望み、後部には重疊たる大和アルプスの連山を背負ひ、附近には勝浦、瀨八丁、那智瀧等の名勝を控へ、大正七八年頃の開設近代設備整ひ、夏期には海水浴場として京阪神都人士の樂園であり、京大の臨海研究所もある、とこう云へば極めて月並みのエンサイクロペヂヤ式表現に過ぎぬ。處が昨夏以來白濱マツダ會で盛んに小さなチンドン行列を行つた結果、九下期は上期の二倍半の成績を挙げ得たと云へば重大なるニュースである。都會地では餘程大掛りな街頭宣傳を行つても、戸別訪問の追窮戦を行はぬ限り却々齒應へのない今日だが、有難い事には白濱の様な刺戟の少い田舎では、一寸したチンドン行列でも、役者の顔見世行列と同様の素晴らしい反響を齎し得る。滿洲浪人

の實話として、滿蒙の奥地で土人に仁丹を與へたら、忽ち病魔退散靈驗いやちこな起死回生の靈藥として崇ばれたと云ふ話をよく聞くが、笑い話でなく多分の示唆が含まれてゐるかに感ぜられる。

府立マツダ會

結 成

直ちに三寸看板工作開始。今より十年前武藏野の一角に桑畑の名所寒村として僅かに其名を知られし立川も、時代の反映により躍進的に發展し、今や人口四萬、從量電燈三萬を擁し近く市制を實施せられんとす。弊社は其將來性に見る處あり指導勧誘の結果、去る十一月二十九日立川町飛行隊正門前の武藏野に府中、立川の**マツダ販賣店主二十名會合しマツダ會を結成せり**。之は東京**マツダ販賣會社**より本部への報告書の拔萃、府立マツダ會の名のよつて來る所以も此處にある。同マツダ會では手始めの事業として三寸看板工作を實施する事とし、先づ武藏野鐵道沿線の一部、五日市街道砂川村中里より櫻で有名な小金井新田に至る間に、各五百枚宛計一千枚の貼付を計劃し目下着々工事進行中である。

キャレンダーを

破つた道軍

の好成績。昨年キャレンダーを破つた北海道軍の記録に就て聞く所によれば、辨理店と會員店との協力一致の熱と努力とに迫がにと感激を覺へるものがある。二三例を挙げれば官廳の御用に旭川市の佐藤さんと云ふ方があ

るが、日曜利用の**マツダランプ**専門御用聞を思立ち、豫て顔馴染の役所の人々の宅を廻つて三回で二百七十個の收穫を挙げ、又同市の金子と云ふ雜貨屋さんは、從來は半期一百個位に過ぎなかつたが、紅象に刺戟されて御用聞陣を張つた處二十日間に**マツダランプ**七百個と云ふ驚異的躍進振を示した外、専門の雜貨が數倍の賣上と云ふ大成績。尙ヲカダ金物店とか中川さん、和泉商店と云ふ方々は、ピラヤポスターも自發的に私費で作製して需要家に配布すると云つたメートルの上げようであり、此等の熱意が凝り固まつて店頭より街頭へ住宅へと積極的商法を採つた事が旭川師團が王座を得た原因である。昨夏同師團が晝光電球に於て從來にない飛躍的躍進振を示した事と、今又**全光ランプ**に於ける大活動と照し合せ、結局する處自然的恩惠の有無よりも要は人の和と熱である事を今更の如く痛感する次第である。

全光電球 冬之陣愈々最後

のクライマックス。全光電球商戦も開戦以來茲に四十日あと十日間の勝負である。十日迄の戦績は北海道軍悠々王座に君臨し、稍下つて第二位は東北軍堂々圖南の鵬翼を連れ、此の處酷寒と凶作の北國勢に斷然南國軍は押へられた態である。聞く處に依れば旭川師團では百五十から二百パーセントを目標にして奮戦中との事であり、東京**マツダ**聯合軍も奮起一番管下各師團を總動員して愈々最後の猛襲に入つた。次の二つの挿話は我社北海道出張所よりの報告書の一節。旭川、釧路二師團の慄悍無比な

雪中突撃隊の活躍振である。

旭川辨理店年頭賣出し

旭川辨理店にては市内**マツダ**會員より初荷としての豫約注文を提示されたる三百軒の大口需要家へ配達すべき五千餘個の電球を、一月二日午前五時より店員總動員の下に各受持**マツダ**會員の名に於て數臺の馬橋を連ねて鈴の音勇ましく出發した。當日午前六時の氣温は零下廿四度を示したれど、施無畏の兜の緒を締めた一行は少しの寒さも感ぜず、堂々全部の配給を終り凱旋隊の如く歸店したのは正午頃であつた。處が歸店して見ると一行悉く鼻、顎、頬、等に凍傷を起して居るので、摩擦するやら藥を塗るやら大騒ぎをしたが、幸に大怪我はなく、是は觀世音の御加護ならんと一同朗かに開散式を終つた。

釧路辨理店年頭賣出し

釧路辨理店にては一月三日**全光**を主にしたる初荷四千個をトラックに積上げ、宣傳を兼ねたる自動車隊を組織し、店主自ら陣頭に立つて指揮して市内**マツダ**會員五十軒を全部訪問した出發當時荷物を積み残つた儘歸宅する如き事を懸念せる人もあつたが、一行の熱意と初荷の縁起に各店共非常なる好評を以て迎へられ、トラックを空にして意氣揚々引揚げた次第であつた。

東青電氣會社の五W戰術

着々奏効。青森縣地方では以前から銘記燭光と中味の異なる所謂段上りと稱する不徳電球が盗用専門として横行してゐるが、電燈會社も之が取締には手を焼いて居る態であり、此の爲青森市附近約六千軒のメートル需要家にも此のボロ球が大部食い込んでゐる有様である。そこで東青電氣會社では此等メートル需要家使用のボロ電球の大部分が、寢室燈として使用されてゐるのに着目し、我社の五W電球を提げて戸別訪問戦に出て目下盛んに征伐中であるが、其効果顯著なるものがある。試みに同店五W電球だけの賣上に就いて見れば、去年九月には二百十個しか出なかつたものが征伐開始の十月には俄然七百十四個。次なる十一月には八百三十一個と飛躍的累増振を示してゐる。説明の方法は例の電氣算術を使い。此等ボロ球が大抵十錢で二燭でありながら十ワットも食ふ大食球である處から、月の始めに此のボロ球とマツダを兩方買つて、月末に於ける各個の費用の大小を比較して見るに、一日十時間點燈一キロ十六錢とすれば

$$\begin{array}{l} \text{ボロ球} \quad 16\text{錢} \times \frac{16\text{W} \times 10\text{h} \times 30}{1,000} + 10\text{錢} = 58\text{錢} \\ \text{マツダランプ} \quad 16\text{錢} \times \frac{5\text{W} \times 10\text{h} \times 30}{1,000} + 30\text{錢} = 54\text{錢} \end{array}$$

既に始めの月からボロ球の三倍もするマツダランプが四錢得の勘定となり、次の月からは二十四、五錢もマツダより餘分に費用がかかる。そこで「安球買へば月五十錢宛の損」と云ふスロー

ガンを掲げて之を説明して廻つてゐるが、此の説明の効果は却々大したもので殆んど百發百中。此の處新納さん宣傳に大童である。

今日の佳き日

今日は紅象旗戦役東西六優勝師團優勝旗授與式晴れの當日。奇くも此の佳き日に發刊滿一週年紀念日を迎へる我がマツダ又新時報は、此の偶然の一致に限り無き喜びを感じずる次第である。光陰矢の如く紅象旗戦役が終幕したのは昨日の様に感ぜられるが、指折數ふれば第二回戦役開戦して既に其行程の三分の一を終へ、今や正に戦は灼熱のミドル、スパートに入らんとしてゐる。第二回戦役の第一月十二月中の各師團戦績中特に目立つは、相變らず元氣一ばいの北海道部隊の奮闘振であり。旭川の八千八百五十八個鋼路の六千八百五十個、函館の六千五百五十五個等々轡を並べ、再び桂冠目指しての堂々の驀進。其弾力ある底力は全く敬服に値するものがある。全光ラインに於ても道軍斷然トップを切り、酷暑も物かは突撃又突撃と着々確實な歩みを續けてゐる。蓋し道軍の此強味は、期末詰込後の局面を畫光とか全光の様を特殊品に商機を捉へつゝ有利に打開して、兎角ダレ勝の前半戦を引緊め、以て後半戦の乾坤一擲のダッシュに備へる。ある終始一貫ムラのない頑張にあると云へよう。

附

録

會津辨理店學の卷

會津辨理店學

第一章 緒 論

辨理店なる概念は、昭和六年頃から我社に於てフォード自動車會社の地方販賣組織たる、オーソライズト、ディーラ、を研究して案出された吾社獨特の制度である。之が設立の要件としては第一従量燈が比較的多い或一定の地方を區域とする事が必要であり。第二の要件としては其地域はたとへ我社が自らの指導の下に他製品を驅逐し全マツダ化する目的を以て、子會社たる卸會社を設立しても、經費のかゝつて其實を擧げ得ない様な事情を有しなくてはならない。第三の要件としては以上二つの要件を具へた地域に於て、マツダランプ及マツダ真空管の小賣市場統制の爲め、我社業務を代辨し得るに足る有力店が存在する事が必要である。我社の辨理店とは即ち以上の地域に於て此有力店一店を限り我社業務の代行を委嘱して設立したものである。それ故に辨理店は東京電氣の延長であり、其機能は丁度フォードのオーソライズトディーラーに相當するものである。そこで辨理店なる名稱を附けるに當つて、辨理店なる名稱を附けるに當つて、辨理店なる概念の搖籃たる此のオーソライズトディーラーを日本譯せんとして色々研究した

結果、辨理公使等の辨理と云ふ言葉が代理と異り求むる意味を含んだ言葉である事を知り、茲に代理店と云はず特に辨理店なる名稱の下に生れる事となつたのである。辨理店中の特徴の重なるものは次の如きものである。

- 一 辨理店はマツダランプ卸會社設置なき都市に限り之を委嘱し或一定の區域を附與す。
 - 二 辨理店はマツダランプ及マツダ真空管小賣市場統制を目的とし我社出張所業務を代辨す。
 - 三 辨理店は直接間接たるを不問我社製造以外の電球及ラヂオ用真空管を取扱ふことを不得。
 - 四 辨理店は年間或數量の賣上を負擔す可き責任を有す。
- 我社事業部電球課より前述の様な要領で幹部へ提出された伺書は、無事昭和七年二月三日を以て承認となり、愈々辨理店は實現の一步を踏み出すと同時に同日附を以て會津辨理店設立に關する伺書が許可せられ、茲に會津一市五郡に辨理店は誕生する事となつた。

第二章 搖籃時代

第一 會津一市五郡を選んだ理由

何故に會津一市五郡（若松市、南會津郡、北會津郡、大沼郡、耶摩郡、河沼郡）を選んだか、當時會津一市五郡の燈數は次の様な状態であつた。

電燈會社名	定額燈	從量燈	計
田島電燈	七、〇四六燈	九一一燈	七、九五七燈
黒谷川水力	一、三五七燈	三〇九燈	一、六六六燈
御藏入電燈	九六七燈	二七四燈	一、二四一燈
會津電力	五四、三二四燈	三九、八五〇燈	九四、一七四燈
合計	六三、六九四燈	四一、三四四燈	一〇五、〇三八燈

此の數字より一年間の小賣需要個數を推定すれば

定額燈 六三、六九四 × 一・五 × 〇・二 = 一九、一〇八燈
 從量燈 四一、三四四 × 一 = 四一、三四四燈
 小賣需要總額 六〇、四五二燈

前記數字を見れば、從量燈は區域内の燈數中四〇%を占め、而も其の數に於て四萬個を超過し、年間小賣需要總數は約六萬個と推定される。

翻つて當時の同地方電球小賣情狀を顧るに、全區域に於て半期間に使用されるマツダ電球は、僅に帝國聯合より半期に宮森本店二千三百個、前川六百個計二千九百個が取引されるに過ぎず、又電燈會社方面に於ても、會津電力に於ては色々の経緯より、當時は既にマツダ電球の使用、を廢して旭北斗等を使用し、電燈會社小賣兩方面共に殆んど他社製品と安球の蹂躪に委せてゐ

たと云ふ實に情けない状態であつた。そこで辨理店制度の實施による赤箱マツダ征戦に當り先づ會津五郡に白羽の矢が立てられる事となつたのである。

第二 宮森電氣店を辨理店に選んだ理由及經路

斯くして會津一市五郡に辨理店は設置せられる事となつたのであるが、當時の同地方の電氣店の情勢を見るに、有力なるものとしては若松市内に宮森電氣店と前川電氣店の二店があり兩派對立關係を形成してゐた。そこで辨理店を委嘱するに當り、其の何れを取るかと云ふ事が問題であつた。前川さんは當時若松市内の十二、三の電氣店より成る電氣器具商組合の組合長であり又年長者でもあつたが、然し敢て宮森さんを選んだのは次の如き理由があつたのである。

- 一 宮森さんが資産家である事。
- 二 若松市大町五丁目の宮森本店（次弟擔當）の外、同市内に四個所の有力なる支店と本店倉庫の外、驛附近にも倉庫を有し、市内及五郡を各店分擔の進歩的チェーンストアー式經營を爲し、本支店を通じ従業員二十六名を有する事。
- 三 店主宮森清介さんが人格者なる事。
- 四 同店は明治四十三年開業以來、舊帝國聯合電球會社とマツダランプの關係を有してゐたが主として他製品を取扱ひ、當時年間三萬六千個強の他製品を販賣しつゝあつた事。

此等の事情が昭和七年一月實地踏査の結果明瞭となり、宮森さんこそ辨理店を委嘱するに最適任者であると云ふ事が解つた。そこで宮森さんと正式交渉に入り、宮森さんも年間三萬六千個と云ふ事で辨理店を引受ける事を承諾し、茲に下相談は大體出來上つたのである。當時の宮森市の肚は、年間三千個は月三千個であるから、自個直屬の五軒の店ででも一月六百個位は賣り得ると云ふ見込に依りて引受けたものである。が一方東京電氣側は、將來二三年の間には五萬個に達する事を目標として居た。越へて二月八日、いよいよ宮森さんは辨理店を引受けた事の挨拶に上京來社し、非常な決心と感激とを以て歸若したのである。宮森さんが如何に感激したかは、歸若後十二日附を以て本社に寄せられた手紙の中に「斯く御社巨砲の御援助ある上は安じて全員出動販賣數量の向上を目指して精進努力近く快報を以て御應へ仕るべく候」とあり又十九日附の書翰中他を措いて、自分に辨理店を委嘱された事に對し痛く善び、次の様に力強い決心を示してゐる。「小生としては靜觀以て細心にして大膽に場合に依つては一戦をも辭せざる覺悟に有之候、不肖一族郎黨皆一騎當千の勇將にして儼として向ふ所何事かはらざる事のある可き、其の實績は追々御報告申上ぐる計數に依つて御覽下され度候。移り行く世に處して誠に其當を得たる今回の御計畫に對して敬意を表すると共に御期待な汚さるやう屹度努力仕る可く候」とある。

第三 戰 闘 開 始

二月一日附を以て宮森さんより、東京電氣の辨理店を委嘱された旨の挨拶状が、關係各電氣店へ發送され、茲に外部的に會津辨理店は雄々しく若松市の一角に立上つた。一方東京出張所の伊藤公樹さんは會津辨理店駐在員を命ぜられ、十一日夜東京出發翌十二日朝若松着、直ちに宮森さんに面會し今後の事業に對し夫れ夫れ手筈を取極めたが、中にも辨理店を委嘱するに當り最も早く知る事が必要である。宮森さんの在庫品を直ちに調査開始し又電球及真空管の保管場所並に配給方法に就き相談する等宮森さんと種々打合せたが、次いで不足分の印刷物を注文旁々、十六日に開く豫定の會の豫約の爲、東山の向瀧に出掛けた。翌十三日伊藤さんは本社に宮森さんが作成せる卸店契約書を送附し修正を依頼した。十五日夜は望月さん、十六日夕方寺尾課長さんが來若した。豫而辨理店設立に關して會社に對しては其幹部方面に諒解を得る事に努めて居たが、電氣店側に對しては寺尾さんの來若を待ち、十六日夜市外東山向瀧に於て卸店として取扱はしむ可き電氣店主に出席を乞ひ、一夕の宴を張つて一應辨理店設立の趣旨を説明した。其の時種々な議論が生じ、若松市電氣器具商組合を重視せよ、とかなんとか區々たる意見も出たが、兎に角各自四軒以上のサブジラーを設ける事を條件とし了解だけは得、その席上此等の人に小賣店契約書を交附した。然し本社に修正を依頼した卸店契約書は其の時に間に合はず、調印の運びに至らなかつた。出席者は二六商會、東條電機商會、渡邊電機店、神山電機店、前川電氣店、佐藤電氣店、宮森電氣店(本支店)、冠木電機店、廣木電氣店の十軒であつた。此の

十軒を集める爲に伊藤さんは非常に苦心したのであるが、中でも前川商店は伊藤さんが來若するや否や宮森さんに辨理店を委嘱した事の諒解を求めに早速訪問懸命なる努力の結果兎も角了解を得る事を得た。喜多方町は十四日訪問冠木さんを勸説、坂下町は十五日廣木藥店を訪問、同様勸説斯くして前記十軒の人を十六日向瀧へ集め得たのである。當時にあつては組合側と宮森派の對立がハッキリしてゐた爲め、伊藤さんも非常に心配したものゝ如く、十七日附の報告書中當時の情況を述べて「兎に角諒解を求め漸く茲に事業の開始を觀る事と相成る次第にて今後と雖も組合員相互の感情問題等に依り如何なる事が發生するや測り難く候へ共、要は宮森一派(本店共五軒他に喜多方冠木坂下町の廣木)等相當熱心なる態度に有之候故敢て悲觀する要もなく只現在の場合に於ては一人にても敵を作る事は穩當なる策にも無之一致團結して兎に角マツダ化に對して進まれん事を懇請致し置候」云々とある。

十七日午前中望月さん同道で寺尾さんは挨拶の爲會電訪問、伊藤さん同道で、若松市内の卸店挨拶旁々廣告塔の位置を選定した。十七日には不足であつた印刷物も全部出來上り、電球四千四百個も十六日夕方入荷した。宮森電氣店勘定も種々なる經緯はあつたが速かに金錢上の關係は清算せられた。十八日伊藤さんより本社に全光電球を各卸店に宣傳用見本品として提供致し度いから送附を願ふ旨申越し來り、二十二日手配、漸次辨理店はその内容を充實せしめつゝあ

つた。十七日本社電球課より伊藤さんに對し、前記原稿に依つて作成された卸店契約書の二十
二部を發送した。そこで伊藤さんは早速卸店候補者へ順次該契約書を持參して歴訪し、調印を
求めると同時に看板と電球棚を届けた。市内各卸店に於ても、十六日に小賣店契約書を交附さ
れてより全員殆んど一致して小賣店勸説に努め、順次契約締結に努力しつゝあつたが、市外に
於ても喜多方町は冠木商店が一手に引受け、坂下町の廣木商店も二十日には既に三軒の小賣契
約先が出来たと云ふ状態であつた。が然し乍ら伊藤さんが十九日市内の前川、岡野屋、宮森、
(富藏)渡部、二六等の諸店を訪問して其後の情況を偵察して見た所、何分ストックも當時相當
持つて居た爲め、急速に成績を挙げ得ないには皆一様に弱つてゐた模様であつた。當時は又
卸店側に於ても辨理店側に於ても、いづれも地方の情況からして幾分新マツダ球が必要なる状
態であつた爲め、伊藤さんの依頼に應じ早速本社より之が送附せられた。然し眞空管は先般宮
森さん佐藤さん上京の際、註文して置いた分がまだ到着してゐないものもあり、又電球の引札
も到着せず、卸店一同首を長くして其の到着を待つてゐると云ふ有様であつた。伊藤さん駐在
してより茲に二週間、二月はかくて忙しく過ぎたのであるが、此の間一日も晴天とはなく、
積雪は三尺に及び、其の上土地不案内の爲活動意の如くならず、住居も都合上東山の石山方に
定めたが、雪の爲自動車の連絡が絶へた事兩三回、止むなく徒歩で大町通ひをした事もあり、
土地不案内と此の悪天候と戦ひつゝ、東奔西走寧日なかつた伊藤さんの苦勞は並一通りでなか

つた。

明くれば三月、卸店契約も丁度伊勢方面に旅行中であつた前川さんを除き、他は殆んど全部無事
終了。小賣店も四十餘軒に及び、其中喜多方町六軒、坂下町六軒、他は全部市内卸店扱のも
のであつた。尙南會津郡田島方面は積雪の爲め佐藤さんは發足する事を得ず、空しく解雪を待つ
てゐると云ふ状態であつたので、大體此の邊で第一回の勧誘は打切り、出来上つた各個の店に
ついて詳細に調査して見る事となつた。そこで伊藤さんが契約の出来上つた販賣店を地圖上に
順々と記し始めた處、若松市内七日町に於て宮森支店經由の化粧品店と、神山經由の薬店とが、
隣合せに出来てゐる事を發見して驚いた。然し今更一方を立て一方によして貰ふと云ふ事は出
來難いので、兩方共に存立させる事としたが、之は無統制で各卸店に各個別々に小賣店の勸説
を行はしめた結果であり、將來の小賣店契約に際しての得難き教訓を得たのである。而もそれ
と同時に一區域に特約小賣店の過多が却つて販賣促進の障害を來すものである事が解つて來
た。そこで伊藤さんが種々實地調査の結果、若松市内では約五十軒位の取扱店があれば充分で
あり、其他田島方面は五軒、坂下町方面六軒、喜多方町方面六軒、鹽川町方面一軒、猪苗代町
方面一軒計全區域で七十軒が相當の所であると云ふ事が判明して來た。三月一日附卸店及小賣
店名簿に依れば、卸店十軒小賣店四十七軒計五十七軒となつてゐる。

第四 會津電力と交渉經過

伊藤さんは六日上京本社に出社し、種々打合せた後八日の朝若松市へ歸任した。歸るや否や其の日の午後直ちに會津電力會社を訪問したが、生憎と高瀬常務、高橋支配人兩人共不在。そこで手代木營業課長、大東事務部長、渡部技師の三氏に面會し、去る二月二十日辨理店開設以來卸店契約の成立、小賣店の設置、而して若松市内に於ける小賣店の分布状態等詳細に説明し、尙ネオンサインの設置並に印刷物の配布方法等種々懇談諒解を求めた。手代木さんは從來會電の種々なる計劃に對して、非常な熱心さを持つてやつて居られる人であるが、此辨理店事業に對しても種々伊藤さんと意見を交換した。手代木さんは「會電も電熱器やラヂオ受信器等の宣傳に手を染めて見たが、何れも期待通りに行かず、殊にラヂオ受信器に於ては大同のシンガー賣込に幾分力を注ぎ宣傳もして見たが、品質が劣つてゐる爲め事故續出し、所期の成績を収め得なかつた。故に今後若し行ふとせば相當優良なるものをやつて見度い」と云ふ話なので、伊藤さんは「それでは我社のオリオン五球四球二種を、兎も角見本として御貸し致しますから研究の御參考にして頂き、尙又若し今後の催に就て之を利用せらるゝ際は、充分の御便宜を御取計ひ致します。」と述べ且それに附け加へて「三共社製品のシンガー受信器は、會電に限らず若松市内の電氣業者又東京方面のラヂオ商に於ても嘗だ不評判、殊に當地の如きラヂオ聽

取にコンヂシヨンの悪い場所に於ては、該器の四球五球では晝間の聴取が甚だ面白くないのに拘らず、オリオンの見本品として本社より送附を受けた三臺（五球式一、四球式一、ミゼット型一）は、何れも直ちに賣切れ而も其の結果を聞くに晝間に於ても相當成績を擧げて居り、今日迄東京から若松市には種々の種類の型のセットが這入つてゐるが、いずれもオリオンの卓越せるに顔色がないと言ふ自慢話を一席して歸つた、伊藤さんは歸店後直ちに七臺を本社に註文し尙辨理店として一ヶ月相當臺數を卸店に取扱はしめる様、夫々卸店に此の旨通達して置いた。印刷物配布に付ては會電の諒解も出來たので直ちに手配にかゝつた。卸店名入五千枚の新聞折込は、若松市内に三千四百五十枚を撒布したが、各新聞紙に折込んだ割合は東京朝日一千二百五十枚東京日々一千枚、時事七百枚、報知五百枚であり、殘餘の一千五百五十枚は喜多方町で壹千枚、坂下町で五百五十枚夫々東京新聞に折込ませた。三月九日の伊藤さんよりの手紙の一節に「昨晚より降り始めた雪は今朝に於て七寸位の積り方今盛んに降雪中、この猛烈なる降り續きに今朝來市内至つて閑として音なく、其處は朝刊に折込まるゝピラが相當炬燵の中で有効化したものと考へると眞に嬉しく存候」とあり雪に閉ざされ文通杜絶へたる冬國會津の情景が髣髴たるものがあると同時に、伊藤さんが大雪の爲に一枚たりとも無駄なしに讀まれるだらうと喜んだ有様が躍如としてゐる。新聞に五千枚折込むと同時に、特約店用の五千枚も各店に分配された。

三月八日。待つて居た前川さんも伊勢路より歸著したので、九日伊藤さんは早速訪問面會して無事調印を済まし、此れで愈々卸店十店とも全部調印を終つた。尙前川さんの小賣店契約は三軒は早速出來、あとの一軒も同日前川さんの令息が喜多方町へ出掛け作り得る見込が立ち、豫定の軒數に着々進みつゝあつた。

第五 ラヂオ商報

當時會津地方に向け東京の間屋から送附される報に、真空管がまるで御話にならぬ程の安値で記載されてゐた。此等のインチキ商報は一つや二つでなく、例へ宣傳だけで實行性に乏しいものであるにせよ、其の影響は實に甚大である爲め、辨理店側は實に困つたのである。二月分の水野商店卸値月報を見るに約二割乃至三割引を發表し更に三月號に於ては三割引を發表してゐるものが多い。そこで伊藤さんは三月六日上京した際右の状態を詳細報告し、ラヂオ課でも對策が研究せられる事となり、其結果として新に辨理店及其管下の卸店に對し調節が行はれる事となつた。

此等二つの案に依て之迄の賣上が如何程増加するかを伊藤さんが目論んだかと云ふに、二月二十日から二十九日の約十日間に卸店約十軒で真空管賣上個數約百箇であるが故に、即ち從來の條件の儘だとすれば一ヶ月約三百箇、一ヶ年三千六百箇である。處が此の新方法適用の上は一ヶ月約六百箇、依つて一ヶ年七千二百箇の賣上がある計算となり、之を品種別の從來の統計上の數字から考へて見る時、大體左の通りになると推算した。

品 種	個 數	定 價	計
UX226	2,800	1.25	3,500.00
UX122-A	1,800	"	2,250.00
KX112-B	1,400	"	1,750.00
UY227	400	2.50	1,000.00
UX201-A	600	1.00	600.00
UY224	150	3.00	450.00
其 他	50	5.00	250.00
合 計	7,200		¥ 9,800.00

第六 街頭宣傳

雪國會津にも聽て四月の聲を聞くと共に、春は次第に忍び寄つて來た。長い間三尺の積雪と惡戦苦闘して來た伊藤さんの手紙、其筆の運びも見ることから春である。朗らかである。

四月二日附報告書の一節「鶴ヶ丘城址の櫻は當地方面の最も名所とか相成候由にて、永く雪に埋れつゝある人々のこの満開頃に際しては、都會の人々以上に種々なる趣向を凝らして十二分に花見遊山的情緒を味ふとか、其爲の昨今その噂のみに御座候。」如何にも雪が解け萬象更衣刷新の春らしく、かゝる氣持は雪國に育つた者のみ知る喜びである。雪から開放された喜びに自然に戶外へ戶外へと足の向ふ此の時や正に、街頭宣傳に絶好の好期である。愈々會津辨理店第一回の街頭宣傳は、四月二十四日（日曜日）を期して行はれた。當日は近來に無い快晴に恵まれ日曜の事とて、鶴ヶ丘城址、川原町堤、飯盛山に繰出す早咲きの櫻見物、さては前日より東山方面に入湯の團體客の來着、加へて公會堂に東京白木屋出張販賣、之れが早朝より市内宣傳に大童となる等市内は相當の賑だつた。我マツダ宣傳隊も正午辨理店前に勢揃し、零時半マツダの幕を張り廻した二臺の自動車にチンドン屋を同乗させ、一同東京から送附されたマツダのマーク入りのピエロ風の扮装をして出發、先頭の自動車に乗込んだ宮森氏の用意周なる道順案内の許に、市内隈なく廻つて午後五時無事終了した。何分田舎の事とてチンドン屋とか假裝等が珍らしく、車上から撒布するピラを拾ひに殺到して來るので、伊藤さん始め、一同喜びつゝも相當心配したらしく、十五日附の伊藤さんの本報中「都會の人々と異り實に驚く計りの熱心と夢中とにて、ただ交通事故の防止に尠からず惱まされ候」とある。

會津の第一回の街頭宣傳は相當華々しく、初陣としては立派な若武者振りだつた。街頭宣傳費は全部で九拾壹圓拾錢であり、其の内譯は

參	拾	圓	賞品用タオル	三〇〇枚
拾	參	圓	モダンナイフ	一〇〇挺
拾	七圓五拾錢		自動車飾り幕	二帳
拾	圓		自動車賃（四時間半）	二臺
六圓五拾錢			チンドン屋費用	五名
五圓			新聞廣告	
四圓			寫真代	二組
四圓拾錢			挨拶及引換券次第書印刷費	
壹圓			雜費	
計			九拾壹圓拾錢	

四月中の商賣は不振。二月二十日より三月二十日迄はBランプCランプ合計四千三百個であつたのに、四月に入つてからは中旬も過ぎてもまだやつと壹千七百個位しか出なかつた。之は開店と同時に各小賣店に一樣に常備させたが、其後の賣行状態は一般に總て閑散期である爲め

荷動きなく又一面宣傳不足の爲めでもあつた。一方真空管の方は種々便宜を與へられた結果、一般卸商以外のアマチュア一の組立販賣を半職業的にしてゐる方面にも、現金主義で積極的に賣込み、三月中の賣上は貳百八十三個であつたけれども、四月中旬に於ては既に約四百個と云ふ状態であつた。ネオンサインも家主の方面とか警察方面の諸手續は完了したが、電力料金を可及的に安くあげる爲めに主として此の方面は宮森さんに擔當して貰つた。

第七 對組合工作問題

會津辨理店も生れて早や四ヶ月を經過した。だが然し最も難關であつた對組合工作も辨理店側及伊藤さんの異状な努力に依り漸く解決。曙光を見る事を得、遂に六月二十日午後五時より若松市榮町の丸富で愈々會津電氣器具商組合總會開催と云ふ處に迄運んで來た。當日の出席者は組合側では前川さん、島影さん、渡部さん、宮森(富藏)さん、岡野さん、神山さん、佐藤さん大島さん等であり、辨理店側としては宮森(清介)さんと伊藤さんの二人、組合側の池田さんと東條さんは缺席であつた。會は會員の協調的精神の下に極めて朗らかに終始したが此會合こそは實に會津電球小賣販賣史に於ける劃期的大事件であつたのである。伊藤さんは當日の情況を翌二十一日附書面を以て津守販賣部長宛に左の如く報告してゐる。

「前略……只驚異す可き事は何時も代行爲せしむる前川組合長の自身出席 宮森清介さんの組合始つて以來今回が第一回の初見得等 之等が非常に組合員一同の感情を融和させ 總てが談笑裡に終り候 辨理店の設立當時に於て遂に目論見立て成らず終りし(宮森さんと前川さん)の對座が始めて茲に現出せられ 今後之が端緒となり兩者の融和も圖られる事と存じ候 今朝(二十一日朝)前川さん宅へ挨拶に行き候處氣分も晴々しき様子に拜せられ候……後略」斯くて漸次辨理店工作も進展して來つゝあつたが、伊藤さんは七月に入ると共に引揚げの豫定となつてゐたので、引揚後にも事務の處理上支障を來さない様、宮森主人の外若い店員一名(石山博)に東京會社システムを飲込ませつゝあつた。そして更に伊藤さんは辨理店事務取扱章程の起草に取かゝり、愈々出來上つたので六月十二日本社に送附して來た。

五月になつても電球の賣行は依然として前月に引續き不振。辨理店に於ける四月末から五月上旬に於ける賣上數量は誠に僅かであり、五月六日現在では受註僅か約六百個、上半期の締切を控へ實に心細い極みであつた。そこで結局十一軒の卸店に平均三百個宛の受註獲得を開始する事になつたが、然し各店共以前から持越し安球の持合せ豊富を爲め意の如くならず、一面代金回收上の考慮等の結果、遂に平均三百個から二百五十個に低下せざるを得なかつた。伊藤さんが此の間に處し所期の成績を挙げ得ざる惱みが手紙の上に滲み出てゐる。自動車電球に對しては、會津一市五郡の同業者に専ら部分品の供給者たる第一モーター商會の二軒に、現在の卸店

とは無關係で自動車球のみ直接特約し取扱はしめる事とした。他に一二軒此等同業者で取引を希望したものもあつたが、信用状態に缺くるものがあつた爲め今後マツダ自動車球は前記二軒以外には絶體に取扱はしめない事とした。かくして七月に入り伊藤さんも五ヶ月の駐在期間を終へ、愈々會津を去つて歸社する事となつた。

第三章 獨立時代

第一 石山さん内地留學

伊藤さんの引揚と同時に辨理店も搖籃期を離れ、茲に愈々獨立時代に入つた。乍然年間三萬六千個の責任に對比し、月平均一千個では如何に慾目に見ても成績舉りつゝあるものとは言ひ得ない。とは云へ辨理店關係者は營々として其成績の向上に努力しつゝあつた。そこで伊藤さん引揚後の辨理店事務を専任してゐた石山さんをして、昭和八年二月二日より三週間、辨理店の成績を向上せしめる一助として本社では講習を受けさせる事となり、太田照明課長が専任教授となり懇切に指導せられた。講習期間中に學んだ課目は電球學、電球販賣地理、眞空管學、器具學、經理事務學、商戰學、小賣學、修身等極めて廣汎なる範圍に亘つた。電球學と電球販賣地理學は太田さん、その他の課目は各係につき、小賣學と修身とは相當に考慮して説き、若い

石山さんをして非常に感動せしめるものがあつた様である。三週間の實習期間は短い。然し其の道の専門家に聞く一言は千萬斤の重みがある。蓋し一生懸命勉強した此の三週間は彼のピジネスマンとしての一生の土臺となる事であらう。歸る三日前の夜夕食を關係者が共にしての彼の勞を犒いつゝ將來を談じ、二月二十六日若松へ歸つて行つた。必ずや今後は實習し、諸種の學問を實際に應用し、會津辨理店の成績を見違ふ程立派なものにする事と信ずる。

第二 會津辨理店管下の卸小賣店名簿

今年になつて本社當局の心境は一大變化を生じて來た。即ち從來の如き漠然たる小賣網に對する觀念では到底現在全國に汎濫して居る。一ヶ年二千二百八十萬個の町球を驅逐し得ない。然らば如何になす可きか、一途あり、曰く、方面運動(サークル、ムーブメント)により、從來の販賣區域を幾つかの方面に細分し、此の結成されたる細胞を販賣網の基本となし、實際上は之を單位として活躍せしめる事により、始めてマツダ小賣網の完璧は期し得られると言ふのである。此の建前からして從來電球の引札は舊來の販賣區域に於ては皆一樣なものが使用されて來たが、今後は此の方面が基本となるのであるが故に、方面別に各方面の特徴を持つたものを作り且座談會も方面別に行はしめ、小賣販賣上最も障害となる電氣店同志の疑心暗鬼を去り度いと云ふのである。此を徹底して行へば經費はかゝるが結局は此の方針でなければ、マツダ小賣網

たものが眞の住所である。石山さんが歸ると、直に追ひかけて三月二日に此のリスト作成を依頼し今日迄に第一部と第二部のリストが出来てゐる。このリストは色々な事を我々に教へてくれる。米國ではランプは金物店に行かねばならないそうであるが、今此の二つのリストに依つて見る時何んと電球を取扱ふ店の内、本格的電氣店は僅かなパーセンテージを占めてゐる事か!! 會津地方では電氣店とは言ふものゝ、電氣工事は殆んど我赤箱マツダランプとは縁故の無い存在である事が、此のリストに依つて明かに知られるのである。

第四章 結 論

最後に會津辨理店開設以來の成績を通覽して見やう。

創設以來十一ヶ月間の賣上個數と責任數と比較して見る時會津辨理店の成績は四二%、如何に十一ヶ月の總計で二月分が未加算であるとは言へ、實に心細い成績である。殊に昭和七年下期が悪かつた。年間推定小賣電球需要數約六萬個半期三萬個を有する市場に對し、如何に少くとも半期一萬個を下る様では實に心細い次第である。然らばこの不成績の原因は奈邊に存するか? 又果して眞に如斯實蹟が擧らないのであるか? 此れを検討するに當り、先づ第一に考へて見ねばならないのは右の六萬個と言ふ基本數が正確な數字であるか否かと言ふ事である。元來六萬個と推定したのは定額燈を年一・五個從量燈を年一個の使用率とし之に盜用率を〇・二と推定し

$$\begin{array}{r} \text{定 額 燈} \quad 63,694 \times 0.70 \times 0.2 = 8,917 \\ \text{從 量 燈} \quad 41,344 \times 0.7 \quad = 28,941 \\ \hline \text{計} \quad 37,858 \text{個} \end{array}$$

て計算したものであるが、事實會津の如く電壓の低い所では〇・七位が實際に近い數字である。そこで此の計算で次の如くなる。

即ち年間推定需要數は約三萬八千個とする。理想は理想 事實は事實として考へれば辨理店が出来たとて直ぐ該地方がオールマツダになるとは考へられないから 先づ最初の年は此の半分と見て一萬九千個、之丈け獲得すれば落第だけはやつと免れたと言ふ所であらう。所が此の一萬九千個と十一ヶ月間の電球賣總上數一萬五千二百四十六個とを對比すれば八十%となり、先生の所へ頼み込んでやつと御情け及第と言ふ所である。優等生になるには程遠いけれども及第には間違はない。辨理店却店の諸氏の熱度が不足してゐた爲でなく、相當彼等は頑張つては居るが、何分始めての辨理店の事として經驗に乏しく、力の入れ所乃至まだ力の入れ足りない所がある様に感じられる。

今私は現實の會津辨理店の力を比較的事實に即した材料でもつて測り、辨理店關係者の怠慢の故でないかと斷定した。然し之は彼等の辯護のために言つた迄で、我々が此の程度で満足してゐる事を示したものでは斷じてない。否吾々は會津の成績に大に不満を感じるのである。あれだ

けの便宜と費用をかけた辨理店にして、此んな事では實に情けない氣がする。現實の活動は一步々々と着實でなければならぬ。會津辨理店も今は芳しからぬとも、聽ては次第に百%のオールマツダに一市五郡を塗る時も近き將來には必ず來るであらう。其時我々は其處でストツプするのであるか、否々斷じて我々には停止はない。第二段階の事業として従量燈數の開拓事業が控へてゐる。今はやつと麓へ來たばかりである。山が高い、道が悪い、と言つた様な泣言は我々商人には禁物である。兎も角年間四萬乃至六萬個の小賣電球市場が儼として存在してゐる以上、理屈は無用、ただ突貫あるのみである。辨理店は本社の手や足だ、ただ本社の命ずる通り突貫して下れ、ば良い。道が悪ければ工兵も居る。彈藥兵糧は本社の方にまかせれば良い。第二に不振の原因と考へられるのは宣傳が擧げられるのではあるまいか。從來宮森一家で他社製品及十錢球を年間三萬六千個を賣つて居たとしても、それをマツダに置換へんとする時「マツダは高い然し優秀品だから結局は徳である」と言ふ點を、餘程聲を大きくして宣傳せざる限り、三萬六千個は愚か其半數否三分の一も賣れることはあるまい。現今の如く一般的不況殊に農村の疲弊甚しき時に於ては特に然りである。會津では此の宣傳が不充分であつたのはあるまいか。宣傳費は幾らか、つても其れをカバーするだけの賣上があれば問題はないのだから、チンドン屋で御座れ、氣球廣告で御座れ、腦漿しぼつて宣傳に努めなければなるまい。又辨理店員が夜分仕事の暇な時を見計らつてイルミノアムメーターを持參し、従量燈の多い所へ

戸別訪問宣傳を試み、その獲得された球は從來その得意へ入れて居た卸店乃至小賣店に引繼ぎ卸店小賣店の商賣を援助してやる等、幾らでもやる仕事は残つてゐる。商戦には雪も絲瓜もない。雪が降れば雪を利用する雪國獨特の戰術を考案したら良いのである。此の點は大いに辨理店諸氏の奮起を願度い所である。統計の示す所に依ればどうやら今年はスタートの滑り出しが良さそうである。既に三月も暮れなんとし、鶴ヶ丘城址の櫻見物に賑ふのも遠くはあるまい。宣傳に、商戦に、會津辨理店は精銳選つて出動。整調宮森さんの號令一下オールを合せて一舉に從來の不振を取返し、聽ては責任數の三萬六千個は勿論の事、目標五萬個に迄緊禪一番の精進努力が必要である。

之を要するに會津辨理店史に於ては三期に分つて考へる事を得る。先づ第一期は昭和七年二月一日會津辨理店の創設より、七月十日伊藤さんの引揚げ迄の五ヶ月間 第二期は七月十日から昭和八年二月二十六日石山さんの歸若迄の約ヶ月間、第三期は二月二十七日より今日迄である。之等三期の可特徴を見るに、第一期搖籃時代であり本社が辨理店の保育に苦心慘膽したる時代である。此の時代は啻に會津辨理店の創業時代である許りでなく、東京電氣會社の小賣政策の一大轉換期であり、内に於ては從來の殻を破り猛然地方へ進出を開始し、全國津々浦々に至る迄我赤箱マツダの一色で塗り潰さんとする壯圖の門出とも見るを得べく、外に對しては同時に安球の徹底的擊滅の第一歩であつた。更に此を裏面より云へば需要家がより良き經濟的照明を

得べき端緒ともなり、又之を會津一市五郡の電球販賣店に就て云へば、從來の宮森さん對前川さんの二つの大きな流れが一本の辨理店に依つて渾然合流、茲に兩者の隔意なき融和を來す端緒を開く事となつた。創業に携はる人の苦心は常に悲壯である。本社にあつては肝膽を碎き、外にありては三尺の積雪を物ともせず、五尺の短身ただ赤熱の塊と化し、一意専心辨理店の創設に没頭した方々の苦心は並大抵のものではなかつたのである。此の時代こそ將來辨理店の開拓に當り、最も多くの尊き經驗を與へた時代と云ひ得る。第二期は之を獨立時代と見るを得べく、之迄乳兒であつた辨理店がやつと獨り歩きの出來る様になつた時代である。此の時代の辨理店の賣上成績を見るに、丁度母乳から離れた幼兒が當分の間よく病氣し易いのと同様に、前の搖籃時代と比べて遙に其成績が悪くなつて居る。然しそれも初めの間だけで、昭和七年下期末より今期にかけ漸やく其力の充實して來た事を思はせるものがあり、電球に於ては平均月千個以上の賣上を示して來た。二月二日石山君が上京川崎の本社で實習を受け秘策を授けられて歸若するに及び、若人會津辨理店は一躍成年期に入り、事業の完成時代に入りつゝある。最近の石山さんの報告を見るに、イルミノ、アンメーター持參で盛んに戸別訪問を行つてゐる様子であり、又解雪を待つて華々しい街頭宣傳も計劃され、之と同時に方面運動による方面別の販賣店名簿は着々作成されつゝある様子であるから、聽て面目一新舊來の不振を一掃し、以て新興會津の意氣を示す日も遠くはないであらふと確信してゐる。(昭和八年三月)

昭和十年六月十日印刷
昭和十年六月十五日發行

赤箱マツタ考現學

(非賣品)

編輯者兼 坂口 宏

東京市大森區久ヶ原町七九七

印刷者 一色 秀雄

東京市麴町區有樂町一ノ三

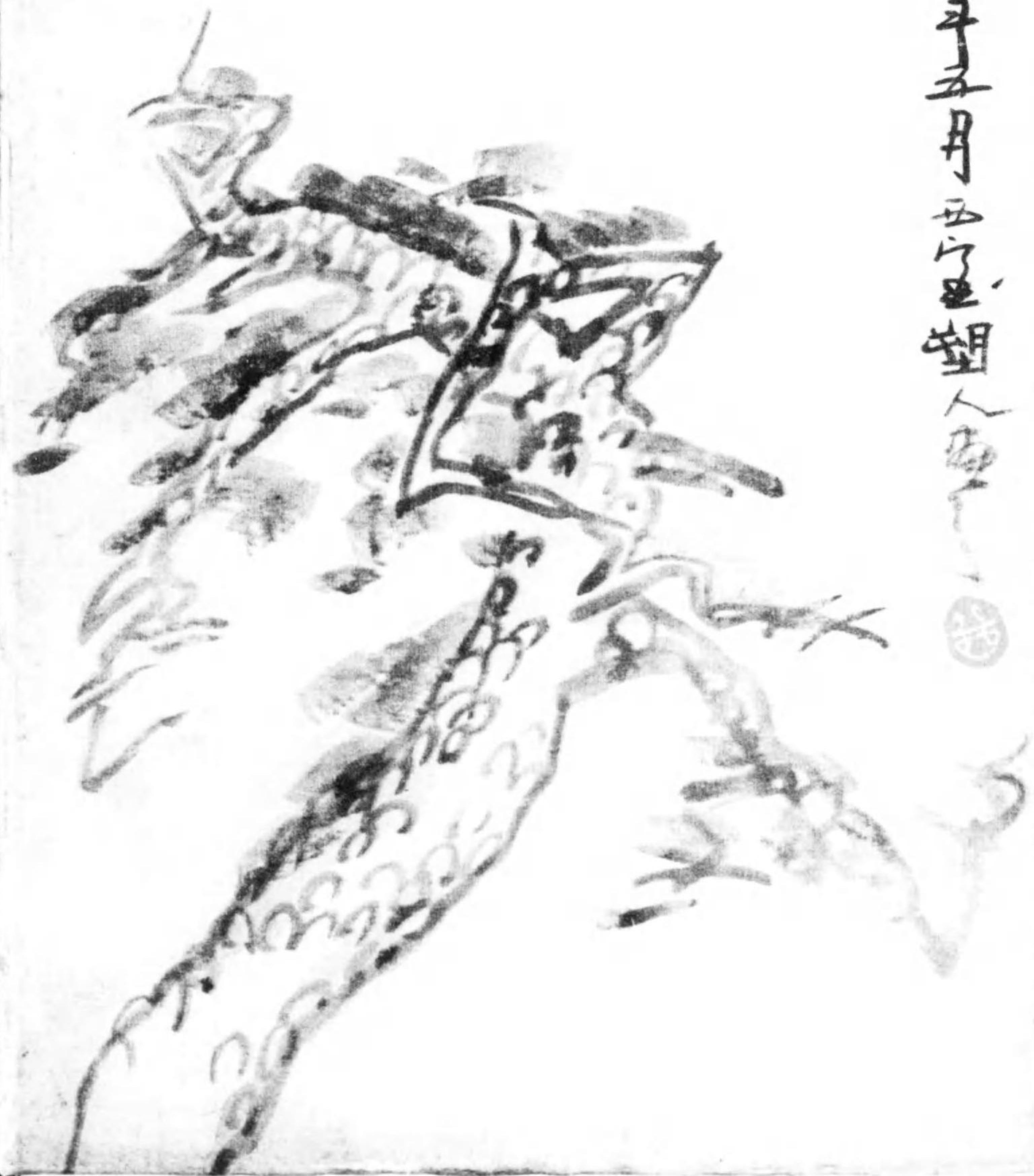
不許
複製

印刷所 株式會社 一色活版所

東京市麴町區有樂町一ノ三

發行所 神奈川縣川崎市 東京電氣株式會社

昭和十年五月五日 望人畫



終